

# 内ヶ崎作三郎著作目録

松田 義男 編

改訂 2019年7月19日

2004年9月27日

## 目次

1. 著書(訳書・共著・序文等を含む)
2. 評論等(新聞・雑誌掲載)
3. 帝国議会衆議院本会議演説

## 付 年譜

## 凡例

- ・著作は、1. 著書(訳書・共著・序文等を含む)、2. 評論等(新聞・雑誌掲載)、3. 帝国議会衆議院演説に区分し、それぞれ年次順に配列した。
- ・原本または掲載誌紙未確認の著作については\*を付した。
- ・叢書名と巻書名がある図書については、巻書名を表題として採用し、叢書名を< >に示した。
- ・単著については、目次構成を【 】に示した。
- ・新聞・雑誌掲載著作は、表題、掲載紙誌、掲載巻号数、掲載月日の順に記した。ただし、日刊新聞の号数は省略した。
- ・連載評論で、初回とその後で表題が異なる場合、原則として初回の表題を採用し、初回掲載に一括して記した。
- ・単行書収録または雑誌掲載評論で、目次と本文で表題が異なる場合、原則として本文の表題を採用した。
- ・ペンネーム(愛天、白山野人、原の人、SU、SU生、U生など)または無署名については≪ ≫に注記した。
- ・新聞・雑誌における常設欄・特集・アンケートなどは[ ]に「 」で示した。特集・アンケートへの寄稿で無題のものは、特集・アンケート表題を著作表題とした。
- ・その他、適宜、注記事項を[ ]に示した。

本著作目録の作成に際しては、石川県立図書館、大阪市立大学学術情報総合センター、大谷大学図書館、岡山市立中央図書館、お茶の水図書館、関西大学総合図書館、神戸大学社会科学系図書館、高野山大学図書館、国立教育政策研究所教育研究情報センター教育図書館、国立国会図書館、金光図書館、島根県立図書館、天理大学付属天理図書館、東京大学総合図書館・同アメリカ太平洋地域研究センター・同大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫、同志社大学人文科学研究科・同文学部研究室、奈良女子大学附属図書館、日本近代文学館、兵庫教育大学附属図書館、宮城県図書館、早稲田大学附属図書館より資料閲覧の便宜を得ました。また、誤記・脱漏について、小野寺宏編「著作目録」(『内ヶ崎作三郎の足跡をたどる』小野寺宏、2007年)887~1012頁を参照し補訂しました。付記して謝意を表します。

## 1. 著書（訳書・共著・序文等を含む）

聖書と世界文学『聖書小観』東京基督教青年会編、警醒社書店、1904年4月28日

『人生と文学』＜評論集＞警醒社、1910年5月5日【理想的雄弁家の標準、伝記文学の推奨、チャールズ・キングスレイを論ず、雄弁家としてのトマス・カーライル(英雄論の由来)、清教主義とジョン・バンヤン、ラスキンの修養時代、カロリン・ハーシエル、ソローの『ワルデン』、アルプス山の画工ジェー・パンニイ・セガンチニー、近代英米宗教家の面影、偉大なる生涯の転機、猪苗代湖、両羽の自然と人、吾庭の春、薫風清香録】

『虞翁論』ジェームズ・ブライス著＜訳書＞、博文館、1911年7月25日＜国立国会図書館所蔵版では、7月29日印刷、8月1日発行と訂正されている＞[原著：William Ewart Gladstone, *his character as a Man and State Man*] 【1 総説、2 少壮時代の感化、3 議院政治家としての虞翁、4 雄弁家としての虞翁、5 独断の卓識と独立の精神、6 著者としての虞翁、7 翁の宗教的風格、8 結論、附録(虞翁の父に贈れる書翰、虞翁の愛児に与へたる書翰)】

『英国より祖国へ』＜評論集＞北文館、1911年12月19日【1 オックスフォード対ケンブリッジ短艇競漕、2 カーペンター先生のことども、3 市会堂に於けるキャンベル氏、4 エヴアン、ロバーツと語る、5 アイシス河畔の春色、6 学生基督教青年会万国大会の側面観、7 復活祭、8 バーミングハム監督とカノン、ヘンソンとの対抗、9 市会堂総会のキャンベル牧師に対する信任、10 キャンベル牧師対呉服商会議、11 ブース大将八十年祝会、12 菜食主義、13 教界近事の様々、14 女子教育問題、15 防火と社会道徳、16 収穫感謝祭、17 研究的態度と宗派根性の脱却、18 クリスマス前、19 オックスフォード市公会堂に於けるカルゾン卿の伊藤公追悼演説、20 オックスフォード大学に於ける日本語の講座、21 英国人の政治的訓練、22 英国国民の常識とその素因、23 オックスフォードの三大神学者、24 英国職工社会の道徳宗教的生活の観察、25 日英博覧会の評判、26 開会第一日の印象、27 哲学と詩歌との郷土、28 積極的英国婦人と消極的日本人との対照、29 活動的英国婦人の代表者、30 婦人解放の真意義、31 南欧観光録、32 別れの旅路、33 地名に顕はれたる米魂、34 米国文明の印象】

キャンベル氏評論『新神学』R.J.キャンベル著・今岡信一訳、北文館、1912年3月3日

序『？の人 科学小説』H・G・ウエルズ著・堀口熊二訳、東亜堂書房、1913年3月9日

『近代人の信仰』＜評論集＞警醒社書店、1913年6月28日＜国立国会図書館所蔵版では、27日印刷、30日発行と訂正されている＞【無意識の偉大、宗教生活の芸術的内容、我何の為に生くべきか、霊的生命の反抗、現代生活の權威、「生の力」に関する論争、「生の力」の本質、実生活に働く信仰の力、政治の改革か心霊の覚醒か、ダンスンチオーの歌劇と新神秘主義、祖国の政治家、学者、文士に対する要求、日本の基督教徒に与へて教派合同を論ずる書、欧州宗教界の新生命、ベルグソンの哲学と基督教、欧米に於ける祖先記念の風習、田園の宗教的情味、大なる時代の影、宗教と教育との交渉、大都市の靈感、現代英文学の宗教的情調】

感想『芳舟遺稿』川村芳舟著、1913年7月28日

『ロイド・ジョージ』前川文栄閣、1913年12月5日【第1章 その生ひ立、第2章 幼年時代の感化、第3章 遂に弁護士となる、第4章 ウェールス国民主義の宣伝者、第5章 宿望漸く成る一代議士に当選す、第6章 「ウェールス青年党」の指導者、第7章 政治的活動の一転機、第8章 南阿戦争と彼の態度、第9章 ウェールス教育制度の改革、第10章 台閣に立つ一月桂冠、第11章 彼を中心として観たる英国最近の政界、第12章 彼を中心として観たる英国最近の政界、第13章 会談対話に現はれたる彼の政見、第14章 「舌戦の人」としてのロイド・ジョージ、第15章 彼に対する世評の一斑、附録「平民演説」】

西川夫人の新著に題す『婦人解放論』西川文子著、中央書院、1914年2月15日【複製版：『婦人解放論』＜叢書『青鞜』の女たち 第16巻＞不二出版、1986年】

『白中黄記』実業之日本社、1914年2月25日

序文『ベルグソンと現代思潮』野村隈畔著、大同館、1914年5月31日

小泉八雲先生を懐ふ『ラフカディオ・ヘルン小泉八雲』田部隆次著、早稲田大学出版部、1914年4月18日[同書は、訂正増補して『小泉八雲全集 別冊』(第一書房、1927年12月20日)として刊行(第2版)、第2版の復刊：第一書房、1934年、増補改訂第3版：北星堂書店、1950年6月、第4版：北星堂書店、1980年]

『英国及英国人』<時事叢書 第11編>富山房、1914年11月28日【第1章 英国の自然美観、第2章 英国国民の歴史、第3章 英人の国民性、第4章 紳士淑女の郷土、第5章 ロンドンの偉大と秘密、第6章 運動遊戯狂の英国人、第7章 ロンドンの国際社会、第8章 大英帝国の過去と将来】

『近代文芸之背景』<教育講座第5編>日本学術普及会、1914年12月29日【第1章アリヤン民族の起源と移動、第2章希臘文明の瞥見、第3章希伯来思潮略説、第4章文芸復興、第5章近代思想の曙光、第6章産業改革、第7章婦人の覚醒、第8章享楽主義の天地、第9章読書階級としての民衆、第10章近代仏蘭西の文芸、第11章近代露西亜の文芸、第12章近代スカンジネヴィヤの文芸、第13章近代伊太利の文芸、第14章近代独逸の文芸、第15章近代英国の文芸、第16章結論、附文学と宗教(真と美と生命、文芸復興より宗教改革へ、ヂョオルヂ・バーナード・ショウの印象、印度の大詩人ラビンドラナート・タゴール、英文学史に於けるオックスフォード大学の位置、生命の源—文化の泉)】

第三帝国を叫びたるは野の人『樗牛兄弟』太田資順編、有朋館、1915年6月20日[復刻：『高山樗牛研究資料集成 第1巻』(クレス出版、2014年)収録]

『人生日訓』[編]大日本図書、1915年10月1日

序『アダム以前』ジャック・ロンドン著・篠崎彦三郎訳、洛陽堂、1916年6月23日

現代青年の雑多なる煩悶は斯くして解決す可し『現代立志成功編 堅実の地歩』奎文館、1916年12月12日

英国の宗教『英国研究』教育學術研究会編、同文館雑誌部、1917年4月7日

[無題推薦文]『男女道徳論』一條忠衛著、大同館、1917年5月28日

郷土的背景[跋]『煉瓦の雨』沖野岩三郎著、福永書店、1918年10月1日

基督教倫理の特色『最近倫理学の進歩』尼子止編、早稲田同文館雑誌部、1918年11月20日

『ロイド・ジョージ』<時局の生める四大人豪>早稲田大学出版部、1919年4月4日<国立国会図書館所蔵版では、7日印刷、10日発行と訂正されている>【第1章 世界大戦とロイド・ジョージ氏の偉勳、第2章 ロイド・ジョージ氏の家庭的背景、第3章 リチャード・ロイドの献身的生活、第4章 寧馨児の村学時代、第5章 ウェールスの田舎町の精神的雰囲気、第6章 青年弁護士より代議士に、第7章 パーミングハム市公会堂の一大椿事、第8章 大蔵尚書の任命と「人民予算案」、第9章 大戦争の突発と戦時財政々策、第10章 軍需品省の新設、第11章 懲兵令とアルコール問題、第12章 キチナー將軍の後任者、第13章 アスキス内閣の総辞職、第14章 ロイド・ジョージ氏新内閣を組織す、第15章 新内閣の成績、第16章 戦術家、外交家、雄弁家としてのロイド・ジョージ氏、第17章 大戦の終局と英国政界の将来】

感謝すべき我等の生『名士の観たる女世渡りの道』島中雄作編、本郷書院、1919年4月15日

『アブラハム・リンコルン』<英傑伝叢書 第9編>実業之日本社、1919年5月1日<国立国会図書館所蔵版では、5日印刷、10日発行と訂正されている>【第1章 寒村の産声、第2章 飄零の生活、第3章 勤勉なる少年、第4章 荒原の労働、第5章 人生の初旅、第6章 義勇兵隊長、第7章 野に咲く乙女、第8章 政界の第一歩、第9章 巡回弁護士、第10章 下院の雄弁家、第11章 家庭の主人、第12章 奴隷問題と政争、第13章 両雄の論戦、第14章 合衆国分裂の危機、第15章 政界の中心人物、第16章 法律事務所より白聖館へ、第17章 南北戦争の勃発、第18章 軍国の統率者、第19章 内閣の動搖、第20章 戦線の視察、第21章 北軍の不振、第22章 戦塵の悲涙、第23章 奴隷解放の宣言、第24章 白聖館の生活、第25章 戦局の轉換、第26章 大統領の再選、第27章 平和の曙光、第28章 義人の血潮】[「リンカーンの少年時代」と題して『現代伝記文鈔』(光風館書店、1926年)抄録]

『人生の根本問題』海外植民学校出版部、1919年6月23日[良書刊行会、1920年]【1 生活の根本問題(労働論、快樂論、性慾論、信仰論)、2 勇氣論(積極的勇氣、常に競争者ありと思へ、人皆天才、常に第一等を志せ、消極的勇氣、怒るな敗けて勝つべし、下を見るな上を見よ、勇氣は品性をつくる)、3 人間の務め(爪を長くした小学先生、旦那と云ふ言葉の弊害、勉学も政治も労働である、縁の下の力持ち、他人を羨む勿れ、働く者に心配なし)、4 神様は労働者である(アンコ魚の話、何故働かねばならぬか、誰でも職人である、報酬を八釜しく云ふな、巡査は十万円以上の仕事をして居る、百三十億円の仕事をした飯医者、眼を開いて宇宙を見よ、神の心と我心と一所になつて働く)】

思出多き布袋町の夏季講習『吉田東伍博士追懷録』高橋源一郎編・刊、1919年9月5日

『国際聯盟』<世界改造叢書第9編>早稲田大学出版部、1920年4月18日【第1章世界大乱の終局、第2章人類の發達と社会单位の拡大、第3章明治年間に於ける国家觀念の發達、第4章世界史に於ける聯盟運動、第5章過去の平和會議失敗の原因、第6章思想家の平和觀と国際聯盟觀、第7章国際聯盟の先驅者、第8章国際聯盟の成立とその内容、第9章国際聯盟規約の批判、第10章将来の展望】

半島文化問題としての朝鮮[9月22日(於神田青年會館)自由討究社主催朝鮮問題講演會]『東經正義 朝鮮問題講演集』<鮮滿叢書 第5卷>自由討究社、1922年11月1日

世界文化の趨勢[岡山県教友會における講演筆記]『現代社会問題文化大学十六講』長田暁玄編、維新社、1923年12月12日

『鼎浦の家庭生活と病魔』、『政治家としての鼎浦』『鼎浦全集』[内容見本]鼎浦全集刊行会、[1923年]

序『タゴールの哲学と文芸』吉田絃二郎著、大同館、1924年4月8日

雄弁史『雄弁学講話』雄弁学会刊、1924年11月27日[『雄弁学講座』(雄弁学会編・刊、1925年5月5日)、『雄弁学講座 上巻』(日本雄弁学会編・潮文閣刊、1928年10月1日)、『雄弁学講座 上巻[改訂増補]』(成光出版部、1929年2月1日)、『雄辯學講座 全』<改訂増補>(潮文閣、1929年8月10日)収録。6版(1931年)の復刻新装版：成光出版企画、1983年]

米国に於ける最新の宗教改革運動『現代思潮大觀』同文館編輯部編、同文館、1924年12月25日

日本文化の紹介者としての小泉八雲先生『明治文化の記念と其批判』森脇美樹編、大日本文明協會事務所、1925年3月10日

『久遠の基督教』に題す『鼎浦全集 第二卷』鼎浦會編、鼎浦會事務所、1925年7月5日

『人生学』教育研究会、1926年2月10日【第1講 人生学の成立、第2講 生命の神秘と物質の驚異、第3講 生物学の生命觀、第4講 生命の派生と進化、第5講 人類發達の三要素、第6講 人類一元説、第7講 人種の典型の由来、第8講 人生の環境としての大陸、半島及び島、第9講 衣食住の諸問題、第10講 保健の諸問題、第11講 人生に於ける遊戯娛樂の意義、第12講 性の問題、第13講 国家主義と国際意識、第14講 宗教と科学との關係、第15講 宗教の進化、第16講 人生終局の目的と靈魂不滅】

『第五十一議會報告書』[非売品]、[1926年]

北日本第三黄金時代の實現『現代名演説集』<『雄弁』19-1 別冊附録>大日本雄弁會講談社、1928年1月1日

教育家の典型『成瀬先生伝』仁科節編、桜楓會出版部、1928年4月20日[復刻版『成瀬先生伝』<伝記叢書 56>大空社、1989年]

教育家の典型『成瀬先生追懷録』日本女子大学校二十五回生編、桜楓會出版部、1928年4月20日

東北文化史論『通俗講話 ラヂオ講演 第2卷』日本ラヂオ協會、1928年8月15日

\*序文『郷土の薫を索ねて』高橋清六著、福音書店印刷部、1928年

ロイド・ジョージの非戰論 南阿戰爭反対の熱叫『世界大雄弁物語集』<『雄弁』20-1 別冊附録>大日本雄弁會講談社、1929年1月1日

- 『リンカーン』実業之日本社、1929年5月1日[『アブラハム・リンコルン』の改訂版]【第1章 幼少年時代、第2章 青年時代、第3章 壮年時代、第4章 晩年(第1節 法律事務所より白聖館へ、第2節 南北戦争始まる、第3節 戦塵の悲涙、第4節 奴隷解放の実現、第5節 白聖館の生活、第6節 戦局の好転、第7節 平和の曙光、第8節 義人の血潮】
- 鷄群の孤鶴、餅屋の餅『議政壇上を直視して』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929年5月15日[国立国会図書館所蔵版では18日刊に訂正]
- 後藤伯の思ひ出で『吾等の知る後藤新平伯』東洋協会、1929年7月17日
- 江戸時代に於ける改革運動と今日の緊縮政策『自治記念講演集』<市政叢書 第3輯>東京市役所、1929年11月23日
- 文明益あり[「文化の発達は人類に幸福を齎らすや否や」]『現下の諸問題は非対抗熱弁集』<『雄弁』第22-1附録>大日本雄弁会講談社、1931年1月1日
- 『羅馬衰亡史 五』<世界大思想全集第2期 第25巻>ギボン著<訳書>春秋社、1931年4月15日[国立国会図書館所蔵版では訂正しているが不鮮明で判読不可]
- 『如何にして農村を救ふべきか 農村応急対策座談会』東京日日新聞経済部編、創造社、1932年7月15日[6月11日、大阪毎日・東京日日新聞社主催農村応急対策座談会(於東京会館): 東武、有馬頼寧、小川郷太郎、岡田温、大口喜六、加藤完治、加藤知正、上山満之進、後藤文夫、杉山元治郎、千石興太郎、添田敬一郎、東郷実、那須皓、中野正剛、深井英五、福沢泰江、松村謙三、三土忠造、森恪、矢作栄蔵、矢野恒太ほか]
- 「故井上準之助氏追悼会 追悼会演説速記録 昭和七年三月二十六日東京一橋学会館」中の追悼演説『故井上準之助氏追悼録』第二高等学校同窓会、1932年8月8日
- その高風を仰ぐ[「高木翁に関する諸名家の感想」]『高木正年自叙伝』横山健堂編、代々木書院、1932年12月8日[復刻版『盲人たちの自叙伝 1 高木正年自叙伝』大空社、1997年]
- 民政党青年部新設の動機と理想『政治家の観たる現代政治と其動向』高橋清治郎編、物を聞く会、1933年3月25日
- 戸惑ひ事件『笑ひの日本』<『日の出』2-8、第1附録>新潮社、1933年8月1日<群馬県立図書館所蔵>
- 光りの人『光子の声其他』川合幸信編、中村有楽、1933年9月5日
- 日本画の礼讃『現代名士大討論集 是非対抗』<『雄弁』25-1 第1付録>大日本雄弁会講談社、1934年1月1日
- 『第六十五議会報告書』<非売品>1934年6月
- 序『ラスキン研究その他』<非売品>内ヶ崎浩一郎著、内ヶ崎作三郎、1936年5月20日
- 高野山に寄進したる愛染明王の古仏画に就いて『ラスキン研究その他』<非売品>内ヶ崎浩一郎著、内ヶ崎作三郎、1936年5月20日
- 坪内博士の死を悼むー衆議院に於ける賛成演説ー『輓近十分間模範演説と挨拶の仕方』岡村書店、1936年9月25日
- 本郷教会時代の憶出『本郷教会創立五十年』本郷教会、1936年10月4日
- 恭悼 頭聯自由詩『故栗野健次郎先生追懐録』<『同窓会報』43号附録>第二高等学校同窓会、1936年12月24日[復刻『故栗野健次郎先生追懐録』(『東北文学論集』<栗野健次郎特集>9、1994年)]
- 序『明治初期に於ける高山県政治学的研究』志見正次著、高陽書院、1937年10月31日[国会図書館所蔵版では11月18日と訂正]
- 東亜文化史上より見たる支那事変[1937年11月講演(於鉄道官吏養成所)]『諸名家大熱弁集 起て!国家総動

- 員の秋』<『雄弁』第一付録>大日本雄弁会講談社、1938年1月1日
- 沖繩にて[短歌1首]『新万葉集 卷1』改造社、1938年1月20日
- 朝鮮金剛山にて[短歌3首]『新万葉集 卷1』改造社、1938年1月20日
- 大正十四年三月二十九日普選案の成立せるを祝ひて[短歌2首]『新万葉集 卷1』改造社、1938年1月20日
- 松嶋にて[短歌1首]『新万葉集 卷1』改造社、1938年1月20日
- 天の橋立にて[短歌1首]『新万葉集 卷1』改造社、1938年1月20日
- 「仙台方言集」序『仙台の方言』土井八枝著、春陽堂、1938年4月20日[復刻版：国書刊行会、1975年]
- 支那の民族性と教化運動[1938年4月22日講演]『儒道報国時局大講演集 第四輯』斯文会、1938年10月30日
- 巻首に叙す『口腔衛生二十五年』小林商店、1938年12月30日
- 『支那に於ける欧米文化の勢力に就て』[1938年10月1日講演於仏教聯合会主催支那開教講習会]内ヶ崎作三郎、[1938年]【1 総序 支那事変の意義、2 長期建設の覚悟、3 天主教の勢力、4 耶蘇教の活動】
- 序『創立二十周年記念誌』多田正知編、斯文会長岡支部、1938年
- 祝詞[1938年12月1日於東亜振興会総裁・副総裁・顧問推戴式]『東亜振興会の近況』山下政次編、東亜振興会、1939年1月1日
- 支那に於ける欧米文化の勢力に就て『新東亜の建設と仏教』仏教連合会編・刊、1939年4月29日
- 大陸建設と我が教育の改革『動乱の世界と興亜日本 各界名士時局熱論集』<『雄弁』31-1別冊付録>大日本雄弁会講談社、1940年1月1日
- 序『集団勤勞の菜』重見武平著、泉書房、1940年12月10日
- 挽詩『紫安弥寿子と生家真野家』紫安新九郎、1941年8月1日
- 「[樗牛を偲ぶ座談会](1941年6月1日)での「即興頭聯句自由詩」]『高山樗牛冥想の松』成田正毅編、冥想の松保存会、1942年3月1日
- 天才樗牛の種々相[1941年6月1日講演於「樗牛を偲ぶ文芸大講演会」]『高山樗牛冥想の松』成田正毅編、冥想の松保存会、1942年3月1日
- 「九人の聾兵士」に題す『九人の聾兵士』二宮有薫編、金星堂、1943年2月20日
- 決戦内閣に列しての機略『島田俊雄先生 勤続表彰記念』沖島鎌三、1945年3月20日
- 海老名弾正宛書簡[明治34年12月17日、明治37年7月27日、明治39年11月16日、明治41年7月11日、10月29日、12月16日、明治43年1月15日、5月25日、明治44年1月13日、大正2年4月6日、年不詳1月19日]小野寺宏著『内ヶ崎作三郎の足跡をたどる』非売品、2007年[書簡原本は、同志社大学人文科学研究所所蔵『海老名道子所蔵海老名弾正文書』中]

## 2. 評論等(新聞・雑誌掲載)<1176 篇>

### 1897(明治 30)年

はつ霞[「文苑」]『尚志会雑誌』19、2月18日<巖峰>[<鋼舎>との連名で、詩4篇(わが身/夜半/笑/海国男児の歌)]

### 1900(明治 33)年

一日に頭はるゝ永遠の経営『新人』1-5、6、8、9、12月1日、**1901年**1月1日、3月1日、4月1日<愛天生>

### 1901(明治 34)年

詩材範囲の拡張を論ず[「文学欄」]『新人』1-9、4月1日<愛天生>

徳富蘆花の「思ひ出の記」を評す[「文学欄」]『新人』1-9、4月1日<愛天生>

西海遺珠[「文学欄」]『新人』1-10、11、3-2、5月1日、6月1日、**1902年**9月1日<愛天生>

詩人の一とせ[「文学欄」]『新人』2-3、4、10月1日、11月1日<愛天生>

キップリング氏に対する批難[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』7-10、10月10日<愛天生>

ヂョルヂ、メレデス氏の近業[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』7-10、10月10日<愛天生>

晃山の秋[「文学欄」]『新人』2-5、12月1日

露西亜の新小説家[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』7-12、12月10日<愛天生>

薄倖の文人[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』7-12、12月10日<愛天生>

ゲーテ崇拜熱に対する反抗[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』7-12、12月10日<愛天生>

法律及び風習に影響を及ぼしたる小説[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』7-12、12月10日<愛天生>

イブセンの近状[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』7-12、12月10日<愛天生>

### 1902(明治 35)年

メレジコースキの大作[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』8-1、1月10日<愛天生>

チャールス、キングスレイを論ず[「論説」]『帝国文学』8-2、3、9、12、2月10日、3月10日、9月10日、12月10日[『人生と文学』収録]

千九百〇一年の英文学概観[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』8-2、2月10日<愛天生>

米国の二詩人[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』8-3、3月10日<愛天生>

アルプス山の画工ジョーバンニイ、セガンチニイ[「海外騒壇」]『文芸界』1、3月15日<愛天生>[『人生と文学』収録]

伝記文学の推奨[「雑報」]『帝国文学』8-4、4月10日<愛天生>[『人生と文学』収録]

独逸の小説家オンブレダ[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』8-4、4月10日<愛天生>

重要なる英国諸評論の歴史、主義及び現状[「海外騒壇」]『文芸界』2、3、4月15日、5月15日<<愛天生>>  
海の詩趣『新人』2-12、7月1日<<愛天生>>  
露西亞魂とは何ぞや[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』8-7、7月10日<<愛天生>>  
銷夏文学を論ず[「雑報」]『帝国文学』8-9、9月10日<<愛天生>>  
レズリイステブン氏の叙爵[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』8-9、9月10日<<愛天生>>  
希臘の愛国詩人[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』8-10、10月10日<<愛天生>>  
カーライル『英雄論』の由来[「論説」]『早稲田学報』76、78、80、11月25日、12月25日、1906年2月25日[「雄弁家としてのトーマス・カーライル(『英雄論』の由来)」と改題『人生と文学』収録]  
文学的成功の秘訣如何[「雑報」]『帝国文学』8-12、12月10日<<愛天生>>

### 1903(明治 36)年

朝の歌(ジョン、ケイブル)[「文苑」]『新人』4-1、1月1日<<愛天生>>  
懸賞当選新体詩を評す[「雑報」]『帝国文学』9-1、1月10日<<愛天生>>  
エミール、ゾラ[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』9-1、1月10日<<愛天生>>  
誰か果してトルストイ伯の後継者たる可きか[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』9-2、2月10日<<愛天生>>  
ビョルンソンの第七十回誕生祭[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』9-3、3月10日<<愛天生>>  
米国文学は何故に劣等の位置にありや[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』9-3、3月10日  
『黒潮』第一巻を読む[「批評」]『帝国文学』9-3、3月10日<<愛天生>>  
ブラウニングの人生観『帝国文学』9-4、4月10日  
吾庭の春[「文苑」]『新人』4-5、5月1日<<白山野人>>[「吾庭の夏」(『新人』4-9、9月1日)と合わせて「庭の春」と改題、『人生と文学』収録]  
英詩人野口米二郎氏[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』9-8、8月10日<<愛天生>>  
吾庭の夏[「文苑」]『新人』4-9、9月1日<<白山野人>>[「吾庭の春」(『新人』4-5、5月1日)と合わせて「庭の春」と改題、『人生と文学』収録]

### 1904(明治 37)年

わが書齋の記『新人』5-1、4、1月1日、5月1日<<原の人>>  
口絵『信、愛、望』の解題[「雑報」]『帝国文学』10-1、1月10日<<愛天生>>  
チャールス・ワツレン・ストッダード氏[「海外騒壇」]『帝国文学』10-1、1月10日<<愛天生>>  
故モンゼンの逸話[「雑報 海外騒壇」]『帝国文学』10-3、3月10日<<あいてん>>  
時代思潮第一号[「雑報 批評」]『帝国文学』10-3、3月10日<<あいてん>>  
理想的雄弁家の標準『早稲田学報』99、100、3月25日、4月25日[『人生と文学』収録]  
ラスキンの戦争観[「雑纂」]『時代思潮』5、7、18、6月5日、8月5日、1905年7月5日



横須賀旅行の記『新人』5-7、7月1日<原の人>  
草美論[「文苑」]『新人』5-10、10月1日  
故小泉八雲先生[談、「譚叢」]『新小説』9-11、11月1日  
『思潮評論』を読む[「論説」]『新人』5-11、12、11月1日、12月1日  
小泉八雲先生を追憶す『早稲田学報』108、11月1日  
小泉八雲氏逝去『時代思潮』10、11月5日<愛天>  
誕生より来朝までの小泉八雲先生『帝国文学』10-11<小泉八雲氏記念号>、11月10日  
雄弁の時代通りぬ[「時評」]『新人』5-12、12月1日<巖峰生>

### 1905(明治38)年

蒼空の美(ラスキン「近世画家」中より抄訳)[「雑録」]『新人』6-1、1月1日  
新曲浦島を紹介す[「時評」]『新人』6-1、1月1日<巖峰生>  
注目すべき新刊小説[「時評」]『新人』6-1、1月1日<巖峰生>  
[「表題画」中の短歌一首]『新人』6-1、1月1日<原の人>  
[無題の短歌一首]『新人』6-1、1月1日<原の人>  
専制時代[「帝国文学創刊十周年回想録」]『帝国文学』11-1、1月10日  
沙翁の宗教[「雑録」]『新人』6-2、2月1日<愛天生>  
先づ技術を修めよ[「時評」]『新人』6-2、2月1日<巖峰生>  
基督画像の歴史及び確定[「雑録」]『新人』6-3、3月1日<愛天生>  
早稲田大学野球部選手の外征を送る[「時評」]『新人』6-3、3月1日<巖峰生>  
仙台紀行[「彙報」]『新人』6-5、6、5月1日、6月1日<愛天生>  
小説家に対する要求[「現代小説八面観」]『新潮』2-6、5月15日  
海の歌(エマルソン)[訳詩]『白百合』2-9、7月1日  
如何にしてこの夏を過すべき乎『基督教世界』1143、7月27日  
ジョンバンヤンの性行[7月21、22日、第17回夏期学校講演梗概(於神戸関西学院講堂)]『基督教世界』  
1144、8月3日  
関西の初旅[「彙報」]『新人』6-9、9月1日<愛天生>  
覚醒せよ基督教徒[「時評」]『新人』6-10、10月1日<巖峰生>  
不満足の講和は天佑である[「時評」]『新人』6-10、10月1日<巖峰生>  
水の啓示[8月6日講演概略(於本郷教会)、文責在記者]『新声』13-4、10月1日<内ヶ崎愛天>  
ブライアン氏の教訓[「時評」]『新人』6-11、11月1日<巖峰生>  
基督の誕生(口絵の解題)『新人』6-12、12月1日  
[「一、恋愛に対する見解 二、自由恋愛を是認すべき乎 三、之を是認するとせばその自由の範囲如何」]『火

鞭』1-4、12月10日

### 1906(明治 39)年

- 基督と小児(口絵の解題)『新人』7-1、1月1日<<愛天生>>  
帝国大学の独立問題[「時評」]『新人』7-1、1月1日<<巖峰生>>  
東北の兇歎に就て天下に訴ふ[「時評」]『新人』7-2、2月1日<<巖峰生>>  
東北地方の教友に寄す[「時評」]『新人』7-2、2月1日<<巖峰生>>  
翔天吉野君を送る[「時評」]『新人』7-2、2月1日<<巖峰生>>  
隠れたる英雄[「時評」]『新人』7-3、3月1日<<巖峰生>>  
コンノート殿下を歓迎す[「時評」]『新人』7-3、3月1日<<巖峰生>>  
クルムマッヘルの譬話三則[訳]『新人』7-4、4月1日<<愛天生>>  
基督の洗礼[「時評」]『新人』7-4、4月1日<<巖峰生>>  
組合教会集中伝道の先鋒[「時評」]『新人』7-5、5月1日  
霊覚の春『新人』7-5、6、5月1日、6月1日  
米国少女佳譚『新人』7-6、6月1日  
帝室博物館特別展覧会の一瞥[「時評」]『新人』7-7、7月1日  
東海遊子吟を読む[「想苑」]『新人』7-8、8月1日  
猪苗代湖畔の感想[「想苑」]『新人』7-9、9月1日  
水の啓示[「論叢」]『開拓者』1-8、9月1日  
社会の感化『中学世界』9-12、9月20日  
ブース大将伝を読む[「想苑」]『新人』7-10、10月1日  
剛健なる気風の鼓吹[「時評」]『新人』7-10、10月1日  
在米時代の小泉八雲先生[「思潮」]『新小説』11-10、10月1日  
洋々春の海の如き楽天的希望を有す[「日本百年後の宗教 其の予想」]『新公論』21-11、11月1日  
秋の靈化[「時評」]『新人』7-11、11月1日  
通俗説教家を憶ふ[「時評」]『新人』7-12、12月1日  
日本の女がして見たら[談、「世論一斑」]『日本教育』15、12月6日  
[「内ヶ崎氏よりの書簡」]『ときのこゑ』264、12月15日

### 1907(明治 40)年

- 如何にして社会教育の実を挙ぐべきか[「時評」]『新人』8-1、1月1日  
女学の本領を忘るゝ勿れ[「時評」]『新人』8-1、1月1日

- 「巡礼紀行」を読む[「時評」]『新人』8-1、1月1日
- ラスキンの青年時代『中学世界』10-1、1月10日[「ラスキンの修養時代」と改題『人生と文学』収録]
- 現代の女学生に望む[文責在記者]『学生タイムス』2-2、1月15日
- 奢侈の風に反抗せよ[「時評」]『新人』8-2、2月1日
- 実業か虚業か[「時評」]『新人』8-2、2月1日
- 青年「明治」の成長[「時評」]『新人』8-2、2月1日
- クルンマツヘルの比喻譚四則[訳、「文苑」]『基督教世界』1226、1230、2月28日、3月28日
- 「万国大会に関する希望と注意」『開拓者』2-3、3月1日
- 近代英米宗教界の回望[「想苑」]『新人』8-3、3月1日[「近代英米宗教家の面影」と改題『人生と文学』収録]
- 〔雑録 開書応答〕『基督教世界』1229、3月21日
- 東方意識の發揮[「教界時論」]『基督教世界』1231、4月4日
- ブース大将の講演を聴く[「想苑」]『新人』8-5、5月1日
- 万国青年会大会に対する感想[「時評」]『新人』8-5、5月1日
- 最近の好著数種の略評[「時評」]『新人』8-5、5月1日
- ブース大将の講演を聴く『ときのこゑ』274、5月15日
- 繁文縟礼を避けよ[「時評」]『新人』8-6、6月1日
- 何の献身犠牲かある[「時評」]『新人』8-6、6月1日
- 『平和』生る[「時評」]『新人』8-6、6月1日
- ブース大将を送る[「時評」]『新人』8-6、6月1日
- 新緑の天地[「時評」]『新人』8-6、6月1日
- 猪苗代湖『新小説』12-7、7月1日[「猪苗代湖の美観」と改題、本多直次郎編『続々紀行文粹』(春陽堂、1911年)収録]
- 〔雪満山〕『新小説』12-7、7月1日
- クルンマツヘルの比喻譚四則[訳、「想苑」]『新人』8-7、7月1日
- 神学教育の将来[「時評」]『新人』8-7、7月1日
- 卒業生諸君に望む[「時評」]『新人』8-7、7月1日
- 薫風清香録[「想苑」]『新人』8-8、8月1日[『人生と文学』収録]
- 深田、斉木、原口三君を送る[「時評」]『新人』8-8、8月1日
- 米国哲人の森林生活 ソローの『ワルデン』『新小説』12-9、9月1日[「ソローの『ワルデン』(米国哲人の森林生活)」と改題『人生と文学』収録]
- 両羽観光録[「想苑」]『新人』8-9、10、9月1日、10月1日
- 失意の青年のために策す[「時評」]『新人』8-9、9月1日

〔開書応答〕『基督教世界』1254、9月12日  
筑山君の追懐〔「想苑」〕『新人』8-10、10月1日  
治水事業の根本問題〔時評〕『新人』8-10、10月1日  
両羽の自然と人〔雑纂〕『早稲田学報』152、154、10月1日、12月1日〔『人生と文学』収録〕  
過去の東京と英雄の追懐〔10月5日演説大意(於東京青年会館)〕『福音新報』641、10月10日  
早稲田大学の二十五年祭〔時評〕『新人』8-11、11月1日

## 1908(明治41)年

偉大なる生涯の転機『新人』9-1、2、1月1日、2月1日〔『人生と文学』収録〕  
明治四十年教育界の一瞥『基督教世界』1270、1月2日  
小なる善行〔「想苑」〕『基督教世界』1271、1月9日〔内ヶ崎生〕  
〔愛読せる西洋の戯曲小説〕『趣味』3-2、2月1日  
法廷の奇遇〔「詞藻」〕『新人』9-3、3月1日  
教壇の新使命〔時評〕『新人』9-4、4月1日  
科学的道楽『成蹊』14、15、5月5、15日  
宇宙の一民『火柱』1-3、5月15日  
総選挙の教訓〔時評〕『新人』9-6、6月1日  
吾人の主張と希望〔時評〕『新人』9-6、6月1日  
政界革新の機運〔時評〕『新人』9-6、6月1日  
カロリン、ハーシェル 閨秀天文学者『新小説』13-7、7月1日〔「カロリン・ハーシェル(閨秀天文学者)」  
と改題『人生と文学』収録〕  
世界平和の実現〔社説〕『新人』9-7、7月1日  
地名に顕れたる亜米利加魂〔「史伝」〕『新人』9-7、7月1日〔『英国より祖国へ』収録〕  
自殺の予防法〔時評〕『新人』9-7、7月1日  
大英断を望む〔時評〕『新人』9-7、7月1日  
青年訓一則〔時評〕『新人』9-7、7月1日  
〔「一顆涼」〕『新小説』13-8、8月1日  
夕立〔「想苑」〕『基督教世界』1301、8月6日  
教師対生徒関係〔時評〕『新人』9-9、9月1日  
葉書通信『基督教世界』1310、1319、10月8日、12月10日  
内ヶ崎氏通信〔10月10日付私信〕『新人』9-12、12月1日  
内ヶ崎講師の英国通信〔「早稲田記事」中の早稲田大学学長高田早苗宛書簡〕『早稲田学報』166、12月5日

## 1909(明治 42)年

- 内ヶ崎氏通信[「想苑」]『新人』10-2、2月1日[目次では「英国通信」と記載]
- 神と人『六合雑誌』338、2月1日
- 英国便り[「片々」]『早稲田学報』168、2月5日《SU》
- 英国通信(第三信)『基督教世界』1327、1328、2月11、18日
- 英国通信[「詞藻」]『新人』10-3、3月1日[「市会堂に於けるキャンベル氏」と改題『英国より祖国へ』収録]
- 英国通信(第五)『基督教世界』1338、1339、4月29日、5月6日[「復活祭」と改題『英国より祖国へ』収録]
- 英国通信(第二信)[「雑俎」]『新人』10-5、5月1日[「オックスフォード対ケンブリッジ短艇競漕」と改題『英国より祖国へ』収録]
- 英国通信(第三信)[「雑俎」]『新人』10-5、5月1日[「カーペンター先生のことども」と改題『英国より祖国へ』収録]
- 英国通信(第六)『基督教世界』1340、5月13日
- 英国通信(第七)『基督教世界』1342、5月27日[「菜食主義」と改題『英国より祖国へ』収録]
- 英国から眺めた日本『新小説』14-6、6月1日
- ゆき当りばったり集[「文苑」]『新女界』1-3、6、9、2-3、5、7、11、6月1日、9月1日、12月1日、**1910年**3月1日、5月1日、7月1日、11月1日
- 英国通信(第三信)[「想苑」]『新人』10-6、6月1日
- 英国通信(第二回)[「通信」]『早稲田学報』172、6月5日
- 英国通信(八)『基督教世界』1344、6月10日[「教界近事の様々」と改題『英国より祖国へ』収録]
- エヴァン、ロバーツと語る(英国通信第五)[「想苑」]『新人』10-8、8月1日[『英国より祖国へ』収録]
- 英国通信(第九)『基督教世界』1352、8月5日[「女子教育問題」と改題『英国より祖国へ』収録]
- 英国通信 防火に関する注意『基督教世界』1361、10月7日[「防火と社会道徳」と改題『英国より祖国へ』収録]
- 英国通信 収穫感謝祭『基督教世界』1365、1366、11月4、11日[「収穫感謝祭」と改題『英国より祖国へ』収録]
- 研究心を猛烈ならしめよ宗教心を唾棄せよ[「教界時論」]『基督教世界』1371、12月16日[「研究的態度と宗派根性の脱却」と改題『英国より祖国へ』収録]
- 英国のクリスマス前『基督教世界』1372、12月23日[「クリスマス前」と改題『英国より祖国へ』収録]

## 1910(明治 43)年

- 学生基督教青年会万国大会の側面観[「雑俎」]『新人』11-1、1月1日[『英国より祖国へ』収録]
- オックスフォードの二大神学者[「英国通信」]『基督教世界』1383、1384、3月10、17日[「オックスフォードの三大神学者」(一)(二)と題して『英国より祖国へ』収録]
- 英国職工社会の道徳宗敎的生活の觀察[「英国通信」]『基督教世界』1388、4月14日[『英国より祖国へ』収録]

トマス、ケリー、チューネ老博士[「英国通信」]『基督教世界』1392、5月12日[「オックスフォードの三大神学者」(三)と題して『英国より祖国へ』収録]

福音新報の二十周年に対する祝意と希望『福音新報』776、777、5月12、19日

英国の職工生活『鉄道青年』2-6、6月1日

開会初日の印象『太陽』16-9[特集号日英大博覧会]、6月15日[「開会第一日の印象」と改題『英国より祖国へ』収録]

政治家、学者、文士に対する要求『新小説』15-7、8、7月1日、8月1日[「祖国の政治家、学者、文士に対する要求」と改題『近代人の信仰』収録]

倫敦特信『太陽』16-10、7月1日

哲学と詩歌との郷土[「想苑」]『基督教世界』1413、10月6日[『英国より祖国へ』収録]

## 1911(明治44)年

長逝せる先覚と教友とを憶ふ[「思潮」]『基督教世界』1430、2月9日

教会大合同論[「想苑」]『新人』12-3、3月1日

南欧旅行だより[「想苑」、「雑録」、「随想録」、「通信」]『基督教世界』1442～1448、5月4、11、18、25日、6月1、8、15日[「南欧観光録」と改題『英国より祖国へ』収録]

内ヶ崎氏より[6月28日付海老名弾正宛通信文]『新人』12-8、8月1日

内ヶ崎氏の説教[7月30日説教「現代の英国偉人と基督教」大要(於オークランド白人第一組合教会)]『新世界』8月1日

東西文明交渉の意義[8月1日講話大要(於オークランド白人美以教会)]『新世界』8月3日

廿世紀に於ける大和民族 日本民族の将来を論ず[8月15日講演(於リバー街美以教会)]『日布時事』8月16～19日

神は反抗也『新人』12-9、9月1日

分れの旅路[「雑俎」]『新人』12-9、10、9月1日、10月1日[『英国より祖国へ』収録]

伊太利亜の瞥見[談]『読売新聞』9月3、5日

問題となれる野球 [談]『読売新聞』9月14日

覚醒すべき日本[「最近講壇」]『開拓者』6-10、10月1日

米國文明の印象『学生』2-11、10月1日[『英国より祖国へ』収録]

\*良妻とは何ぞや『婦人乃鑑』10、10月1日[「現代婦人界思潮」欄『婦人くらぶ』4-11、1911年11月に抄録]

英国人の政治的訓練『実業世界』52、10月3日[『英国より祖国へ』収録]

英国の婦人[談]『台湾日日新報』10月8日

大英国民の常識に富める実例と其素因『実業之日本』14-21、10月10日[「英国民の常識とその素因」と改題『英国より祖国へ』収録]

我が信仰の告白『六合雑誌』369、370、10月10日、11月1日

- 婦人解放の真意義[9月24日講演大要(於婦人講演会)、「東京の講壇」]『国民雑誌』2-12、10月15日  
大都市の靈感[「論叢」]『開拓者』6-11、11月1日[『近代人の信仰』収録]  
時代思潮[本郷教会に於ける講演の一節、「東京の講壇」]『国民雑誌』2-13、11月1日  
欧米印象雑記『女学世界』11-14、11月1日  
婦人解放問題の真意義[本郷教会婦人講演会演説筆記]『新女界』3-11、11月1日[「婦人解放の真意義」と改題『英国より祖国へ』収録]  
婦人開放の意義[「演壇講壇」]『雄弁』2-11、11月1日  
東西文明の起原及び其交渉『早稲田講演』7、11月1日  
ワーズワースの遺跡[談]『読売新聞』11月28日  
実生活に働く信仰の力[「想苑」]『新人』12-12、12月1日[『近代人の信仰』収録]  
英国文学史に於けるオックスフォード大学の位置『帝国文学』17-12、12月1日[『近代文芸之背景』収録]  
我何の為に生くべきか[10月15日説教(於ユニテリアン教会)]『雄弁』2-12、12月1日[『近代人の信仰』収録]  
宗教生活の芸術的内容[「惟一館記事」の11月5日説教筆記]『六合雑誌』371、12月1日[『近代人の信仰』収録]  
われ何の為に生くるや[10月15日講演太要]『六合雑誌』371、12月1日  
実生活に及ぼす影響[10月22日講演太要]『六合雑誌』371、12月1日  
英国の冬と囲炉裡の清興『旅行』1-4、12月1日  
予が滞英中のクリスマス所見[「想苑」]『基督教世界』1475、12月23日

## 1912(明治45・大正元)年

- 新英蘭の精神的建設『開拓者』7-1、1月1日  
東西人情の相違『新公論』27-1、1月1日  
基督教が現代日本に対し最も高調すべき使命[「想苑」]『新人』13-1、1月1日  
欧州宗教界の新氣運違『新日本』2-1、1月1日  
殖民問題の立場より見たる宗教問題[文責在記者「東西之思想」]『道』45、1月1日  
倫敦の不可思議『無名通信』4-1、1月1日  
宗教と芸術[「演壇講壇」]『雄弁』3-1、1月1日  
口絵解題『六合雑誌』372、1月1日  
統一基督教会の成立[社説]『六合雑誌』372、1月1日  
宗教と現実との接近『六合雑誌』372、1月1日  
歴史的人物としての耶蘇[「東京の講壇」]『護教』1066、1月5日  
精神的反動の時運[「時論」]『基督教世界』1477、1月6日

- 宗教の使命 宗教利用問題[談]『二六新報』1月28日
- 倫敦よりアメリカまで[「雑俎」]『新人』13-2、2月1日
- 湖州の自然美と文学的遺跡『中学世界』15-2、2月1日
- イギリス文壇の現状[談]『文章世界』7-2、2月1日
- 口絵解題『六合雑誌』373、2月1日
- 欧米に於ける祖先紀念の風習『六合雑誌』373、2月1日[『近代人の信仰』収録]
- 内務省の宗教政策[「評壇」]『六合雑誌』373、2月1日
- 日本基督教同盟に対する吾人の態度[「評壇」]『六合雑誌』373、2月1日
- 余は大体賛成す[「所謂宗教利用問題」]『中央公論』27-3、3月1日
- 吾が基督教観『東亜之光』7-3、3月1日
- 演説批評家としての中学一年生『雄弁』3-3、3月1日
- オイケンの印象『六合雑誌』374、3月1日
- 東西文明の調和力としての基督教『六合雑誌』374、3月1日
- ロイド・ジョージ論『早稲田講演』12、3月1日
- 社会雑観『廓清』2-3、3月15日
- 教育と宗教との交渉[講演筆記校閲済]『初等教育』5-4、4月1日
- 来るべき宗教界の革命『新日本』2-4、4月1日
- 宗教と教育との交渉[社説]『六合雑誌』375、4月1日[『近代人の信仰』収録]
- 人生の環象[「教壇」]『六合雑誌』375、4月1日
- 『道』記者に答ふ『六合雑誌』375、4月1日
- 同盟国の応援者『廓清』2-4、4月15日
- 基督教と独立自尊[講演筆記(於慶応義塾基督教青年会)]『慶応義塾学報』177、4月15日
- 遭難者ステット[談]『読売新聞』4月18日
- 英国の総選挙[「欧米に於ける選挙の実況」]『新日本』2-5、5月1日
- 生活問題を超越せよ[「如何にして楽しく世を渡るべきか」]『婦人之友』6-5、5月1日
- 物質の満足と精神の不足『雄弁』3-5、5月1日
- エデンボローの印象『六合雑誌』376、5月1日
- 霊界の明星隕つ[社説]『六合雑誌』376、5月1日
- この機会を利用せよ[「評壇」]『六合雑誌』376、5月1日
- 宗教は活問題なり[「評壇」]『六合雑誌』376、5月1日
- 文明の犠牲[「評壇」]『六合雑誌』376、5月1日
- \*婦人の感情教育『家庭之友』10-5、5月3日<三原市立図書館所蔵>



- 英国人と日本人[「名士の談話」]『日布時事』5月19日
- 口絵の裏に『六合雑誌』377、6月1日
- 大なる時代の影[社説]『六合雑誌』377、6月1日[『近代人の信仰』収録]
- 衷情の発露[「教壇」]『六合雑誌』377、6月1日
- 英国の宗教主義の諸雑誌について『基督教世界』1500、6月13日
- 英国の紳士教育『教育実験界』29-12、6月20日
- オックスフォードの夏の思ひ出『秀才文壇』12-7、7月1日
- ラスキン碑の説明『六合雑誌』378、7月1日
- 無意識の偉大『六合雑誌』378、7月1日[『近代人の信仰』収録]
- 田園の宗教的情味[「教壇」]『基督教世界』1505、7月18日
- 孟蘭盆の新義『中外日報』7月20、21日
- 夏と冬と山と海と『婦人之友』6-8、8月1日
- エリオット博士の印象『六合雑誌』379、8月1日
- 田園の宗教的情味『六合雑誌』379、8月1日[『近代人の信仰』収録]
- 友の愛児の死を悼む『六合雑誌』379、8月1日
- エリオット博士の使命[「時評」]『六合雑誌』379、8月1日
- 宗教史上の女性『廓清』2-8、8月15日
- 自我の神秘[7月28日「夏季学校講演」]『開拓者』7-9、9月1日
- 進撃的態度を取れ[「如何にして基督教を社会に徹底せしむ可きか」]『新人』13-9、9月1日
- バルトロメーの宗教的大芸術『六合雑誌』380、9月1日
- 天佑の明治日本『六合雑誌』380、9月1日
- ベルグソン哲学と基督教『六合雑誌』380、9月1日[『近代人の信仰』収録]
- 明治年間の宗教『雄弁』3-10、10月1日
- 『生の力』に関する論争(文豪バーナードショウ対牧師キャンベル)『六合雑誌』381、10月1日[『近代人の信仰』収録]
- 哲人主義を紹介す[「新刊紹介」]『六合雑誌』381、10月1日
- 日本宗教界の変遷『中外日報』10月14、15、17日
- ジョセフィンバトラー伝『廓清』2-10、10月15日
- 欧米家庭生活の真相『女学世界』12-15、11月1日
- ミケランゼローの瞑想の人『六合雑誌』382、11月1日
- 『生の力』の本質『六合雑誌』382、11月1日[『近代人の信仰』収録]
- 基督教の自殺観[「講演」]『基督教世界』1521、11月7日
- 文芸と宗教の統一[「東京の講壇」]『護教』1111、11月15日

フリンゲルの『人生劇』『六合雑誌』383、12月1日

生活の権威『六合雑誌』383、12月1日

## 1913(大正2)年

基督教の将来『東亜之光』8-1、1月1日

明治年間の宗教運動『基督教世界』1532～1534、1月30日、2月6、13日

時論数項『世界之日本』4-2、2月1日

バルカン戦争の文明史的意義『六合雑誌』385、2月1日

明治年間の外来思想と基督教『基督教世界』1536～1358、2月27日、3月6、13日

英国大学の学生々活『向上』7-3、3月1日

現代文学の欠陥[談]『秀才文壇』13-3、3月1日

揺籃を動かす織手の力『大正婦人』1-3、3月1日

ヂョオルヂ・バアナアド・シヨウの印象『帝国文学』19-3、3月1日[『近代文芸之背景』収録]

口絵の裏に『六合雑誌』386、3月1日

政治の刷新か心霊の改革か『六合雑誌』386、3月1日[「自己と社会」と題して「思潮」欄『弘道』253、1913年4月1日に抄録。『近代人の信仰』収録]

ピーボデイ博士を迎ふ[「時評」]『六合雑誌』386、3月1日

日本農民は世界一[談話筆記、「国民性之長所短所」]『国民教育』4-3、3月15日

神果たして死せりや『東亜之光』8-4、4月1日

口絵の裏に『六合雑誌』387、4月1日

ダンヌーツオーの歌劇と新神秘主義『六合雑誌』387、4月1日[『近代人の信仰』収録]

「惟一館記事」中の統一基督教会第2回総会での演説大要『六合雑誌』33-4、4月1日

我国現今の日曜学校に望む[「評論」]『基督教世界』1452、4月10日

世の激流を抜手を切つて進む人『実業之日本』16-8、4月10日

立憲政治の根本的基礎『世界之日本』4-5、5月1日

現代英文学の宗教的情調『六合雑誌』388、5月1日[『近代人の信仰』収録]

福音主義者の矛盾[「時評」]『六合雑誌』388、5月1日

教師の修養と社会の待遇[談話筆記、「教権之振興策如何」]『国民教育』4-5、5月15日

加州に於ける大和殖民地を訪ふ『実業之日本』16-12、6月1日

二十世紀の問題は婦人問題[文責在記者]『新真婦人』2、6月1日

文明史眼に映ずる加州排日問題『六合雑誌』389、6月1日

大利根の岸より『六合雑誌』389、6月1日

欧米自由基督教徒の活動[「時評」]『六合雑誌』389、6月1日

- 初夏関西行の記『六合雑誌』389、6月1日
- \*英国婦人の意気を学べ『日本婦人』15-6、6月
- 婦人問題に対する吾人の態度『六合雑誌』390、7月1日
- 生命の源—文化の泉『六合雑誌』390、7月1日[『近代文芸之背景』収録]
- 大思想家の婦人観『六合雑誌』390、391、7月1日、8月1日
- 横浜の埠頭にて『六合雑誌』390、7月1日
- ビイボデー博士を送る[「時評」]『六合雑誌』390、7月1日
- 男女両尊『廓清』3-7、7月15日
- 私の娘に対する希望[「予は予の娘(又は孫娘)に如何なる女ならんことを希望するか」]『中央公論』28-8、7月15日
- 島根半島の壮観[「想苑」]『基督教世界』1558、7月31日
- 内ヶ崎作三郎先生より[山陰道巡回講演中の書信]『新真婦人』4、8月1日
- 夏は歓楽の時 英国学生の夏季生活[談]『中学世界』16-10、8月1日
- 人生の律動『六合雑誌』391、8月1日
- 耶蘇と保羅との女性観『六合雑誌』391、8月1日
- [「誌友から」の中の音信]『六合雑誌』391、8月1日
- 世界統一運動の種々[「雑録」]『基督教世界』1561、8月21日
- 人生の進行譜[「東京の講壇」]『護教』1151、8月22日
- 自然界のインスピレーション『基督教世界』1562、8月28日
- 『夫の不品行を苦にする婦人方のために』『新真婦人』5、9月1日
- 基督教の靈魂不滅観[「『死』の研究」]『中央公論』28-11、9月1日
- 真と美と生命『六合雑誌』392、9月1日[『近代文芸之背景』収録]
- 教育者と信仰問題『教育実験界』32-5、9月5日
- 感激の宗教『基督教世界』1564、9月11日
- 新神学の主唱者チャンニング『学生』4-10、9月15日
- 東西の出版界事情[談]『読書之友』2-10、10月1日
- 人格本位の結婚[「時勢」の要求する花嫁花婿]『婦人之友』7-10、10月1日
- 光は巴里より—第六回自由宗教万国会議の報告—『六合雑誌』393、394、10月1日、11月1日
- 東北に於ける根本的治水策[「時評」]『六合雑誌』393、10月1日
- 野次馬的国民性[「時評」]『六合雑誌』393、10月1日
- 村に公会堂の計画[「地方生活の改善」]『第三帝国』1、10月10日
- 感激の宗教『日米[the Japanese American News]』10月10日
- 国民実生活の批評『廓清』3-10、10月15日

四海同胞論[9月15日サンダーランド講演通訳(於第19回通俗講話会)]『友愛新報』14、15、10月15日、11月1日

権威と独創『東亜之光』8-11、11月1日

[「当代名士日常生活に於ける修養」]『婦女界』8-5、11月1日

進化論より見たる靈魂の不滅[サンダーランド講演訳]『雄弁』4-11、11月1日

九州の旅より『六合雑誌』394、11月1日

人間の本分[10月15日第20回通俗講話会講演大要、文責在記者]『友愛新報』16、11月15日

九州瞥見録[談話筆記]『向上』7-12、12月1日

国民実生活の批判『雄弁』4-12、12月1日

先進者の退化『六合雑誌』395、12月1日

## 1914(大正3)年

卓上瑣談『英語世界』8-1、1月1日

現代に与ふる耶蘇の刺戟『東亜之光』9-1、1月1日

新思想と青年[文責在記者]『内外教育評論』8-1、1月1日

永遠に若き心『六合雑誌』396、1月1日

現代教育の欠陥[「実験研究」]『教育実験界』33-1、1月5日

婦人と信仰『婦女新聞』712、713、1月9、16

風俗頹廢の社会的背景を究めよ[「大正三年を迎へて」]『廓清』4-1、1月15日

印度の大詩人ラビンドラナート・タゴール——九一三年度ノーベル文芸賞金受領者——『新日本』4-2、2月1日[「近代文芸之背景」収録]

封建時代の遺物のみ[「学校騒動問題」]『中学世界』17-2、2月1日

天変地異と生命の価値『六合雑誌』397、2月1日

榕樹の陰[訳]『六合雑誌』397、2月1日

これ果して何の兆ぞ[「時評」]『六合雑誌』397、2月1日

失敗失意を撃破して成功を獲得するの覚悟『実業之日本』17-4、2月15日[「失敗を撃破して大成功を得るの覚悟」と題して『弘道』264、1914年3月に抄録]

自我の表現[講演於研究部例会]『一橋会雑誌』96、2月28日

花の如き独逸学生生活『学生』5-3、3月1日

人生の幸福と成功に対する英国首相外相の警告『実業之日本』17-5、3月1日

宇宙の根原と我心靈と『新女界』6-3、3月1日

第二十世紀の基督教[訳]『六合雑誌』398、3月1日

政治の根本的理想『六合雑誌』398、3月1日

- 文芸家と思想家に檄す[「時評」]『六合雑誌』398、3月1日<<S、U生>>
- 政治の根柢は宗教ならざる可からず[「我党の時事問題観」]『廓清』4-3、3月15日
- Rabindranath Tagore の詩[訳]『英語世界』8-5、6、4月1日、5月1日
- 埋もれた婦人の宝『女学世界』14-5、4月1日
- [「現代諸名士の青年に与ふる金科玉条」]『雄弁』5-4、4月1日
- 先人未踏の道『六合雑誌』399、4月1日
- キックユウ問題の真相『六合雑誌』399、4月1日
- 世界統一の思想[「雑録」]『基督教世界』1593、1595、4月2、16日
- 外来の四思想[「外来思想と国民生活」]『青年日本』2-5、5月1日
- 宗教の公同性[訳]『六合雑誌』400、5月1日
- 四百号記念号の後に『六合雑誌』400、5月1日
- 科学と矛盾せざる宗教『早稲田講演』4-5、5月1日
- 明治の宗教『六大新報』554、5月10日
- 『現代文化と進歩的宗教』[「講壇」]『護教』1189、5月15日
- 見識ある英国の労働者『友愛新報』28、5月15日[『白中黄記』(実業之日本社、1914年)から「見識ある英国の労働者」のほぼ全文を転載]
- 緑陰談片『新女界』6-6、6月1日
- 田舎者の遺伝的に有する特権[「現代四十名士回答 地方生活の回顧」]『成功』27-3、6月1日
- 英国愛蘭土問題とは何か『鉄道青年』6-6、6月1日
- 文芸復興より宗教改革へ『六合雑誌』401、6月1日[『近代文芸之背景』収録]
- [「不求是求」冒頭の新井奥達『不求是求』抄録のはしがき]『六合雑誌』401、6月1日
- 根本的廓清を要す[「時評」]『六合雑誌』401、6月1日
- 廓清事業と婦人の自覚『廓清』4-6、6月15日
- 卓上瑣談『英語世界』8-8、7月1日
- オックスフォードの夏『開拓者』9-7、7月1日
- 国民的復活『開拓者』9-7、7月1日
- 簡易に徹底せよ[「簡易生活の研究」]『新公論』29-7、7月1日
- 基督教女子教育家に望む『新女界』6-7、7月1日[「時代思潮と女子教育家」と題して「紹介」欄『女子教育』11-9、1914年9月1日に抄録]
- 人生に於ける復活の経験『六合雑誌』402、7月1日
- オイケン教授の基督教観[「思潮」]『教育実験界』34-1<特集「オイケン号」>、7月5日
- 新未来主義[「名流講話」]『中外日報』7月14日
- 生れざる者に対する義務『廓清』4-7、7月15日

東洋国民の特性『中外日報』7月30日  
文明に驕慢せるチュートニック[談]『無名通信』6-8、8月1日  
自然と人生[「休暇と旅行」]『雄弁』5-8、8月1日  
自然の愛慕『六合雑誌』403、8月1日  
熊野の夏波[「夏の大自然」]『六合雑誌』403、8月1日  
近代印度に於ける宗教改革運動『中外日報』8月15、16、18日  
英国の女『婦人評論』3-16、8月15日  
卓上瑣談『英語世界』8-10、9月1日  
大戦乱と文明『六合雑誌』404、9月1日  
カイゼルの政策とドイツの文化『中外日報』9月4日  
欧州文明の大廻転機『教育時論』1059、9月15日  
世界を一つに搏つ脈膊『婦女新聞』748、749、9月18、25日  
宗教改革の刺激としての大戦乱[「教壇」]『基督教世界』1619、10月1日  
意識生活を有す[「人とは何？」]『実業之世界』11-21、10月1日  
最大打撃を受くるは婦人[「欧州の戦乱より受くる教訓」]『新女界』6-10、10月1日  
[「現代名士処世訓」]『雄弁』5-10、10月1日  
カイゼルの政策と独逸の文化『六合雑誌』405、10月1日  
基督教史[「新刊批評」]『六合雑誌』405、10月1日<<S・U生>>  
心的作業及疲労の研究[「新刊批評」]『六合雑誌』405、10月1日<<S・U生>>  
道徳上より観たる自由廃業『廓清』4-10・11、10月15日  
戦時に發揮せられた英帝国の大国民的襟度に学べ『実業之日本』17-22、10月15日  
基督教徒としての予の態度『第三帝国』21、10月15日  
平和の哲学[演説於統一基督教会]『六大新報』578、10月18日  
独逸文化とカイゼルの争[談]『松陽新報』10月29日  
欧州の反基督教的的精神『時代思潮』1-4、11月1日  
欧州大戦争の与ふる宗教的教訓『青年』2-11、11月1日  
平和の哲理『六合雑誌』406、11月1日  
白耳義国民を慰む[「時評」]『六合雑誌』406、11月1日  
天下皆労働者なり『労働及産業』39、11月1日  
幾億万円を運動遊戯に投ずる英国国民『衛生世界』1-2、11月5日  
戦争と宗教『中外日報』11月8日  
欧州大戦に於ける目醒しき婦人の活動『実業之日本』17-24、11月15日

〔「社会廓清論の反響」〕『ときのこゑ』454、11月15日  
神基戦は愚なり『中外日報』11月22日  
現代青年の雑多なる煩悶は斯くして解決す可し『実業之世界』11-25、12月1日  
心霊の人〔「小山東助氏夫人菊野女史を悼む」〕『新女界』6-12、12月1日  
死後の生活〔談〕『新評論』1-2、12月1日  
近代印度に於ける宗教改革運動〔講演筆記〕『東亜之光』9-12、12月1日  
近代独逸の思想的背景『六合雑誌』407、12月1日  
人生の創造律〔演説於三田惟一館〕『六大新報』585、12月6日  
楽しく安らげき道『婦人新報』210、12月28日

### 1915(大正4)年

我国民生活と基督教〔論説〕『新人』16-1、1月1日  
正義者は飢えず〔「実験上最も痛切に真理なりと感ぜし格言」〕『成功』28-4、1月1日  
新らしき自由基督教の使命『青年』3-1、1月1日  
世界の動乱と現代人の復活『中外日報』1月1日  
戦争画家ウエレスチャーギン『六合雑誌』408、1月1日  
めぐみの雪『六合雑誌』408、1月1日  
ナイチンゲールの新しき伝記『新真婦人』10、2月1日  
近代文明と自由基督教『六合雑誌』409、2月1日  
神は最大の労働者である『労働及産業』42、2月1日  
僕の元気は演説のおかげ『衛生世界』2-2、2月5日  
英国の憲法政治『中外日報』2月26日  
〔「余が接したる説教家と其の印象」〕『文明評論』2-3、3月1日  
〔口絵解題〕『六合雑誌』410、3月1日  
予言者の政治観『六合雑誌』410、3月1日  
雪の仙台より(一)(二)『六合雑誌』410、3月1日〔目次にはないが、15、24ページに掲載〕  
石の巻より(一)(二)『六合雑誌』410、3月1日〔目次にはないが、67、86ページに掲載〕  
小山東助氏の立候補を壮とす〔「時評」〕『六合雑誌』410、3月1日  
戦争と国民生活『東京毎日新聞』3月31日、4月1日  
〔「現今学生に対する金言及び座右の銘」〕『開拓者』10-4、4月1日  
国交の基礎を論ず『六合雑誌』411、4月1日  
日米問題号発刊について〔「時評」〕『六合雑誌』411、4月1日

- 総選挙の後[「時評」]『六合雑誌』411、4月1日
- 初陣としての小山東助君[「教界人物小山東助君」]『新人』16-5、5月1日
- タゴールと印度文化『六合雑誌』412、5月1日[清沢巖編『名士のタゴール観』(城南社、1915年)収録]
- 自由基督派の欠点『中外日報』5月8日
- 生命の宗教[「修養録」]『日本警察新聞』368、5月21日
- 現代の予言者『中外日報』5月23日
- 自然美を通して[「子供の宗教教育問題」]『新女界』7-6、6月1日
- 師弟情調の一致『現代教育』22、6月1日[「学説思潮」欄『教育実験界』35-12、1915年6月20日に抄録]
- 實際生活上の暗示[「タゴール氏来朝せば(四)」]『読売新聞』6月1日
- 自然と心霊との復興『六合雑誌』413、6月1日
- 近時の教会合同論[「時評」]『六合雑誌』413、6月1日<<SU生>>
- タゴール研究の意義『中外日報』6月6、8日
- 宗教の活動に伴ふ国民の自覚[「訪問」]『人道』122、6月15日
- 歓喜の生活[「講演」]『基督教世界』1656、6月24日
- 我心を知るは精神修養の第一歩である『向上』9-7、7月1日
- 新たに組織されたる英国内閣の人物短評『実業之日本』18-14、7月1日
- 一番忙はしむ時[「種々なる土曜の夕」]『新女界』7-7、7月1日
- 徒歩と演説と日光と水[「現代四十名士回答 健康の実験的維持法」]『成功』29-4、7月1日
- 進歩的基督教の主張(ユニテリアンの信仰)『六合雑誌』414、7月1日
- 基督教の禅機[「自由基督教々壇」]『六合雑誌』414、7月1日
- 自由基督教の設立に就て[「時評」]『六合雑誌』414、7月1日
- 労働立国論[1915年6月1日(於友愛会主催全全国労働者大会)]『労働及産業』47、7月1日
- 心霊の共鳴『中外日報』7月9日
- [談、「児童掃除問題」]『廓清』5-7、7月15日
- 旧約書中の婦人訓『新真婦人』28、8月1日
- [「零碎なる時間を如何に利用しつゝあるか」]『婦人之友』9-8、8月1日
- 運命と恩寵[「自由基督教々壇」]『六合雑誌』415、8月1日
- マーブルグの夏[「夏の自然と人生」]『六合雑誌』415、8月1日
- 送らるゝ人と迎らるゝ人[「時評」]『六合雑誌』415、8月1日
- 断片『基督教世界』1664、8月19日
- 文明とは何ぞや『廓清』5-8、9月1日
- 文明向上の信念[「論説」]『新人』16-9、9月1日



- 日本婦人と自然の愛慕『婦人雑誌』4-3、9月1日
- 海の匂ひ『六合雑誌』416、9月1日
- 国家主義と国際主義の統一[「自由基督教々壇」]『六合雑誌』416、9月1日
- 西南旅行『六合雑誌』416、9月1日
- 高田文相に望む[「時評」]『六合雑誌』416、9月1日<<S、U>>
- 孤独と団体『早稲田講演』5-9、9月1日
- 雲の色『六合雑誌』417、10月1日
- 貞操の意義と価値[「自由基督教々壇」]『六合雑誌』417、10月1日
- 新大学令を歓迎す[「時評」]『六合雑誌』417、10月1日<<S、U生>>
- 帰郷記『六合雑誌』417、10月1日
- 労働者の家庭[講演要領]『労働及産業』50、10月1日
- 世界大戦と政治思想『欧州戦争実記』40、10月5日
- 僕の実見した欧米青年と日本青年『実業之日本』18-21、10月10日
- 祖先崇拜を徹底せしめよ『廓清』5-11、11月1日
- 我国女子の将来を想ふ[「御大典に際して」]『新女界』7-11、11月1日
- 大正日本の心霊界『新日本』5-11、11月1日
- ジョージ第五世の戴冠式[「世界五大強国戴冠式拝観記」]『中央公論』30-12、11月1日
- 南紀の自然と人生『東亜之光』10-11、11月1日
- 御大典と国民的理想の体現『六合雑誌』418、11月1日
- 健全なる新婦人の先駆者—故原口鶴子葬式説教『六合雑誌』418、11月1日
- 性の倫理『早稲田講演』5-11、11月1日
- 地方青年団への警告[「全国青年団に対する政府の処置」]『早稲田文学』120、11月1日
- 社会的罪悪と性の教育[「縦談横議」]『農事新報』9-11、11月5日
- オックスフォード大学は学園全体が研究室たるやの観あり[「研究機関設備に対する学園意見の一般」]『早稲田学報』249、11月10日
- 祖先崇拜の真意義『中外日報』11月13日
- 我御大礼と余が嘗て目撃せし英国戴冠式『実業之日本』18-24、11月15日
- 社会的罪悪の根本[「時論」]『基督教世界』1678、11月25日
- 日常生活の改善から新時代の創設へ『青年及青年団』6-12、12月1日
- 剛健なる個性『東亜之光』10-12、12月1日
- 大戦争と宗教思想[「自由基督教々壇」]『六合雑誌』419、12月1日
- 二高時代の島地雷夢君の追懐『六合雑誌』419、12月1日

## 1916(大正 5)年

- 貞操の意義と価値『廓清』6-1、1月1日
- 英国の講和条件[「大戦終息後の講和会議に提出すべき交戦各国の講和条件」]『新日本』6-1、1月1日
- 「優生運動で差当り何をして欲しいか？」『優生運動』5-1、1月1日
- 人生の本質[「講壇」]『六合雑誌』420、1月1日
- 久能より竜華時へ[「雑録」]『六合雑誌』420、1月1日
- 国際的気分の欠陥[「時評」]『六合雑誌』420、1月1日<<S,U>>
- キャンベル牧師の去就[「時評」]『六合雑誌』420、1月1日<<S,U>>
- 人間の責任[11月9日講演於友愛会浅草支部例会]『労働及産業』53、1月1日
- 羅馬法皇の国際的勢力『新理想主義』58、1月5日
- 私の家庭は幼稚園[「幼稚園と児童」]『婦人週報』2-3、1月14日
- 女学校の選択[「よみうり婦人付録」]『読売新聞』1月15日
- 「内ヶ崎作三郎氏より」中の書信『新理想主義』60、1月25日
- 宗教改革の先駆者たらむ『中外日報』1月26日
- 二十世紀式尼寺を設立せよ[「社会と婦人 こんな場合に女は何うしたらよいか？」]『婦人公論』1-2、2月1日
- 内在の神[「講壇」]『六合雑誌』421、2月1日
- マコーレー、鈴木両君を迎ふ『六合雑誌』421、2月1日<<S,U生>>
- 生活の根本問題[11月9日講演於友愛会浅草支部例会]『労働及産業』54、2月1日
- 女は人生の鼓吹者『婦人週報』2-8、2月18日
- 宗教的知識と信仰の進歩[「講演」]『基督教世界』1690、1691、2月24日、3月2日
- 婦人は人生の鼓吹者『婦人新報』224、2月28日
- 人生の鼓吹者『廓清』6-3、3月1日
- 男の中の男たれ『向上』10-3、3月1日
- 家庭の悲劇に哭く日本婦人へ『婦人公論』1-3、3月1日
- 自然と社会の力に依頼して[「父として何をなすつゝあるか」]『婦人之友』10-3、3月1日
- 個人主義の純化[「講壇」]『六合雑誌』422、3月1日
- 婦一協会の宣言[「時評」]『六合雑誌』422、3月1日<<S,U生>>
- 鈴木君を歓迎す『労働及産業』55、3月1日
- 英独比較論『人文』1-4、4月1日
- ロイドジョージと其の修養『雄弁』7-4、4月1日
- イエスの生涯と其の使命[「講壇」]『六合雑誌』423、4月1日
- 故島地雷夢追悼小集記『六合雑誌』423、4月1日

- 下田次郎氏の公娼論を評す『廓清』6-5、5月1日  
先づ其原因を除け[「婦人と社会 空闇に泣く妻の涙」]『婦人公論』1-5、5月1日  
[「舅姑別居の可否得失」]『婦人之友』10-5、5月1日  
生命の追求[「講壇」]『六合雑誌』424、5月1日  
児童に宗教々育[「よみうり婦人付録」]『読売新聞』5月11日  
内ヶ崎作三郎氏曰く[談]『婦女新聞』835、5月19日  
売淫問題と国民『婦女新聞』836、5月26日  
理想の引力[文責在記者]『婦人新報』227、5月28日  
無自覚の悲劇『廓清』6-6、6月1日  
人生の四大問題[文責在記者]『向上』10-6、6月1日  
吉野作造君に就いて[「吉野博士論」]『中央公論』31-6、6月1日  
再生の連続[「講壇」]『六合雑誌』425、6月1日  
タゴール氏を迎ふ[「時評」]『六合雑誌』425、6月1日  
\*新教育論『埼玉県教育会雑誌』100、101、6月5日、7月5日  
印度詩聖の人生観 タ氏入京前夜の講演 内ヶ崎作三郎氏は斯く論ず『読売新聞』6月5日  
タ翁の人格を慕ふ[「タゴール氏を迎ふ」]『中外日報』6月6日  
タゴールの印象『英語世界』10-8、7月1日  
新緑のかほり[短歌三首]『新女界』8-7、7月1日<<内ヶ崎生>>  
[「タゴール氏帝大の講演に対する感想」]『新人』17-7、7月1日  
ギタンヂヤリーより[訳]『六合雑誌』426、7月1日<<SU生>>  
性の倫理[「雑録」]『基督教界』1710、7月13日  
子供相手に草を取る[「忘れぬ夏の海と山」]『新女界』8-8、8月1日  
予言者論『人文』1-8、8月1日  
歴史教授と性の問題[「論説」]『教育実験界』37-7、8月1日  
旧信仰と新思想との調和『六合雑誌』427、8月1日  
永遠の試験『雄弁』7-10、9月1日  
天橋吟『六合雑誌』428、9月1日  
養老吟『六合雑誌』428、9月1日  
時論一束[「時評」]『六合雑誌』428、9月1日<<SU生>>  
男女交際は準備を要す『廓清』6-9・10、10月1日  
精神に欠くる処あり[「赤十字社腐敗せり—社会各方面名士の改革意見を聴け」]『青年』4-10、10月1日  
みちのくの初秋『六合雑誌』429、10月1日

- 欧州の道徳的覚醒[「時評」]『六合雑誌』429、10月1日  
経済の圧迫[「我が国婦人の進歩の障害は何?」]『婦人週報』2-41、10月6日  
人生ノ根本問題[6月22日於修徳部例会席上]『千葉医学専門学校校友会雑誌』85、10月15日  
貞操問題の研究『青年』4-11、11月1日  
戦争後の婦人[「よみうり婦人付録」]『読売新聞』11月14日  
舶来の新流行語『安全第一』の鵜呑みは危険『実業之日本』19-24、11月15日  
進化の道程[「現代文明に対する諸家の感想」]『近代思潮』2-12、12月1日  
東北人の崛起を要求する三大理由『実業之日本』19-25、12月1日  
田舎の婦人を戒む[「都会の女と田舎の女 いずれが幸か?いづれが不幸か?」]『婦人公論』1-12、12月1日  
最近精神界運動の批評『六合雑誌』431、12月1日  
真理体现の自覚[「講壇」]『六合雑誌』431、12月1日  
第一信[「雑」]『六合雑誌』431、12月1日  
東北人よ!此の六大欠点を去れ!『実業之日本』19-26、12月15日  
我国文学と基督教との交渉[「我国過去五十年間に於ける基督教の発達」]『基督教世界』1734、12月28日

## 1917(大正6)年

- 平凡なる日本宗教界の瞥見[「時評」]『大学評論』1-1、1月1日  
高明にして積極的なるロイド・ジョージ氏『第三帝国』80、1月1日  
戦後に於ける日本人の使命『東亜之光』12-1、1月1日  
欧州戦後の婦人問題『婦人公論』2-1、1月1日  
[「私の望み(一)本年に於て特にしたいと思つてゐること(二)生涯の中にして見たいと思つてゐること」]  
『婦人之友』11-1、1月1日  
現代日本の最大欠陥[社説]『六合雑誌』432、1月1日  
夏目漱石を悼む[「時評」]『六合雑誌』432、1月1日  
欧州戦乱と婦人の将来[講演(於修養倶楽部)]『婦人衛生雑誌』326、1月20日[岡野幸江編『アンソロジー—女と戦争』<女性のみた近代II別巻2>(ゆまに書房、2005年)収録]  
戦後の婦人問題[「戦後研究」]『横浜貿易新新報』1月22、23、25日  
内ヶ崎作三郎氏曰く[談]『婦女新聞』871、1月26日  
立憲思想の涵養『廓清』7-2、2月1日  
生活の一典型としての宗教『柔道』3-2、2月1日  
立憲政治の精神的社会的基礎[社説]『六合雑誌』433、2月1日<<U生>>  
全人格の靈動[「講壇」]『六合雑誌』433、2月1日

- ロイドジョージ論[講演大意]『護教』1330、2月2日
- 東北三県学事視察報告『早稲田学報』264、2月10日
- 現代の政治道徳[統一基督教会講演大意]『実力世界』8-3、3月1日
- 私と「新人」との交渉[「回顧と希望」]『新人』18-3、3月1日
- 君子の争[社説]『六合雑誌』434、3月1日
- 支那国教問題に就いて[「時評」]『六合雑誌』434、3月1日
- 選挙権拡張の急務[「時評」]『六合雑誌』434、3月1日
- 立憲政治の教育的基礎[講演要領(於島根県教育会主催講演会)、文責在記者]『島根県教育会雑誌』319、3月31日
- 英吉利の春[「外つ国の春の思ひ出」]『少女の友』10-4、4月1日
- 改良善導の道を講ぜよ[「活動写真を子供に見せしむるの可否」]『婦人公論』2-4、4月1日
- 政界革新事業に於ける言論及び人格の勢力[社説]『六合雑誌』435、4月1日
- 二誌友の立候補に餞す『六合雑誌』435、4月1日
- 人格の至上権[「講壇」]『六合雑誌』435、4月1日
- 東奔西走録[「時評」]『六合雑誌』435、4月1日
- 山路愛山君を悼む[「時評」]『六合雑誌』435、4月1日
- 政治上の旋乾転坤『雄弁』8-5、4月10日
- 総選挙の批判『廓清』7-5、5月1日
- 国民的生活と宗教的訓練[「講壇」]『六合雑誌』436、5月1日
- 言論戦と選挙権拡張と文化の普及『第三帝国』84、5月10日
- 適当なる男女交際の道を講ぜよ[「青年男女交際論」]『婦人公論』2-6、6月1日
- 改革的精神と総合的傾向[社説]『六合雑誌』437、6月1日
- 進歩の大勢[「講壇」]『六合雑誌』437、6月1日
- 夏期講習会に就いて[「論説」]『教育実験界』38-7、7月1日
- 婦人各自頭上の責任[「大戦後に於ける婦人問題」]『新女界』9-7、7月1日
- 宗教の人格的要素『人文』2-7、7月1日
- [「娘の読むべき書物」]『婦人公論』2-7、7月1日
- 混沌と調和と独創と[社説]『六合雑誌』438、7月1日
- 自由主義の使命[「講壇」]『六合雑誌』438、7月1日
- [「休み日と働く時間」]『労働及産業』71、7月1日
- [「都会生活者の採り容れ得べき自然生活味」]『中央公論』32-8、7月15日
- 湖州の思ひ出『大学評論』1-8、8月1日
- 大なる曙の前[社説]『六合雑誌』439、8月1日

独創的精神の発動[「講壇」]『六合雑誌』439、8月1日  
神祇論の著者に就いて『六合雑誌』439、8月1日  
内ヶ崎作三郎氏曰く[談、「名士談片」]『婦女新聞』900、8月17日  
子供を偉く育てたい『家庭及学校』1-4、9月1日  
国民思想界の根本問題—並に其の救済策—『内外教育評論』11-9、9月1日  
来るべき宗教改革『六合雑誌』440、9月1日  
北より南へ[「時評」]『六合雑誌』440、9月1日  
早教育と天才[「新刊批評」]『六合雑誌』440、9月1日<<S、U生>>  
ダンテ神曲浄火篇[「新刊批評」]『六合雑誌』440、9月1日<<S、U生>>  
家族制度と長男の責任『廓清』7-9・10、10月1日  
友の欲しき中学時代『中学世界』20-13、10月1日  
いたずらもの[「新刊批評」]『六合雑誌』441、10月1日<<うちがさき生>>  
台所的婦人から社会的婦人へ『女学世界』17-12、12月1日

## 1918(大正 7)年

文明史眼を以て観る 新時代の新英雄出でよ[「世界の危局に立ちて偉人を憶ふ」]『日本及日本人』721、1月1日  
調和融合の道[「講演」於自由基督教会]『六合雑誌』444、1月1日  
能率問題の根本要素『廓清』8-2、2月1日  
悪風から良風を作る[「生活の新様式」]『婦人之友』12-2、2月1日  
新文明の誕生[「講演」]『六合雑誌』445、2月1日  
私学としての早稲田『中学世界』21-3、2月5日  
教育の可能性[「意見」]『早稲田学報』276、2月10日  
能率の根本義を論ず[社説]『六合雑誌』446、3月1日<<無署名>>[推定根拠：第一次大戦の人・物の総動員によって、能率 *effinnciency* 問題が注目されるに至ったこと、能率の根本要素として時の観念と潜勢力の自覚を挙げ、潜勢力の増進には理想の追求が必須であり、現実満足する40代 *danngerousu age* を克服することが肝要であると述べるなど、同時期に発表した「能率問題の根本要素」(『廓清』8-2、1918年2月1日)pp.9 - 11の一部とほぼ同一の趣旨・言い回しがみられる]  
基督再臨説批判[「講演」1月24日於自由基督教会]『六合雑誌』446、3月1日  
[「『我が環境』に対する感想」]『六合雑誌』446、3月1日  
[「現代名家の見たる結婚に関する三つの問題」]『主婦之友』2-4、4月1日  
世界戦後の宗教問題『大学評論』2-4、4月1日  
無限の実現[「講演」於自由基督教会]『六合雑誌』447、4月1日  
国民試練の時機[「時論」]『基督教世界』1799、4月4日

- 無限の生命と教育[「現代思潮」]『教育時論』1187号、4月5日
- 現代教育の批判—訓練過重の弊—[「論説」]『教育実験界』39-5、5月1日
- 対独逸態度を決定せよ『東亜之光』13-5、5月1日
- 尊き而して楽しむ『内外教育評論』12-5、5月1日
- 永遠の勝利者は誰ぞ[社説]『六合雑誌』448、5月1日
- 制裁と靈感[「講演」]『六合雑誌』448、5月1日
- 出兵問題如何『廓清』8-6、6月1日
- 民衆指導者の理想[「講演」]於自由基督教会『六合雑誌』449、6月1日
- 近代の代表的文学に現れし靈魂不滅[「説苑」]『基督教世界』1809、6月13日
- 永遠の生命を懐ふ[「講演」]於自由基督教会『六合雑誌』450、7月1日
- 暑中休暇は斯くの如く利用せよ[「現代思潮」]『教育時論』1198号、7月25日
- 歴史あつて以来の大事業『新真婦人』64、8月1日
- 所謂寺内首相の失言問題と日英同盟『朝鮮公論』6-8、8月1日
- 民族的大理想[「講演」]於自由基督教会『六合雑誌』451、8月1日
- [無題の短文「数年前紀州新宮に遊び…」云々]『六合雑誌』452、9月1日<<SU生>>[目次にはないが8頁に掲載]
- 旅囊より[短歌7首]『六合雑誌』452、9月1日[目次にはないが122頁に掲載]
- 倫理学より観たる遺伝と環境『廓清』8-9・10、10月1日
- 食糧問題と社会問題[「評論」]『東亜之光』13-10、10月1日
- 米暴動と我社会組織の欠陥[「時局論策」]『雄弁』9-11、10月1日
- 農業文明より工業文明への推移[社説]『六合雑誌』453、10月1日
- 熱血宰相ロイドジョージ『少年倶楽部』5-13、10月10日
- 新文明の建設と日本民族の使命—(国民生活問題の二方面を論ず)『朝鮮公論』6-11、11月1日
- [「日にあまる事 憂はしき事 改めたき事」]『婦人之友』12-11、11月1日
- 自由基督教の先駆者[社説]『六合雑誌』454、11月1日
- 現代人に対する基督の使命[「講演」]『基督教世界』1831、11月14日
- \*世界征服の失敗 独逸を誤つた財閥惨たる敗戦の原因[談]『国民新聞』11月15日[『新聞集成大正編年史 大正七年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1977年)収録、ただし『国民新聞』掲載は確認できない]
- 家庭の重荷から主婦を解放[「よみうり婦人付録 戦後の婦人界」]『読売新聞』11月30日
- 大戦乱と性の問題[「婦人欄」]『大阪講演』216、12月1日
- 婦人運動と青年の純潔『廓清』8-12、12月1日
- 欧州大戦乱の終局に際して[社説]『六合雑誌』455、12月1日
- 日本婦人の将来『神戸新聞』12月20~23日

## 1919(大正 8)年

- 余は声を大にして先づ教育の革新を叫ぶ[「世界大戦の与へたる教訓】『実業之日本』22-1、1月1日
- 独学の偉人『青年雄弁』4-1、1月1日
- 大国民の教養『内外教育評論』13-1、1月1日
- 新時代の英雄と美人『日本及日本人』747、1月1日
- 団欒を越すな[「改廃すべき新年の習慣】『日本評論』92、1月1日
- 文明改造の第一歩[社説]『六合雑誌』456、1月1日
- [「相原なか子夫人を悼む」中の「相原なか子履歴】『六合雑誌』456、1月1日
- 思想界を改造せよ[談]『中央新聞』1月2日
- 婦人の覚醒『神戸又新日報』1月5、6日
- 文明改造の宗教的方面『廓清』9-1<文明改造号>、1月15日
- 国産奨励と教育の革新『国産時報』4-2、2月1日
- 強く美しく賢く[「時代は特に如何なる点に婦人の教養を要望する乎】『新女界』11-2、2月1日
- 新大学令の批判『六合雑誌』457、2月1日
- 真に是れ教育者の態度『六合雑誌』457、2月1日<SU生>[[目次にはないが10頁に掲載]
- 労働者自覚の時期[鈴木文治渡仏送別演説]『労働及産業』90、2月1日
- デモクラシーに就て『小学校』26-11、3月1日
- 民本主義の教育的宗教的社会的基礎[社説]『六合雑誌』458、3月1日[太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 下巻』(新泉社、1971年)収録]
- [「労働組合公認可否】『労働及産業』91、3月1日
- 私立大学の基金問題『早稲田叢誌』1、3月7日
- 女子教育の先覚[「成瀬氏哀悼女子高等教育問題講演会】『婦女新聞』982、3月14日
- 花嫁は斯くして選べば間違ひが無い『主婦之友』3-4、4月1日
- 上品な英国婦人[「世界の婦人】『婦人画報』158、4月1日
- 文明改造と女子高等教育[社説]『六合雑誌』459、4月1日
- 米国人道主義の史的観察『実業之日本』22-8<春季増刊亜米利加号>、4月10日
- 各国の婦人運動と日本『廓清』9-4、4月25日
- 国際的日本の位置と人種問題[社説]『六合雑誌』460、5月1日
- 再び国際連盟を論じて日本の文化の特質に及ぶ[社説]『六合雑誌』461、6月1日
- 結婚訓『中国民報』6月18、22、23日
- [「日本青年の発展すべき天地】『冒険世界』12-7、7月1日
- 唯物的教育の破産の一例としての大犯罪[社説]『六合雑誌』462、7月1日
- 結婚に対する青年男女の自覚[講演抄、「帝都講演】『教育界』18-9、7月3日



- 結婚に対する青年男女の自覚を促す『婦女新聞』1000、7月18日
- 平和来と世界的不安『六合雑誌』463、8月1日
- 朝鮮問題の背景としての形式主義[6月25日講演(於第6回黎明会講演会)]『黎明講演集』6、8月1日
- 〔男子大学開放問題〕『婦女新聞』994、8月6日
- 科学研究の真髓[談]『国民新聞』8月19日
- 南島情調『六合雑誌』464、9月1日
- 人生観上保守自由両派の対立[6月5日講演於第5回黎明会講演会]『黎明講演集』2-1、9月1日
- 潜在能力の確保と其実現[「時代の新目標『能率主義』の宣伝」]『実業之日本』22-20、10月1日
- 夫婦の愛情を育ててゆく秘訣『主婦之友』3-10、10月1日
- 郷友小山鼎浦君の追憶(小山君と吉野君と私)『文化運動』107、10月1日
- 宗教家としての鼎浦[記事「故小山鼎浦氏追悼講演会」中]『文化運動』107、10月1日
- 森村翁を悼みて『六合雑誌』465、10月1日
- 小山東助君の追憶『六合雑誌』465、10月1日[西田耕三編『鼎浦小山東助の思想と生涯』(鼎浦小山東助顕彰会、1979年)抄録]
- 予の労働観[談]『河北新報』10月9、10日
- 改造か再生か(世界改造期に於ける日本の立場を論ず)『六合雑誌』466、11月1日
- 中等教育の欠陥[「社会評論」]『六合雑誌』466、11月1日
- 石田三治君を哀悼す[「社会評論」]『六合雑誌』466、11月1日<<S、U生>>
- 米国禁酒総動員の真相『公論』1-3、12月1日
- 小山鼎浦の宗教思想『六合雑誌』467、12月1日[西田耕三編『鼎浦小山東助の思想と生涯』(鼎浦小山東助顕彰会、1979年)抄録]
- 根本的の改造へ『海か陸か』8-12、12月5日
- 南島情調『早稲田叢誌』2、12月25日

## 1920(大正9)年

- 生活改善と知識及常識『新小説』25-1、1月1日
- 〔島崎藤村氏の懺悔として観た「新生」合評〕『婦人公論』5-1、1月1日
- 羅馬東京間大飛行の文化的意義『六合雑誌』468、1月1日
- 現代教会の思想的覚醒を促す[「論説」]『基督教世界』1887、1888、1月1、8日
- 〔新時代の教育に任ずべき今後の教育者に与ふる言葉〕『教育時論』1250、1月5日
- 〔新年の生活改善〕『婦女新聞』1025、1月11日
- 〔普通選挙標語 我社に寄せたる諸名家の論集〕『国民新聞』1月22日
- 羅馬東京間大飛行の文化的意義『廓清』10-1、2、1月20日、2月25日

- 大犯罪者の子孫を浄化せよ『新小説』25-2、2月1日
- 朝鮮独立運動と青年の態度『朝鮮及満洲』152、2月1日
- 友愛会の起原及び発達を説いて鈴木文治君に及ぶ[「労働運動の指導人物」]『雄弁』11-2、2月1日
- 改造の春[巻頭]『六合雑誌』469、2月1日
- 「教育者と哲学」『創造』2-3、3月1日
- 労資問題に応用せられたる「黄金律」『六合雑誌』470、3月1日
- 新人の行くべき道『実業之日本』23-7、4月1日
- 原内閣の二大失政[巻頭言]『六合雑誌』471、4月1日
- 新教育の根本要綱『教育時論』1259、4月5日
- 現在の英国ぐらゐ[「百年後の日本 どうなるか」]『日本及日本人』780、4月5日
- ロシアに於ける基督教の現状[「評論」]『基督教世界』1902、4月15日
- 春光融々[題言]『六合雑誌』472、5月1日
- 新緑の賛美[巻頭語]『六合雑誌』473、6月1日
- 総選挙の考察と批判『六合雑誌』473、6月1日
- 改造運動の思想的背景『青年雄弁』5-5、6月1日
- 新人の行くべき道『実業之日本』23-7、7月1日
- 国際連盟の諸基礎『東亜之光』15-7、8、7月1日、8月1日[伊藤恵編『思想問題十五講』(日進堂、1921年)収録]
- マツコーレー博士を送る(我国に於ける自由基督教三十年の発達を追懐す)『六合雑誌』474、7月1日
- 新卒業生諸君に饒す[「学説」]『早稲田学報』305、7月10日
- 休養と独創[「学説」]『早稲田学報』305、7月10日
- オックスフォード大学夏期集会の思ひ出『新小説』25-8、8月1日
- ブカレストより東京まで『東方時論』5-8、8月1日
- ボストンの自由宗教大会に出席せんとして[巻頭言]『六合雑誌』475、8月1日
- 自由基督教と社会問題(米国ユニテリアン教会の社会政策案の解説及批判)『六合雑誌』475、8月1日
- 労働者の力 団結力の必要を説く 日本に於ける労働問題婦人問題及思想問題に就き[8月20日講演於リバー街美以教会]『日布時事』8月21日
- 米国人に遠慮は無用 充分説明の要あり[談]『新世界』8月28日
- 取消し文[サンフランシスコ・エグザミナー紙への記事掲載取消し要請状の訳文]『新世界』8月29日
- 南越の旅『六合雑誌』476、9月1日
- 東西両洋文明調和の可能性[9月3日ロサンジェルス講演筆記(於テンペランスホール)]『羅府新報』9月5、7~10日
- 内ヶ崎教授の講演 東西文明の批評[9月3日ロサンジェルス講演「東西文明調和の可能性」大要(於テンペランスホール)]『新世界』9月7日

独創的精神[談]『新世界』9月9日

〔現代青年に対する希望〕『雄弁』11-10、10月1日

外遊短信『六合雑誌』477、10月1日<<うちがさき>>

第七回自由宗教国際会議に臨まんとして『六合雑誌』477、10月1日

米国より『六合雑誌』478、11月1日

## 1921(大正 10)年

労働者の力[講演大要]『人と人』1-1、4月1日

英国に於ける三大社会教育運動『朝鮮』77、6月1日

深く社会に根を下した米国の極東潜勢[談]『新世界』7月25日

世界を一周して[7月3日講演(於統一教会)]『中外新論』5-8、8月1日

米人の心理を解剖して邦人の反省を促す『朝鮮及満洲』166、8月1日

世界漫遊 我が青年への土産『寸鉄』3-9、9月1日

東亞諸邦を中心としたる太平洋問題[「太平洋の争覇戦と日本」]『大観』4-9、9月1日

\*世界を一周して『京都教育』351、9月10日

米国学府の印象[紹介]『早稲田学報』319、320、9月10日、10月1日

国際教育会議に就いて沢柳博士に[談]『教育時論』1311、9月15日

民衆教育の重要機関として絶大勢力を有する米国の活動写真製造工業『実業之日本』24-18、9月15日

日米関係の将来[9月17日講演梗概(於国際基督教徒連盟主催演説会)]『基督教世界』1977、9月29日

「夕ばえ」の歌人としての精子夫人『新人』22-10、10月1日

健康増進法に熱中する欧米人の日常生活振り『実業之日本』24-19、10月1日

欧州戦争の教訓と日米『東方時論』6-10、10月1日

日本国民性と台湾統治策『台湾青年』3-4、10月15日

英米関係の既往現在将来『文明協会講演集』10月15日

華府会議と日本[談]『家庭週報』636、10月28日

太平洋史観『中央公論』36-12、11月1日

金剛山讃咏[「詞壇」]『朝鮮』81、11月1日

日本国民性と台湾統治策[漢文]『台湾青年』3-5、11月15日

欧米の婦人と活動写真『新家庭』6-12、12月1日

原首相の兇変に就いて[「原首相暗殺事件に関連して」]『中央公論』36-13、12月1日

世界の現勢と日本の教育『内外教育評論』15-12、12月1日

日本の国民性批判『廓清』11-12、12月10日

日本人として考究すべき支那と米国『台湾日日新報』12月13~16日

一瞥したる世界の現勢と日本の国際的地位[「台日講話」]『台湾日日新報』12月22~24、27、28、30日

## 1922(大正 11)年

日本の国際的 대표としての大隈侯『廓清』12-1、1月10日

米国婦人の文化的特色『婦人画報』193、1月1日

外人の眼に映じたる大隈侯『実業之日本』25-3<大隈侯哀悼号>、2月1日

教育家としての大隈侯『大観』5-2、2月1日

大隈侯十六面観—国民的指導者としての大隈侯—[「大隈侯の人及び事業」]『中央公論』37-2、2月1日

世界平和の理想『寸鉄』4-3、3月1日

愛蘭自由国の成立『中央公論』37-3、3月1日

天才的女性の環境『婦人画報』195、3月1日

大隈侯の恩師フェルバツキ先生『実業之日本』25-6、8、10、3月15日、4月15日、5月15日

最近英国の思想界及び宗教界『開拓者』17-4、4月1日

英国の教育 系統よりも精神を尚ぶ『新小説』27-4、4月1日

英国文化の基調『中央公論』37-4、4月1日

我等は必ずしも議会の現状に失望せず『時事問題の研究』1-3、4月5日

英国婦人の政治運動『婦女新聞』1144、4月16日

昇格案の善後策『廓清』12-4、5月1日

議会改造の有力なる因子としての教育[「議会改造の批判」]『表現』2-5、5月1日

奉直戦争と支那統一の機運『表現』2-6、6月1日

「大人学校」運動について『人と人』2-7、7月1日

平和主義の思想家と人道主義の政治家『中央公論』37-8、7月15日

体育会の予算に就いて『早稲田学報』329、7月10日

[「ダンスの流行についての感想」]『婦人之友』16-8、8月1日

英米映画の一瞥『上毛新聞』8月3日

火星人の生活を想像して『廓清』12-7・8、8月10日

帝国の人口問題に就て『中外新論』6-9、9月1日

支那の国内統一と民衆教育の普及『日華公論』9-9、9月1日

現代人の生活と結婚『婦人画報』203、9月1日

日鮮融和の真諦 半島文化より見たる朝鮮[談]『国論』8-16、10月1日

大戦後に於ける世界文化の大勢『中外新論』6-10、7-1、10月1日、**1923年**1月1日

一巡りして来た支那の社会と文化観『中央公論』37-12、11月1日  
基督教文化の種々相『中央史壇』5-4、11月1日  
永遠の富と美と若さ『婦人倶楽部』2-11、11月1日  
東洋文化に於ける台湾の地位『台湾』3-9、12月1日  
[「今年中一番私の心を動かした事】』『中央公論』37-13、12月1日  
倫理教の運動『廓清』12-12、12月10日  
ロンドンのクリスマス『基督教世界』2039、12月21日  
新青年に与ふ『上毛新聞』12月23、24、26日  
日本民族の国際的活動と教育の改造『文明協会講演集』12月25日

### 1923(大正 12)年

[「名流と新年の計画】』『家庭雑誌』9-1、1月1日  
文化的修養を[談、「私達は青年に何を望むか】』『新青年』4-1、1月1日  
滔々たる現代の思想界に処する道『やまと新聞』1月22日  
人口問題と我民族の将来『植民』2-2、2月1日  
日支親善と文化事業『早稲田大学新聞』8、2月5日  
民衆的自決の気運を振興せよ[「警視庁論】』『中央公論』38-3、3月1日  
\*雄弁追懷録『聚英』3、[4月1日]  
支那の文化の爲めに日本の為すべき事業の数々『東洋』26-4、4月1日  
戦闘的惨敗 運動の回顧[「談片録】』『婦女新聞』1193、4月1日  
原因を研究して対応策を講ずべし[「思想の険悪化・行動の凶暴化】』『中央公論』38-5、5月1日  
要するに道徳上の問題 学園の神聖を思へ[「早大研究室臨検事件の批判】』『帝国大学新聞』1、6月12日  
社会改造にも忍耐を要す[「知識階級・無産階級の相互抱合論】』『中央公論』38-7、6月15日  
見たロシアと見ぬロシア『中央公論』38-7、6月15日  
地方文化運動の指導者たれ 地方文化史の研究者たれ[「地方に於て父祖の業を継ぐ中学卒業生は郷党における知識階級】』『中央公論』38-7、6月15日  
バートランド・ラッセルの対支文化政策観『国際知識』3-7、7月1日  
迫害は砂の縄を網ふが如し[「共産党結社嫌疑検挙事件の厳正批判】』『中央公論』38-8、7月1日  
[「学問の自由研究と学園の臨検】』『表現』3-8、8月1日  
[「日本髪と洋髪(東髪)はどちらが好いでせう】』『婦人倶楽部』4-8、8月1日  
米国に於ける宗教の改革運動『朝鮮』<第百号記念増刊>、8月25日  
日本文化に及ぼしたる環太平洋地震圏の影響『中央公論』38-12、11月1日  
大地震を予知した不思議な少年『雄弁』14-11、11月1日

私刑暗殺有害[「甘粕事件に関する感想」]『婦人之友』17-11、11月7日  
大震災と国際平和の推進『国際知識』3-11、11月10日  
精神的解釈[「震災と宗教体験」]『基督教世界』2086、11月22日  
第二維新の先駆 文化的中央集権と地方分権『文化生活』1-7、2-1、11月23日、**1924年**1月1日  
[「私共のページ 私信」]『文化生活』1-7、11月23日  
沼南翁の追憶[談]『早稲田大学新聞』20、11月25日

### 1924(大正 13)年

人生と科学と宗教と『憲政公論』4-1、1月1日  
女性の求むる宗教『女性』5-1、1月1日  
[「普通選挙の可否に関する名士の回答」]『太陽』30-1、1月1日  
大震災談『新人』25-2、3、2月1日、3月1日  
ウイルソンの死[「世界戦争が産んだ二大人物の死」]『中央公論』39-3、3月1日  
学者にして政治家たりしウイルソン『国際知識』4-4、4月1日  
政局の将来[「総選挙と護憲内閣の前途」]『改造』6-6、6月1日  
[「余の政見」]『実業』4-6、6月1日  
政治と道徳と宗教と『新人』25-5、6月1日  
鈴山会に臨みて『憲政』7-6、6月10日  
朝鮮講演旅行[「地方廻りの記」]『国際知識』4-10、10月1日[目次にはないが156～158頁掲載]  
赤化及反動思想の根底—生活苦と社会不安の生める両思想—『新使命』1-3、12月1日

### 1925(大正 14)年

公休日統一[「余が外遊の所感中是丈けは是非日本で改良したいと思ふ事」]『実業之日本』28-1、1月1日  
政治現象を支配する環境の威力『憲政』8-1、1月10日  
文部当局及び社会思想研究会員に対する希望[「学生の社会科学研究団解散問題」]『中央公論』40-2、2月1日  
日  
キリスト教より観たる人性の苦悩と争闘『婦女界』31-2、2月1日  
[「女子高等教育と諸家の意見」]『婦女新聞』1287、2月8日  
女子高等教育の文化的意義[2月14日帝国教育会内女子教育振興委員会主催女子高等教育振興演説会於神田青年会館]『家庭週報』779、2月20日  
男女共学と教育振興問題『新使命』2-3、3月1日  
無原則の国民文化の悲哀[巻頭言]『新人』26-3、3月1日  
女子振興教育に関する一私見『憲政公論』5-3、3月1日

- 「あなたの夫人、令嬢、令妹などが職業を持つことをお望みになりましたら」『婦人之友』19-3、3月1日
- 「吾等の主張」『廓清』15-3、3月10日
- 政治を理解する事は急務中の急務[「青年は政治問題に対して如何なる態度を執るべきか」]『青年』10-4、4月1日
- 「我が愛誦の讚美歌」『婦人之友』19-4、4月1日
- 女子高等教育 提唱する其理由『山陽新報』4月3日
- 普選礼賛[短歌]『憲政公論』5-5、5月1日
- 官界の門戸開放に就て[「意見」]『早稲田学報』363、5月10日
- 現内閣の新政策[「生活不安と産業立国」]『中央公論』40-6、6月1日
- 「愛児命名録」『婦人公論』10-6、6月1日
- 土屋君の努力と新研究への希望[「読書ページ 新著週評 日本宗教史二種」]『東京朝日新聞』6月7日
- 「海、船に対する諸家の感想」『海の旅』4、7月1日
- 「日曜と家庭」『婦人公論』10-7、7月1日
- 社会の進化と女子教育の振興[「意見」]『早稲田学報』365、7月10日
- お国自慢も悪くはない[「一人一話」]『東京』2-8、8月1日
- 自由主義より社会政策へ『廓清』15-8、8月10日
- 東西文明の相互影響[「一人一講 民衆大学講座」]『現代』6-9、9月1日
- 紀行漫筆 能登の謎『雄弁』16-11、11月1日

## 1926(大正 15・昭和元)年

- 「世界平和の日」『婦人之友』20-1、1月1日
- 「諸家回箋 問 新しい年に於ける私共婦人の生活の目標は、何処に置くべきでありませうか」『婦女新聞』1334、1月3日
- ポリネシア文化[「最近の読書感」]『帝国大学新聞』151、1月25日
- 父は娘の為に斯くあれと希望する 日本の女らしき女であることを望む[「現代の娘を如何に教育すべきか」]『主婦之友』10-2、2月1日
- 世界文化史大綱[「政治経済講座」]『憲政公論』6-2、5、6、7、9～12、7-1～5、『民政』1-1～3、6、7、2-1、6～12、3-1～3、5、7、2月1日、5月1日、6月1日、7月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、**1927年**1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、11月1日、12月1日、**1928年**1月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月6日、11月1日、12月1日、1929年1月1日、2月1日、3月1日、5月1日、7月1日
- 「公開状 女より男へ 男より女へ」『婦女新聞』1339、2月7日
- 国民文化の国際的貢献[「隣人愛」]『教界時報』1790、2月26日
- 故総裁の思ひ出で[「加藤伯八面観」]『憲政公論』6-3、3月1日

- 〔娼妓取締規則改正建議案所感〕『廓清』16-3、3月10日
- 多方面の新総裁〔若槻首相に投ぜらるる朝野の礼賛〕『憲政公論』6-4、4月1日
- 〔新時代の女性に望む資格のいろいろ〕『婦人之友』20-4、4月1日
- 日本政治史に於ける尾張の地位『憲政公論』6-5、5月1日
- 東西文明の相互影響『ラヂオ講演集』3、5月30日
- 北海道第二期拓殖の理想〔人口及び食糧問題研究〕『憲政公論』6-6、6月1日
- 〔現存の政治家では誰が好きか？－並びに好きな理由－〕『随筆』1-1、6月1日
- 〔細君の俸給問題是非〕『婦人公論』11-6、6月1日
- 著作権改正案上提に就て『文芸春秋』4-6、6月1日
- 第五十一議会と労働立法〔記事「校報 科外講義」の中。5月13日早稲田大学科外講義抄〕『早稲田学報』376、6月10日
- 若槻内閣は和戦両様の準備を進めてる模様だ『河北新報』6月15日
- \*海洋文化国としての日本『現代』7-7、7月1日〔富山房編輯部編『国語科教授の実際－帝国実業読本提要－巻五』（富山房、1938年）収録、ただし、『現代』7-7に掲載を確認できない〕
- 処世学『実業之日本』29-13、7月1日
- 短歌三首〔記事「会報 高田校友会」の中〕『早稲田学報』377、7月10日〈愛天学人〉
- 知識美の勝利〔学問をした女と学問をせぬ女との差〕『婦人公論』11-9、9月1日
- 早稲田校史の一挿話〔意見〕『早稲田学報』379、9月10日
- 〔諸名士の回答 現代社会に對する不平不満又は改善したく思ふ事〕『実業之日本』29-19、10月1日
- 俸給生活者の生活考『文化生活』4-10、10月1日
- 陰謀政治より政策本位へ〔総選挙の準備〕『憲政公論』6-12、12月1日

## 1927(昭和2)年

- 〔諸名士の觀たる理想内閣〕『宇宙』2-1、1月1日
- 警察官の想像力と常識の涵養に就いて〔論説〕『日本警察新聞』700、1月10日
- 普選は国威の発揚〔普選八面鉞〕『現代』8-2、2月1日
- 独断と自由〔特別付録 大演説会演説集〕『雄弁』18-2、2月1日
- 河内国金剛山のふもにて〔芳墨一滴〕『面白俱樂部』12-3、3月1日
- 半島会に臨みて〔短歌〕『憲政公論』7-4、4月1日
- 〔日曜と郵便〕『中央公論』42-7、7月1日
- 天魔峡谷〔随筆〕『文芸春秋』5-8、8月1日
- 演説会は斯く改良したい『雄弁』18-8、8月1日
- 断じて撤退するな〔時局に直面する同仁会事業に対する批判〕『同仁』1-4、8月10日



〔「愚問賢答 1 涼趣三題 2 全集物と私」〕『春秋』 1-6、9 月 1 日

投票場を増加せよ〔「普選第一戦の総決算の八面評論」〕『中央公論』 42-11、11 月 1 日

## 1928(昭和 3)年

昭和戊辰を迎へて 日本文化に対する東北の貢献『河北新報』 1 月 1 日

〔(一)現代青年の信条とすべきものについて(二) 現代青年の教養として、如何なる方向に一層力を注ぐ必要を感じられつゝありや〕『青年』 13-1、1 月 1 日

余が雄弁修練の道程―感化薫陶を受けた先輩知友数十名士―『雄弁』 19-3、3 月 1 日

特別議会に直面して〔「各政党代表者普選批判大講演」〕『法曹公論』 32-4、4 月 1 日

無産党は民政党と提携せよ『実業時代』 5-5、5 月 1 日

日本文化の発達とその基礎『補習教育』 63、5 月 1 日

鞍馬山より平泉まで―牛若が夢みたる平家内閣倒壊運動の跡を偲びて―〔「銷夏隨筆」〕『我観』 58、8 月 1 日

〔短歌〕『民政』 2-8、8 月 1 日《内ヶ崎愛天》

歌二首〔「遠い夢・近い夢」〕『婦人之友』 22-9、9 月 1 日

教育改造の諸問題『民政』 2-9、9 月 1 日

「再生の欧米を観る」〔「読書ページ」〕『東京朝日新聞』 9 月 28 日

世界雄弁史(雄弁十二講)『雄弁』 19-10、11、10 月 1 日、11 月 1 日

洋々たる平和の瑞気〔「御大典に参列し感銘したこと」〕『実業之日本』 増刊号、11 月 20 日

ワシントンの事ども〔「何が彼を偉大ならしめたか」〕『雄弁』 19-12、12 月 1 日

## 1929(昭和 4)年

〔「政界小観 一、今期議会与田中内閣の前途、二、二大政党対立か小党分立か」〕『祖国』 2-1、1 月 1 日

〔「進歩したと思ふこと 退歩したと思ふこと」〕『婦人之友』 23-1、1 月 1 日

物質を悪用する田中内閣〔「四頁時評」〕『民政』 3-1、1 月 1 日《愛天学人》

御大典の精神に戻る〔「四頁時評」〕『民政』 3-1、1 月 1 日《愛天学人》

国際的日本文化の建設『海外』 24、2 月 1 日

現行女子校教科書を改変せよ〔「婦人世界主催女子教育諸問題誌上批判会」〕『婦人世界』 24-2、2 月 1 日

甦正せよ!! 東京市会〔「四頁時評」〕『民政』 3-2、2 月 1 日《愛天学人》

記念すべき二月廿二日と百七十二〔「四頁時評」〕『民政』 3-3、3 月 1 日《愛天学人》

〔「小選挙区制批判」〕『我観』 65、4 月 1 日

長脇差しを思ひ出す 上毛と政党の将来〔談〕『上毛新聞』 4 月 1 日

危険思想の取締について〔「各人各論」〕『朝鮮公論』 17-4、4 月 1 日

- 専制政治と何ぞ扱ばむ[「四頁時評」]『民政』3-5、5月1日《愛天学人》
- 兄弟内闘む勿れ(露領漁区不当落札問題)[「四頁時評」]『民政』3-5、5月1日《愛天学人》
- [「普選議会の感想と将来の政局」]『民政』3-5、5月1日
- ゆとりある研究[「学芸」]『早稲田大学新聞』1、5月20日
- ガーター勲章の文化史的意義『民政』3-6、6月1日《愛天学人》
- [「一、貴台の青年の頃の青年団と現在の青年団と比較してのご感想 二、最も困難であられた時代の思ひ出とその打開に就いての御覚悟」]『青年』14-8、8月1日
- 日本政治史の一考察[6月15日講演(於東京地下鉄道会社講堂)]『講演』84、8月31日
- 此の事件で考へさせられること[「二人の愛児と良人を捨て、愛人藤原義江氏に走つた家庭の叛逆者松永秋子夫人の態度を社会は何と見るか?」]『主婦之友』13-9、9月1日
- 東西文化の史的相関『政治経済時論』4-9、9月1日
- 東西文化の史的相関『朝鮮及満洲』263、10月5日
- 遷御の儀に列して[「祝歌」]『東京朝日新聞』10月8日[『新聞集成昭和編年史 昭和四年度版IV』(新聞資料出版、1990年)収録]
- 議会政治の特色[「寄稿論文」]『早稲田大学新聞』17、11月14日
- 捨身の極致[「来賓の眼に映じたる大会」]『警察協会雑誌』352、12月7日

## 1930(昭和5)年

- 江戸時代に於ける改革運動と今日の緊縮政策『斯民』25-1、1月1日
- 国民性と思想問題『民政』4-1、1月1日
- [「優生運動で差当り何をしたいか?」]『優生運動』5-1、1月1日
- 金解禁と国民の覚悟[講演筆記抄「思潮」]『日本警察新聞』808、1月10日
- 民政党の社会政策『経済知識』3-2、2月1日
- 我が党の社会政策『民政』4-2、2月1日
- 民政党の社会政策『東方公論』5-2、2月1日
- 選挙心理の大浪[「落選記録」]『中央公論』45-4、4月1日
- 意志あるところ道あり『雄弁』21-8、8月1日

## 1931(昭和6)年

- [「明日の女性に要求される一つの資格」]『婦人之友』25-1、1月1日
- 随感録に現れたる浜口前総裁の人格と理想[「千古に輝やく遺稿『随感録』読余感」]『民政』5-11、10月1日

## 1932(昭和 7)年

「新代議士は如何に女性のために戦ふか」『婦人公論』17-4、4月1日

議会政治か独裁政治か[文責在記者]『民政』6-5、5月1日

教壇に立つて[「名士と散歩」]『サンデー毎日』11-27、6月5日

農村応急対策座談会『大阪毎日新聞』6月13～22、24、25、26、28～30日、7月2～7日[『東京日日新聞』6月14～19、21～26、28、30日、7月2、3、5～7日][6月11日座談会(於東京会館):東武、有馬頼寧、小川郷太郎、岡田温、大口喜六、加藤完治、加藤知正、上山満之進、後藤文夫、杉山元治郎、千石与太郎、添田敬一郎、東郷実、那須皓、中野正剛、深井英五、福沢泰江、松村謙三、三土忠浩、森恪、矢作栄蔵、矢野恒太、(本社側)岡副社長、岡崎総務、西村副主幹、杉山経済部長、松岡編集顧問、阿部論説委員]

昭和国民の大使命—憲法政治完成—『東邦時論』9-7、7月1日

わしが国さの雪国日本 内ヶ崎作三郎氏は語る[談話筆記、「党人閑話」]『民政』6-7、7月1日

政治家としての永井君[「永井柳太郎君を語る」]『早稲田学報』450、8月10日

「名士 問合せ回答 一、私が三十五才の時は何処で何をしてみたか。 二、今から三十五年前(明治三十年)の私は、何処で何をしてみたか。」『実業之日本』35-19、10月1日

## 1933(昭和 8)年

故浜口総裁の伎楽面風肖像の来歴[「漫文・随筆」]『民政』7-3、3月1日<<愛天学人>>

三陸大津浪跡の印象『改造』15-4、4月1日

吉野作造君と私[「吉野博士を偲ぶ」]『中央公論』48-5、5月1日[赤松克麿編『故吉野博士を語る』(中央公論社、1934年)収録]

三陸地方大地震大津波の全容[「三陸地方大災害特輯」]『婦人世界』28-5、5月1日

軍部進出と政党の基礎[「軍部進出と政党の態度」]『政治経済時論』8-6、6月1日

二茶録(一茶と茶白山を中心として)『文芸春秋』11-6、6月1日

外来文化及思想と国民性『社会政策時報』154、7月1日

森林太郎先生[「恩師の思ひ出」]『実業之日本』36-19、10月1日

## 1934(昭和 9)年

憲政危機の種々相[「議会政治を検討する」]『民政』8-1、1月1日

「私の日記」『現代』15-2、2月1日

憲政に対する島田先生の貢献『廓清』24-2、2月10日

当るも八卦当らぬも八卦[読者の相談「易断の為に行悩む結婚」に対する回答]『相談』2-3、3月1日

早婚晩婚の可否を語る座談会『婦女界』49-4、4月1日[座談会:久米正雄、手島益雄、邦枝完二、圓地文子、阿部ツヤコ]

加藤政之助翁の八十寿を祝して[短歌]『民政』8-4、4月1日

田口卯吉先生の「日本開化小史」[「書齋から発掘する」]『読売新聞』7月20日

懐書録『書物展望』4-8、8月1日

緑蔭閑話[「涼風閑話」]『文芸春秋』12-8、8月1日

支那の社会文化相『国際知識』14-10、11、10月1日、11月1日

日英関係の現状及び将来『実業之日本』37-20、10月15日

全国的災害に直面して『民政』8-11、11月1日

### 1935(昭和10)年

東北農村惨状報告書『政治経済時論』10-1、1月1日

寒入りの前後—随筆—『文芸春秋』13-2、2月1日

東劇の『勸進帳』を中心に[「二月芝居」]『報知新聞』2月9～11日

尾崎老表彰の日に[「随感随想」]『政治経済時論』10-4、4月1日

文豪坪内逍遥先生に献ぐる弔辞『文芸』3-4、4月1日[開高健編『神とともに行け—弔辞大全Ⅱ』(新潮社、1986年)、『近代作家追悼文集成 16』(ゆまに書房、1987年)収録]

坪内博士を弔ふの辞『芸術殿』5-5<坪内逍遥先生追悼号>、5月1日

廃娼の闘士三宅馨先生を偲ぶ座談会『婦人新報』448、7月1日[6月13日座談会(於丸ノ内会館):三宅千代子、伊藤秀吉、星島二郎、時田田鶴子、金子しげり、安部磯雄、永井柳太郎、平賀徳造、瀬尾芳夫、ガントレット恒子、守屋東、千本木道子、島津とし子、川又優美子]

頭連自在詩[「中央公論想ひ出集」]『中央公論』50-10、10月1日

\*日米親善の新傾向『ニッポンとアメリカ』創刊廿年記念号、10月18日

対満政策の帰趨と其新展開『経済情報』10-29、11月1日

### 1936(昭和11)年

\*中学生諸君の覚悟『上級英語』[10-11]、1月1日

次の時代を語る座談会『政界往来』7-1、1月1日[座談会:岡部長景、野村秀雄、喜多壮一郎、風見章、牧野良三、坂口二郎、藤沼庄平、木舎幾三郎]

国家的影響をもつ時事問題の討論会 オックスフォード大学『早稲田大学新聞』45、7月29日

頭の訓練に漢字を[文責在記者]『斯文』18-10、10月1日

お国自慢 陸前の巻『時事新報』11月3、4日

### 1937(昭和12)年

横系の協定[「日独防共協定日伊協定を如何に見る乎?」]『祖国』9-1、1月1日

帝国議會を語る会『祖国』9-2、2月1日[1936年12月25日座談会(於星ヶ岡茶寮):伊藤仁太郎、大竹貫一、亀井貫一郎、鶴見祐輔、清瀬一郎、浜田国松、岡田忠彦、田川大吉郎、麻生久、望月圭介、北吟吉、鈴木正吾、岩瀬亮、浅岡信夫]

〔「最近の読書」『日本読書新聞』3、3月11日

独学者の特権を誇れ〔校外生諸君に送る言葉—社会各方面の諸名士より—〕『新天地』3-1、4月15日

霊前に献ぐる吾人の決意『基督教世界』2777<海老名弾正追悼号>、6月3日

〔夏休みを斯うする〕『早稲田大学新聞』79、7月7日

指導者實修所を觀て『少年団研究』14-8、8月1日

愛国切手の誕生秘話『主婦之友』21-9、9月1日

高野山にて〔「民政歌壇」〕『民政』11-9、9月1日

日本精神の発揚〔10月17日講演要旨(於国民精神総動員大講演会)、文責在記者〕『斯民』32-11、11月1日

国民精神総動員と職業指導『公民教育』7-12、12月1日

国民精神総動員と職業指導〔11月11日 JOAK 放送講演速記〕『職業指導』10-12、12月1日

青年学校を語る『青年と教育』2-12、12月1日

事変と美術雑感〔談〕『塔影』13-12、12月15日〔『戦争美術の証言 上』<美術批評家著作選集 第20巻> (ゆまに書房、2017年)収録]

\*二高創立五十年記念講演記録『尚志』<第二高等学校同窓会>167、12月〔小野寺宏『内ヶ崎作三郎の足跡をたどる』(非売品、2007年)pp56~61に引用]

## 1938(昭和13)年

〔「将来の語学教育について」〕『ザ・カレント・オヴ・ザ・ワールド』15-1、1月1日

国民精神総動員の五大眼目『朝鮮及満洲』362、1月1日

英語教授法に関する二三の希望『The bulletin of the Institute for Research in English Teaching』139、140、1月6日、2月1日〔第1回掲載の表題は「英語教授に関する二三の希望」]

内ヶ崎氏を囲んで北支文化工作への現地視察を聴く『早稲田大学新聞』94、95、1月19、26日〔座談会：杉森孝次郎、青柳篤恒、出井盛之]

国民精神総動員の五大眼目『家事及裁縫』12-2、2月1日

事変と婦人の覚悟『家庭』8-2、2月1日

銃後に於ける若き人々の堅忍持久の精神〔講演速記録〕『教育研究』477、2月1日

英語教授法に関する二三の希望〔1937年11月1日講演(於英語教授研究大会)〕『文部時報』611、2月21日

新支那学の提唱『斯文』20-3、3月1日〔『漢文普及の急務並に之に関する斯文会の活動』(斯文会、1938年3月22日)収録]

\*国力の伸張と英語の学習『上級英語』[14-1]、3月1日

対支文化事業私案—北支・中支を視察して—〔談〕『帝国教育』714、4月1日

東亜大陸に発展せんことを〔「青年日本に何を期待するか」〕『新天地』5-1、4月15日

第二期総動員運動の中心問題『民政』12-5、5月1日

- 支那の民族性と教化運動[4月30日講演(於神田・一ツ橋講堂)]『講演時報』15-14、5月15日
- 堅壁清野戦術の対策[5月10日(於日本貿易協会第154回午餐会)]『貿易』38-6、6月1日
- 大陸政策としての文化事業私案『民政』12-6、6月1日
- 現下の時局と海老名先生[感話大要(於5月22日海老名弾正先生記念会)]『廓清』28-6、6月10日
- 日本古典の世界的進出ーケンブリッジ大学入学試験に関連してー『文部時報』624、7月1日
- 現下教育問題の核心を衝く座談会『文芸春秋』16-13、8月1日[座談会：長谷川如是閑、木村正義、膳桂之助、木内きょう、倉橋惣蔵、城戸幡太郎、小西重直、三輪田元道]
- \*二高創立五十年記念講演記録『同窓会報』<第二高等学校同窓会>44、8月
- 支那の現地を見て我国教育界に望む『理科教育』<啓文社>7-9、9月1日
- 学院卒業生の飛躍を望む『東北学院時報』139 附録、10月1日
- 支那事変と教化事業『道德教育』7-11、11月1日
- 坪内博士の追懐[談話筆記]『季刊演劇博物館』9・10、11月15日

## 1939(昭和14)年

- 大東亜建設への教育『学習研究』18-1、1月1日[「思潮梗概」欄『教育論叢』41-2、1939年2月に抄録]
- 「語学教育をいかにして時局に対処せしむべきか？」『カレント・オブ・ザ・ワールド』16-1、1月1日
- 文部大臣荒木貞夫[「各省次官の大臣人物観」]『実業之世界』36-1、1月1日
- 新生支那の文化工作『斯民』34-1、1月1日
- 聖戦第三年を迎へてこれからの日本これからの支那を語る座談会『青年』24-1、1月1日[座談会：中野正剛、久保田久晴、松本忠雄、小平権一、伍堂卓雄、白鳥敏夫]
- 新城新造博士を追悼して『天文』2-1、1月1日
- 映画による日支親善の重要性『国際映画新聞』237、1月5日
- 「少年時代を顧みて今日の子供の教育より進んでみると思ふ点、劣つてみると思ふところ」『愛児』8-3、3月1日
- 宗教団体法案への期待『政界往来』10-3、3月1日
- 私学振興と国民精神総動員『帝国教育』727、5月1日
- 今や革新政策断行の秋『民政』13-5、5月1日
- 学生に寮舎を[「日曜随想」]『都新聞(夕刊)』5月15日[黒田重吉編『時局百眼』(秋豊園出版部、1939年)収録]
- 支那風土と国民性[1938年6月20日講演(於東洋婦人教育会)]『東洋婦人教育会々報』1、6月25日
- 新興日本国民運動の提唱『民政』13-7、7月1日
- 教育制度の欠陥を論ず[「国内制度改革問題」]『経済情報 政経篇』14-18、7月10日
- 立憲民政党政務調査館五箇年計画の完成に就いて『民政』13-8、8月1日
- 「旅行の良書珍本」『旅』16-9、9月1日

府県会議員選挙に直面して『民政』13-9、9月1日

〔「夏だより 諸家の動向」〕『カレント・オヴ・ザ・ワールド』16-10、10月1日

府県会選挙の結果を顧みて『民政』13-10、10月1日

教育刷新を語る座談会—学科試験廃止問題を中心にして—『婦人之友』33-11、11月1日〔座談会：小林澄兄、河上丈太郎、城戸幡太郎、佐々木秀一、関口泰、谷川徹三、為藤五郎、羽仁吉一、羽仁もと子〕

旧暦九月十三日夜偶成〔「民政吟壇」〕『民政』13-11、11月1日〈愛天内ヶ崎〉

〔「良書紹介」〕『図書』47、12月5日

伝記編纂を引受けて〔「島田先生を偲ぶ」〕『廓清』29-12、12月10日

## 1940(昭和15)年

〔「興亜の大業と語学者の使命」〕『ザ・カレント・オヴ・ザ・ワールド』17-1、1月1日

〔「二千五百年代を顧みて二千六百年代を想ふ」〕『婦人之友』34-1、1月1日

皇紀二千六百年を迎へて我が党の使命を想ふ『民政』14-1、1月1日

政党は復活するか『話』8-2、2月1日〔1939年12月11日座談会(於芝紅葉館)：清瀬一郎、亀井貫一郎、丸山幹治、油谷義治、木村正義、植原悦二郎、秋定鶴造〕

米内内閣に望む『民政』14-2、2月1日

挽春陽頼母木市長〔「民政吟壇」〕『民政』14-3、3月1日〈愛天内ヶ崎〉

悼東京市長『政界往来』11-4、4月1日〈愛天学人〉

第七十五議会の成績を顧みて『民政』14-4、4月1日

先生と新人会『基督教世界』2928〈海老名弾正先生永眠三周年記念号〉、5月16日

尺貫法と教育『芸術』18-10、5月25日

次蘇山詞兄悼亡詩韻〔「民政吟壇」〕『民政』14-7、7月1日〈愛天内ヶ崎〉

## 1941(昭和16)年

〔「故国から在米同胞へ各方面名士の進言」〕『羅府新報』1月1日

〔「ハガキ回答 わが家の代用食」〕『実業之日本』44-5、3月1日

教員優遇の内外両方向の観察『帝国教育』750、4月1日

〔「良書紹介」〕『図書』63、4月5日

## 1942(昭和17)年

〔「一、目下探訪中の書籍 二、最近興味深く読んだもの ハガキ回答」〕『読書と文献』2-2、2月1日

〔「近く挙行される衆議院総選挙所見」〕『東亜国政』2-3、3月15日

時代と人物を語る『政界往来』13-8、8月1日〔7月10日座談会(於政界往来会館)：半沢玉城、城戸元亮、

春名成章]

新秋雑感[談]『東亜国政』2-9、9月7日

南方建設の雄図[巻頭言]『実業之日本』45-18、9月15日

### 1943(昭和 18)年

勇躍征いて敢闘せよ[講演要旨]『早稲田大学新聞』314、11月24日

[「弔加藤・助川兩代議士」]『翼賛政治』2-12、12月1日

### 1944(昭和 19)年

南方共栄圏の復興と建設[「現地に視る」]『実業之日本』47-2、1月15日

九人の聾兵士に寄す[「文芸」]『聾啞の光』3-1、5月30日

永井君を憶ふ『大日本教育』794、12月1日

### 1945(昭和 20)年

大東亜戦争と海老名先生[講演大要]『廓清』35-1、1月10日

雄弁家としての永井柳太郎君『翼賛政治』4-2、2月1日



### 3. 帝国議会衆議院本会議演説

\* 『官報号外 衆議院議事速記録』は、『官報号外』と略記した。

#### 第 50 回通常議会(1924 年 12 月 26 日～1925 年 3 月 30 日)

女子高等教育の振興に関する建議案の説明、3 月 10 日『官報号外』25、1925 年 3 月 11 日[「女子高等教育ノ振興ニ関スル建議案」と題して、丸岡秀子編『日本婦人問題資料集成 第八巻 思潮(上)』(ドメス出版、1976 年)収録]

高等試験委員官制改正に関する建議案の説明、3 月 20 日『官報号外』31、1925 年 3 月 21 日

#### 第 51 回通常議会(1925 年 12 月 26 日～1926 年 3 月 25 日)

著作権法中改正法律案提出理由の説明、3 月 25 日『官報号外』37、1926 年 3 月 26 日

#### 第 52 回通常議会(1926 年 12 月 26 日～1927 年 3 月 25 日)

著作権法中改正法律案提出理由の説明、3 月 11 日『官報号外』24、1927 年 3 月 12 日

仙台市高等師範学校設置に関する建議案について発言、3 月 11 日『官報号外』24、1927 年 3 月 12 日

#### 第 56 回通常議会(1928 年 12 月 26 日～1929 年 3 月 25 日)

治安維持法改正反対意見、3 月 2 日『官報号外』24、1929 年 3 月 3 日

治安維持法改正反対意見、3 月 5 日『官報号外』25、1929 年 3 月 6 日

救護法案について質問、3 月 16 日『官報号外』34、1929 年 3 月 17 日

#### 第 62 回臨時議会(1932 年 6 月 1～14 日)

雪国日本の根本対策に関する建議案に対する賛成演説、6 月 7 日『官報号外』5、1932 年 6 月 8 日

#### 第 64 回臨時議会(1932 年 12 月 26 日～1933 年 3 月 25 日)

地租法中改正法律案提出理由の説明、2 月 18 日『官報号外』15、1933 年 2 月 19 日

震災被害者に對する租税の免除猶予等に関する法律案に対する賛成意見、3 月 16 日『官報号外』27、1933 年 3 月 17 日

決議案(思想対策に関する件)賛成演説、3 月 24 日『官報号外』30、1933 年 3 月 25 日

#### 第 65 回通常議会(1933 年 12 月 26 日～1934 年 3 月 25 日)

決議案(国策確立に関する件)に対する反対演説、3 月 25 日『官報号外』30、1934 年 3 月 26 日

**第 67 回通常議会(1934 年 12 月 26 日～1935 年 3 月 25 日)**

坪内逍遙逝去に対し院議をもって弔辞を贈呈する件について賛成意見、3 月 2 日『官報号外』21、1935 年 3 月 3 日

**第 70 回通常議会(1936 年 12 月 26 日～1937 年 3 月 31 日)**

決議案(帝国議会図書館並議員事務室建設の件)趣旨弁明、3 月 25 日『官報号外』31、1937 年 3 月 26 日

**第 74 回通常議会(1938 年 12 月 26 日～1939 年 3 月 25 日)**

故議員宮沢清作君に対し弔詞贈呈の動議、3 月 16 日『官報号外』26、1939 年 3 月 17 日

**第 79 回通常議会(1941 年 12 月 26 日～1942 年 3 月 25 日)**

衆議院副議長就任の挨拶、12 月 25 日『衆議院議事速記録号外』1939 年 12 月 25 日

**第 80 回臨時議会(1942 年 5 月 25 日～5 月 27 日)**

衆議院副議長就任の挨拶、5 月 26 日『衆議院議事速記録号外』1942 年 5 月 26 日

**第 87 回臨時議会(1945 年 6 月 9～12 日)**

副議長辞任の挨拶、6 月 8 日『衆議院議事速記録号外』1945 年 6 月 8 日

**第 88 回臨時議会(1945 年 9 月 4～5 日)**

勅語奉答文起草委員長報告、9 月 4 日『官報号外』1、1945 年 9 月 5 日

付記 小野寺宏「著作目録」(『内ヶ崎作三郎の足跡をたどる』非売品、2007年)887-1012 頁について

小野寺宏編「著作目録」(以下「著作目録」と略記)に採録されている資料のうち、本著作目録では採録しなかった資料については<I>に、本著作目録とは掲載誌名・巻号数・刊行年月が異なる資料のうち、掲載誌名の誤記については<II>に、掲載誌の巻号数または刊行年月の誤記については<III>に示した。

<I>下記は、本著作目録では採録していない。

- (1)『自由基督教』<宗教叢書>日月社、1915年  
刊行の有無未詳のため採録を保留した。
- (2)東西思想の接触『帝国文学』10-1、1904年1月  
無署名であり、内ヶ崎の著作とする積極的根拠はない。  
小野寺宏「作三郎の『帝国文学』への寄稿」(前掲『内ヶ崎作三郎の足跡をたどる』)208~210頁でリストアップしている『帝国文学』寄稿リストは「著作目録」より脱漏が少ないが、そこでは、『帝国文学』第10巻第1号の「海外騒壇」欄への寄稿として「著作目録」に漏れている「チャールズ・ワツレン・ストッダード氏」はあるが、著作目録にある「東西思想の接触」はない。
- (3)官吏夏休廃止の功過批判『中央公論』37-8、1922年8月  
目次ではアンケート回答者の1人として内ヶ崎の名があるが、本文中に内ヶ崎の回答はない。また、掲載号数は37年9号(1922年8月1日)である。
- (4)俺しは前代議士サ『民政』4-5、1930年5月  
「俺しは前代議士サ」(135頁掲載)は、内ヶ崎関係記事であって内ヶ崎の著作ではない。
- (5)現代婦人界思潮『婦人くらぶ』4巻11号、1911年11月  
他誌からの抄録である。本著作目録では初出の注記として以下のように表示した。(6)~(10)まで同様である。  
良妻とは何ぞや『婦人乃鑑』10、1911年10月1日[「現代婦人界思潮」欄『婦人くらぶ』4-11、1911年11月に抄録]
- (6)自己と社会『弘道』253、1913年4月  
政治の刷新か心霊の改革か『六合雑誌』386、1913年3月1日[「自己と社会」と題して、「思潮」欄『弘道』253、1913年4月1日に抄録]
- (7)失敗を撃破して大成功を得るの覚悟『弘道』264、1914年3月  
失敗失意を撃破して成功を獲得するの覚悟『実業之日本』17-4、1914年2月15日[「弘道』264、1914年3月に抄録]
- (8)時代思潮と女子教育家『女子教育』11巻9号、1914年9月  
基督教女子教育家に望む『新女界』6-7、1914年7月1日[「時代思潮と女子教育家」と題して「紹介」欄『女子教育』11-9、1914年9月1日に抄録]
- (9)師弟情調の一致『教育実験界』35巻12号、1915年6月  
師弟情調の一致『現代教育』22、1915年6月1日[「学説思潮」欄『教育実験界』35-12、1915年6月20日に抄録]
- (10)大東亜建設への教育『教育論叢』41巻2号、1939年2月  
大東亜建設への教育『学習研究』18-1、1939年1月1日[「思潮梗概」欄『教育論叢』41-2、1939年2月に抄録]
- (11)新文明の建設と日本民族の使命『東亜之光』6-11、1918年11月  
掲載誌の巻数と刊行年が整合していない(第6巻は1911年刊)。『東亜之光』に掲載はないので、掲載誌名の誤記と思われる。巻号数が正確とすれば1913年創刊の雑誌である。掲載誌未詳のため採録を保留した。

<II> 下記は掲載誌名の誤記である。誤記は下線・太字で示し=>以下に訂正した。訂正箇所は下線・太字で示した。

- (13)日本の女がしてみたら『教人』15、1906年12月=>日本の女がしてみたら[談、「世論一斑」]『日本教育』15、1906年12月6日
- (14)基督教徒としての予の態度『第三世界』21、1914年10月=>『第三帝国』
- (15)羅馬法皇の國際的勢力『第三世界』58、1916年1月=>『新理想主義』58、1月5日
- (16)内ヶ崎作三郎氏より『第三世界』(『新理想主義』58)1916年1月=>『新理想主義』60、1月25日
- (17)高明にして積極的なるロイド・ジョージ氏『第三世界』80、1917年1月=>『第三帝国』
- (18)言論戦と選挙権拡張と文化の普及『第三世界』84、1917年5月=>『第三帝国』
- (19)国民精神総動員と職業指導『民政』7-12、1937年12月=>『公民教育』

<III> 下記は掲載誌の巻号数または刊行年月の誤記である。誤記は下線・太字で示し=>以下に訂正した。訂正箇所は下線・太字で示した。

- (20)ラスキンの戦争観『時代思潮』5、6、18、1904年6月、8月、**1905年8**月=>『時代思潮』5、7、18、1904年6月、8月、**1905年7**月
- (21)福音新報の二十周年に対する祝意と希望『福音新報』776、777、1910年5月、6月=>5月12、19日
- (22)開会初日の印象『太陽』16-9、1910年9月=>6月
- (23)倫敦特信『太陽』16-10、1910年10月=>1910年7月
- (24)欧米印象雜記『女学世界』11-14、1911年10月=>11月
- (25)両羽の自然と人『早稲田学報』148、154、1907年6月、12月=>152、154、1907年10月、12月
- (26)我が信仰の告白『六合雜誌』369、370、1911年11月、12月=>10月、11月
- (27)英国湖州の自然美と文学的遺跡『中学世界』15-2、1912年1月=>2月
- (28)文明とは何ぞや『廓清』5卷8号、1915年8月=>9月
- (29)子供相手に草を取る『新女界』16-7、1916年8月1日=>8-8
- (30)百年後の日本、現在の英国ぐらゐ『日本及日本人』780、1919年4月=>1920年
- (31)米國より『六合雜誌』477号、1920年10月=>478、11月
- (32)基督教文化の種々相『中央史壇』5-4、1922年4月=>11月
- (33)今年中一番私の心を動かした事『中央公論』37-12、1922年12月=>37-13
- (34)第二維新の先駆—文化的中央集権と地方分権『文化生活』1-7、1923年7月=>11月
- (35)私共のページ 私信『文化生活』1-7、1923年7月=>11月
- (36)総選挙の準備 陰謀政治より政策本位へ『憲政公論』6-6、1926年6月=>6-12、12月
- (37)子供の教育の今昔感『愛児』8-3、1929年3月=>1939年
- (38)三陸大津浪跡の印象『改造』15卷4号、1934年4月=>1933年
- (39)中央公論思ひ出集『中央公論』50-9、1935年9月=>50-10、10月
- (40)支那文化の為に『東洋』294、1937年4月=>1923年。

## 年譜

本年譜作成に際しては、小野寺宏『内ヶ崎作三郎の足跡をたどる』（非売品、2007年）のほか、『基督教世界』『新人』『六合雑誌』『早稲田学報』『読売新聞』『東京朝日新聞』『新世界』『羅府新報』『早稲田大学百年史』『帝国議会会議録』（国立国会図書館 WEB 版検索システム）等を参照した。

### 1877(明治 10)年

4月8日、宮城県黒川郡富谷村(現・富谷市)に、父作太郎、母ちかの長男として生まれる。

### 1888(明治 21)年

3月、富谷村小学校卒業。  
4月、高等小学校一年に進む。  
11月、仙台東二番丁小学校高等一年に移る。

### 1891(明治 24)年

3月、仙台東二番丁小学校高等科卒業。  
6月、一ヶ月のみ東華学校に通学。  
9月、仙台第二高等学校(在学中に第二高等学校と改称)に入学(補充科一年)。

### 1895(明治 28)年

9月、仙台第二高等学校予科一年に進級(同級に島地雷夢、栗原基、一年下級に深田康算、二年下級に吉野作造)。  
アニー・S・プゼルのバイブル・クラスに参加。  
11月8日、尚志会雑誌部委員を依頼され、『尚志会雑誌』の編集にあたる。

### 1897(明治 30)年

2月18日、『尚志会雑誌』第19号に〈巖峰生〉署名で鋼舎との共訳で「はつ霞」「わが身」(リッチャルド・ヘンリー・キルデ)「夜半」「笑」「海国男児の歌」4篇を発表。  
夏、弟を失う。

### 1898(明治 31)年

春、島地雷夢、吉野作造とともに、第二高等学校キリスト教青年会「忠愛之友倶楽部」に入会。  
6月25日、第二高等学校卒業生送別会に出席、三年間の尚志会雑誌部委員としての貢献に対し賞牌を贈られる。  
7月3日、島地雷夢、吉野作造とともに仙台第一浸礼教会で受洗。10日、仙台第二高等学校卒業。  
9月、東京帝国大学文科大学入学。本郷の中央学生基督教青年会館に入寮。

### 1900(明治 33)年

12月1日、本郷教会の『新人』誌に「愛天生」署名で寄稿。

### 1901(明治 34)年

7月、東京帝国大学文科大学英文科を卒業。卒業後も名目上大学院に籍を置く。平岩愼保の長女喜代子と結婚。  
9月、郁文館中学校の英語担任講師となる(～1902年7月)。

**1902(明治 35)年**

- 3月、東京専門学校の英語(訳読)講師となる。『帝国文学』編輯委員(～1904年3月)。  
春、柳町の浸礼派教会から本郷教会に転属。  
9月、東京専門学校が早稲田大学と改称、大学部・専門部・高等予科講師として、英語(訳読)を担当。チャールズ・ラムの『シェイクスピア物語』を使って英文訳読。

**1903(明治 36)年**

- 2月22日、本郷教会で「ラスキンの教訓」と題して説教。  
3月30日、本郷教会明道会演説会で「近代英国詩人の宗教観」と題して演説(於本郷会堂)。  
5月15日、長男浩一郎生れる、  
8月9日(第2日曜日)、本郷教会で「夏の福音」と題して説教。

**1904(明治 37)年**

- 春、学長高田早苗の命により早稲田大学に招聘するためラフカディオ・ハーンを訪問(4月、ラフカディオ・ハーンは早稲田大学文学部出講、9月26日急逝)。  
4月24日夜、本郷教会で「春の福音」と題して説教。  
7月17日、本郷教会で「ヘンリー、ワード、ビーチャー伝を読む」と題して説教  
9月2、4日、日本学生基督教青年同盟会主催第16回基督教暑期学校(1～7日)で、「ダンテ神曲の研究」と題して4回講演(於箱根本跡寺)。11日、三沢糾氏渡米送別会に出席(於加藤直士宅)。18日(第3日曜日)夜、本郷教会で「ダンテの神曲の意義」と題して説教。  
10月8日(第二土曜日)、明道会日本橋支部講演会で「趣味ある生活」と題して演説。  
11月6日、新人社演説会で「セバストホールとこころ」と題して演説(於本郷会堂)。13日、本郷会堂・明道会・東京婦人会連合の秋期大懇親会に出席(於上野鶯谷此花園楼上)。  
12月1日、吉野作造、小山東助とともに『新人』編輯員となる。4日、東京婦人会に臨み「小泉八雲氏の日本女性観」と題して講演(於本郷会堂)。

**1905(明治 38)年**

- 1月15日、本郷教会年次総会で役員改選により執事に就任。夜、本郷教会で「過渡時代の思潮」と題して説教。  
3月1日(第一水曜日)、本郷教会で「伝道会」を組織、会長に推される。12日夜、本郷教会で「妖姫ヘロデヤを論ず」と題して演説。  
4月14日夜、海老名弾正とともに上野発。15日、仙台着、第二高等学校キリスト教青年会忠愛之友倶楽部第十五周年記念祭りに臨み、夜の記念演説会で「ピサガ山頭のモーゼを懐ふ」と題して演説。16日、浸礼教会で「力の宗教」と題して説教。忠愛之友倶楽部第十五周年記念演説会第二日で「偉僧ガボンを論じ、改革精神に及ぶ」と題して演説(於日本基督教会堂)。故郷富谷で一泊。17日、古川町で「戦勝国民の活動」と題して演説(於古川中学校)、仙台帰着。18日、忠愛之友倶楽部祈祷会に出席、尚綱女学校にブゼルを訪問、請われて「わが理想の婦人」と題して講話、土井晩翠邸を訪問、夜、帰京の途に就く。19日、帰京。23日夜、本郷教会で「力の宗教」と題して説教。  
5月28日夜、本郷教会で「元禄風の流行を論ず」と題して説教。  
6月11日夜、本郷教会で「剛健の気風」と題して説教。18日(第三土曜日)、明道会日本橋支部で講演。  
7月2日夜、本郷教会で「如何にして此夏を過すべきか」と題して説教。17日夜、海老名弾正とともに東京発、18日、大阪着、土佐堀青年倶楽部に招かれ、19日、中之島公会堂で「雄弁なる宗教」と題して演説。21日、神戸着、21～22日、第17回夏期学校で「ジョンバンヤンの性行」と題して講演(於神戸関西学院講堂)。23日夜、諸教会連合演説会で「雄大なる生活」と題して演説(於神戸教会)。24日、姫路着、姫路師範学校で講演。夜、明石着。25日、明石で旧友と過ごす。26日、京都着、東本願寺、同志社等を見学。彦根に向かい、夜、彦根教会で「何故に余は基督信者となりしや」と題して演説。27日、彦根発、静岡県焼津着。小泉八雲伝記資料収集。28日、焼津発、箱根湯本着、富士屋ホテルにチェンバレンを訪い小泉八雲について情報収集。29日朝、チェンバレンが小泉八雲書簡を携えて旅舎を訪れる。帰京。  
8月6日夜、本郷教会で「水の啓示」と題して説教  
9月17日朝、本郷教会で聖書講義。  
12月3日、本郷教会婦人会講演で「近世欧米婦人の活動」と題して講演。10日、小林富次郎・加藤直士両氏歓迎会に本郷教会を代表して歓迎の辞(本郷教会会堂)。**23日、母ちか逝去。**

**1906(明治 39)年**

- 1月8日、帰京。14日、吉野作造渡清送別会で送別の辞(於本郷教会)。
- 4月3日、上野発郷里に向かう。6日、組合教会の仙台集中伝道(～22日)に参加するため、郷里より仙台着、海老名弾正と合流、歓迎会並祈祷会に臨む(於東三番丁組合教会)。7日、東三番丁組合教会で「東北人の天職」と題して演説、市内求道者招待会に臨む(於南六軒町)。8日、宮城県会議事堂で「東北の将来と霊的覚醒」と題して演説、仙台組合教会で「廢物利用の宗教」。9日、第二高等学校忠愛之友倶楽部第16回創立記念演説会で「近世芸術に顕れたる宗教」と題して演説(於日本基督教会堂)、高等女学校内に於ける宮城婦人会の招聘により「近世欧米婦人の霊的勃興」と題して演説。10日、東三番丁組合教会で「基督の社会観」と題して演説。11日、仙台第一中学校の招聘により講演。12日、第二師団傷病兵を慰問、宮城師範学校で演説、夜行で帰京の途に就く。15日夜、本郷教会で仙台伝道報告演説、「男性的基督教」と題して説教。
- 5月13日、中村吉蔵(春雨)渡欧送別会で、小山東助とともに送別の辞を述べる(於本郷教会)。
- 7月8日夜、本郷教会で「夏期の修養」と題して説教。
- 9月23日夜、明道会講演で「近代日本に於ける東北人の活躍」と題して講演。
- 10月14日、本郷教会礼拝集会で「融和の人生」と題して説教。本郷教会婦人会例会で「ブース夫人の性行に就て」講話(於教会倶楽部楼上)。27日、本郷教会秋期伝道会(26～28日)第二日で「余が信仰の経過」と題して演説。
- 11月23日、本郷教会婦人伝道会で「信仰の生涯」と題して演説(於本郷会堂)。

**1907(明治 40)年**

- 1月20日、新人社演説会で小山東助、海老名弾正とともに登壇、「雅号廢止論」と題して演説。
- 2月23日、本郷教会春期伝道(～27日)で「根本的革新」、24日、「光明の人生」、27日、「求道者に告ぐ」と題して説教。
- 3月3日、上州における組合教会大挙伝道応援のため上州に赴き、碓氷郡安中町碓氷会堂の礼拝式で説教、午後、碓氷郡原市町の教育家大会で「統合の人生」と題して演説(於原市基督教会堂)。
- 5月19日、本郷教会伝道会で「宗教的偉人を想ふ」と題して説教。
- 7月14日夜、本郷教会で「自然と人」と題して説教。22日、東京発、早稲田大学の山形・秋田巡回講演のため、学長高田早苗等とともに東京を発ち福島に赴く。同地学士会・校友会の発起になる晚餐会に臨む(於福島公会堂)。23日、福島を発ち山形に赴き、山形県校友会発会式に臨む(於山形市七日町千歳館)。24日午前、山形市物産陳列所を一覧、午後、講話会に臨み「東北人の天職」と題して講演(於県会議事堂)、その後、市内有力者の発起に係る歓迎慰労会に臨む。25日、山形市を発ち鶴岡町に赴く。26日、講話会に臨み「東北の過去現在及将来」と題して講演(於郡会議事堂)、その後懇親会に臨む。27日午前、羽二重工場等を巡覧し、午後、実業講演会に臨む(於郡会議事堂)。28日、鶴岡を発ち酒田に赴き、講演会に臨み「戦後国民の任務」と題して講演(於港座)。29日、酒田を発ち、秋田県本荘に赴き歓迎会に臨み演説。30日、本荘を発ち、秋田市着、秋田校友会主催の学術講話会に臨み「東北の天職」と題して講演(於県会議事堂)。31日、新潟県校友会大会に臨む(於秋田市寺町志田傳)。
- 8月1日、秋田を発ち能代に赴き、講話会に臨む(於郡会議事堂)。2日、能代を発ち鷹の巣町に赴き、同地教育会の発起に係る講話会に臨む(於公会堂)。同日、大館町に赴き講話会に臨む(於中学校講堂)。3日、大館を発ち、青森を経て浅虫温泉で小憩、一行と別れて郷里仙台に向かう。4日朝、仙台着。18日、本郷教会礼拝集会で「山岳海洋の啓示」と題して説教。
- 10月5日、東京青年会青年講演で「過去の東京と英雄の追憶」と題して演説(於東京青年会館)。
- 11月9日、本郷教会秋季伝道会(8～10日)第2日に「充実の生活」と題して説教。17日、本郷教会礼拝説教で「生活難と信仰問題」と題して説教。23日、本郷教会十年記念祝賀会で祝辞(於本郷会堂)。
- 12月28日、一般学生のために公開された本郷教会の土曜倶楽部で「リンコーンの最後」と題して演説。

**1908(明治 41)年**

- 3月5日、本郷教会春期集中伝道会で「信仰の告白」と題して説教。28日、新人社第2回講演会で「文豪に及ぼせる婦人の感化」と題して講演(於本郷会堂)。
- 5月3日、高輪教会で「信仰の由来」と題して演説。31日、本郷教会礼拝説教で「宗教的情操」と題して説教。
- 6月、ユニテリアン団体の推薦でオックスフォード大学の奨学資金を得、マンチェスターカレッジ留学が決まる。
- 7月19日、陸前富谷に帰省。26日、本郷教会礼拝説教で「社会の発達と教会の努力」と題して説教。
- 8月初、帰京。9日、本郷教会で「基督の要求」と題して説教。16日、本郷教会・新人社の渡英送別会に出席(於上野公園韻松亭)。

- 9月[4日]、敦賀出帆。28日、ウラジオストクからシベリア鉄道でモスクワに至り、さらに北上してペテルブルク、ベルリンを経てオランダからロンドン着。海老名弾正と会見、同宿すること一週間。
- 10月3日、ニューヨークに向かう海老名弾正を見送る。8日、オックスフォード着、10日、マンチェスター・カレッジ開講。

### 1909(明治42)年

- 1月前半、ロンドン東部の貧民街に送る。
- 夏、ダービシャーの大学連合基督教青年会の夏期会合で天幕生活に参加。オックスフォード夏期大学に出席。

### 1910(明治43)年

- 春、スコットランドの古蹟を探索。
- 6月末、ベルギーからドイツに入り、ライン河を遡ってハイデルベルグの夏景色を楽しむ。
- 7月、マーブルグに滞在。
- 8月、ベルリンに滞在、三並良とともに日本代表として自由基督教世界大会に出席。
- 9月2日、ベルリン発、3日、オックスフォード着。湖水地域のグラスミアに二週間滞在。

### 1911(明治44)年

- 3月5日、東京ユニテリアン教会総会(会長安部磯雄)で、内約済みの牧師招聘について正式に決議。
- 4月、フランス、スイス、イタリアを旅行。
- 6月19日、早稲田大学教授を嘱任。28日、サウサンプトン港からニューヨークに渡る。
- 7月9日、ニューヨーク基督教修道会で「欧州に於ける基督教」と題して講演。ニューヨークからニューヘブレン、ボストン、ナイアガラ、シカゴ、デンバー、ユタを経て、中旬、サンフランシスコ着。カリフォルニア州各地を巡遊。30日、オークランド白人第一組合教会で「現代の英国偉人と基督教」と題して説教。
- 8月1日、オークランド聯合青年会主催講演会で「東西文明交渉の意義」と題して講演(於白人美以教会)。3日、オークランド婦人矯風会主催で講演予定(於白人基督教会)。5日、サンフランシスコで伝道団主催の基督教夏期講習会最終日に「現代思想界の趨勢と基督教」と題して講話予定(於バイン街美以教会)。6日、リビングストンを経てフレズノ着、美以教会で「文明史上に於ける基督教の位置」と題して、組合教会で「民族の移動と宗教の発展」と題して講演。7日、フレズノからスタクトンに赴き「東西文明の交渉」と題して講演。8日、サクラメントに赴き、美以教会堂で講演し、セラーホールで大演説会を開く。9日、サンフランシスコ出帆、帰国の途に就く。15日、ホノルル寄港、「廿世紀に於ける大和民族」と題して講演(於リバー街美以教会)。26日、横浜着。
- 9月、東京ユニテリアン教会牧師に就任。4日、本郷教会婦人講演会で「婦人解放の真意義」と題して講演。17日、惟一館日曜演説で「現代の要求」と題して演説。22日、本郷教会秋季講演会で「民族の発展と我青年」と題して講演。23日、「覚醒すべき日本」と題して講演。24日、東京ユニテリアン教会で「我が信仰の告白」と題して説教(於惟一館)。夜、本郷教会秋季講演会で「現代思潮と基督教」と題して講演。27日、早稲田大学関係者による帰朝歓迎会に出席(於有楽町日本倶楽部)。
- 10月1日、惟一館日曜演説で「東西文明の調和力としての基督教」と題して演説。7日、早稲田大学募金活動のため、大隈重信、高田早苗とともに巡回講演に出発、8日、宮城県で「島国文明の得失」と題して講演(於仙台市県会議事堂)、11日、福島県で「東西文明の長短」と題して講演(於福島市公会堂)。15日、惟一館日曜演説で「我れ何の為に生きるや」と題して演説。22日、惟一館日曜演説で「実生活に及ぼす信仰の働き」と題して演説。
- 11月4日、東京・横浜の組合教会拡張伝道に臨時講師として参加、早稲田大学基督教青年会の講演会で「新天地と新生活」と題して講演(於早稲田大学講堂)。夜、「神とは何ぞや」と題して演説(於神田青年会館)。5日、惟一館日曜演説で「宗教生活の芸術的内容」と題して演説。9日夜、組合教会拡張伝道で「宇宙に於ける人類の地位」と題して説教(於横浜教会)、11日夜、「現代日本に於ける教会制度の貢献」と題して演説(於本郷教会)。18日、各大学及専門学校連合大演説会で「文芸と宗教」と題して演説。26日、東京ユニテリアン教会臨時総会に出席、東京ユニテリアン教会の名称変更原案を提出、「統一基督教会」へ改称。
- 12月10日、日本ユニテリアン弘道会役員会に出席、「統一基督教弘道会」と名称変更を決定し、理事に就任(会長安部磯雄)するとともに伝導部長に就任。17日、「世界平和の進歩」と題して説教(於惟一館)。24日、「歴史的人物としての耶蘇」と題して説教(於惟一館)。統一基督教会のクリスマスで感話(於惟一館)。30日、「回顧と希望」「宗教界の進歩」と題して説教(於惟一館)。



## 1912(明治45・大正元年)

- 1月7日、「新生活の契機」、「動揺中の安定」と題して説教(於惟一館)。21日、「警火の黙示」と題して説教(於惟一館)。27日、統一基督教会の春期伝道会で「宗教と人生」、「基督教の特徴」と題して説教、午後、三並良(司会)、向軍次、岸本能武太、海老名弾正(来賓)とともに、統一基督教会披露宴に出席し挨拶。28日、統一基督教会の春期伝道会で「罪悪と解脱」、29日、「教会生活の内容」と題して説教。
- 2月4日、統一基督教会の春期伝道会で「入信の悦楽」と題して説教。11日午前、紀元節祝賀礼拝説教で「神の国と人の国」、夜、「日本民族の使命」と題して説教(於惟一館)。17日、東北出身の学生を組織し自ら幹事長を務める、早稲田大学東北会の演説会で「欧州の東北と日本の東北」と題して演説(於予科第四教室)。18日、「人生の環象」と題して説教(於惟一館)、基督教同志会講演会で「宗教と国家政策」と題して講演(於神田青年会館)。
- 3月22日、廓清会臨時役員会に理事として出席(於本部楼上)。
- 4月15日、第4回通俗講話会で「欧米労働者の話」と題して講話(於惟一館)。21日、統一基督教会で理想選挙講演会を開催、司会をつとめ、安部磯雄、永井柳太郎等が演説。27日、統一基督教会の特別伝道講演会で「現実に即する神秘」、28日、「如何にして神を知るべきか」「来るべき信仰の時代」と題して講演。
- 5月19日、統一基督教会集会で「勝敗超越の人生」、26日、「無意識の拡大」と題して演説。
- 6月2日、統一基督教会集会で「人生の焦点」、「人生の推移」、9日、「感激の宗教」、「隠れたる犠牲」と題して演説。
- 7月2日、統一基督教会主催の米国ユニテリアン教会エリオット博士を招待しての各界名士との接見会に臨み、エリオット博士講演の通訳を務める。15、16日、統一基督教弘道会・基督教同志会主催の夏期講習会(15日～20日)で「ベルグソンの哲学と基督教」、「ブラウニングの宗教思想」と題して講演。19日、神戸教会の招聘で東京を立ち神戸に向かう。20日、神戸教会で「英国に於ける婦人運動の大勢」と題して講演、夜、「我とは何ぞや」と題して演説。21日、神戸教会の学生大会で「英国学生の気風」と題して演説、夜、「心霊の権威」と題して講演。22日夜、神戸教会で講演予定。28日夜、京都同志社大学で開催された第23回青年会夏季学校の各派連合大演説会で「自我の神秘」と題して講演。
- 8月2日、関西の講演旅行を終えて帰京。4日、天皇崩御につき、統一基督教会奉悼式礼拝で「明治天皇の鴻業」と題して説教、8日、統一基督教会で、「明治神宮建設の件に対する態度討議」、11日、「天祐の明治日本」と題して説教。12日、静養のため郷里宮城県黒川郡富谷へ帰郷。25日、統一基督教会で、「明治年間の宗教問題」と題して説教。
- 9月1日、統一基督教会で、「明治年間の外来思想」、8日、「天祐と使命」と題して説。19日、統一基督教会霊交会で「基督教要領講話」を再開(9日「神観念の変遷」、26日「進化論より見たる宗教」、10月3日「聖書論」、17日「神の實在」)。22日、統一基督教会で「基督教の自殺観」と題して説教。夜、統一基督教会新来学生歓迎会で「乃木大将論」と題して講演。29日、統一基督教会で「靈覚の秋」と題して説教。
- 10月4日、統一基督教会秋期特別講演会(～6日)で、「汝の過去を顧みよ」、5日、「汝の現在を探れ」、6日、「新義基督教の使命」、「汝の未来を思へ」と題して講演。早稲田大学基督教青年会総会で副会長に選出。12日、早稲田大学基督教青年会主催第3回講演会で「新しき神の発見」と題して講演。13日、統一基督教会で「創造の歓喜」、「近代思想と教育」と題して説教。16日、廓清会の秋季大演説会で、鈴木文治司会の下、山室軍平、安部磯雄、島田三郎等とともに登壇、「ジヨセフィン、パトラー」と題して演説(於惟一館)。19日、早稲田大学正義大会に安部磯雄等とともに演説(於早稲田大学大講堂)。早稲田大学校外教育大講演会で開会の辞、および「大国民の資格」と題して講演(於両国回向院)。21日、基督教同志会例会で「明治日本の精神界」に関し講演(於永井柳太郎宅)。26日、第二高等学校創立第二十五周年記念祭に列席、26日、「忠愛之友倶楽部」主催演説会に平沢均治とともに登壇、「神々しき神の発見」と題して演説(於仙台市東二番丁日本基督教会)。27日、帰京。
- 11月1日、帰一協会例会に出席。3日、統一基督教会日曜集会で「生活の権威」、「回顧と希望」、10日、「人生の音楽」と題して説教、午後、基督教同志会第2回講演会で「大正の婦人問題」と題して講演(於神田青年会館)。17日、統一基督教会日曜集会で「個性の背景」、「人生の表裏」と題して説教。
- 12月8日、早稲田大学雄弁会懸賞演説大会午後の部に臨み批評及び当選者報告。31日、友愛会評議員に就任。
- \*「統一倶楽部集會一覽」(『六合雑誌』382、1912年11月1日)では、10月26日、統一基督教会で「創始の光栄」と題して説教とあるが誤記と思われる。20日(日曜日)の可能性はあるが確認できない。

## 1913(大正2)年

- 1月5日、統一基督教弘道会・統一基督教会の新年会に出席(於芝公園三緑亭)。10日、帰一協会例会に出席。
- 2月8日、統一基督教会春季特別講演会(～10日)で「自我の源泉」、9日、「自我の拡張」、10日、「自我の帰趨」と題して講演。
- 3月2日、統一基督教会第2回総会に出席(於礼拝堂)。
- 4月7日、ピーボディ博士歓迎会で統一基督教会を代表して歓迎の辞(於惟一館)。27日、ピーボディ博士

- の説教「宗教の拡張」を通訳(於統一基督教会礼拝堂)。第2回婦人講演会で「英国婦人の参政運動」と題して講演。14日、統一基督教伝道会主催第15回通俗講話会でピーボディ博士の講話「労働者の娯楽」について通訳。
- 5月1日、第10回友愛会例会でピーボディ博士の講演「受くるよりも与へよ」を通訳。8日、安部磯雄、浮田和民、島田三郎等とともにマコーレー古稀祝賀会に出席(於芝三緑亭)。夜、『六合雑誌』同人の講演会で「六合雑誌の使命」と題して講演。11日、早稲田大学校友演説大会に臨み、「人生と宗教」と題して演説。17日、講演旅行のため、新橋発、18日、名古屋着、第八高等学校、メソジスト中央教会で講演、19日、京都着、同志社で講演、即日、神戸に赴き、神戸教会で講演。19日、関西学院で講話(於礼拝堂)、京都に戻り、同志社神学部で講演。20日、帰京。
- 6月29日、婦人問題講演会で「英国に於ける婦人の位置の変遷」と題して講演(於統一基督教会礼拝堂)。
- 7月4日、姉崎正治送別会を兼ねた婦一協会第11回例会に出席。11日(～17日)、基督教同志会主催夏期講習会で「ゼームス、マーティノアの生涯と事業」と題して講演予定(於統一基督教会)。14日、早稲田大学夏期地方巡回演説会の一行と福知山で合流、豊岡に赴く。豊岡小学校で「楽観的人生観」と題して演説。同日、浸礼協会に招聘に応じて演説。城ノ崎温泉に投宿。15日、城ノ崎を発ち鳥取市着。校友大会に臨席、夜、「自然界の征服」と題して演説(於宝座)。16日午前、鳥取女学校で講演、午後、倉吉公会堂有親会で「人生と宗教」と題して演説。17日、米子着。18日午前、米子駅で鉄道青年会のために講演、午後、境町に至り「自然と宗教」と題して演説、夜、鳥取県米子町公会堂で「東西文明論」と題して演説。19日、米子港から安来に赴き、「青年の奮起を促す」と題して演説、終列車で島根県松江着。20日、松江座で「民族発展史論」と題して演説。21日、杵築着、夜、杵築小学校で「日本膨張史論」と題して演説。22日、今市着、小学校講堂で「現代文明論」と題して演説。25日、兵庫県御影着、山陽地方の巡回講演に赴く。
- 8月初め帰京。22日、帰郷。月末帰京予定。
- 9月15日、第19回通俗講話会でサンダーランドの講演「四海同胞論」を通訳。17日、婦一協会第12回例会に出席、晚餐後のサンダーランド博士の講話を通訳(於上野精養軒)。20日、米国ユニテリアン協会使節サンダーランド博士歓迎会に出席し統一基督教会を代表して歓迎の辞(惟一館)。24日、廓清会主催芸妓問題演説会で安部磯雄、山室軍平等とともに登壇予定(於芝園橋統一教会)。29日、大日本平和協会在日米人平和協会主催の談話会に出席(於大日本平和協会事務所)。
- 10月1日、婦一協会第13回例会に出席(於上野精養軒)。10日、統一基督教会秋期特別講演会(～12日)で「自由基督教の発達」、11日、「自由基督教の本領」、12日、「自由基督教の使命」と題して演説。15日、第20回通俗講演会で「人間の本分」と題して講演(於惟一館)。19日、早稲田大学校外教育大講演会に臨み開会の辞および「大国民の資格」と題して講演(於両国回向院)。
- 11月、統一基督教会で「秋の賛美」、「改革の第一歩」と題して礼拝説教。
- 12月7日、統一基督教会で、「永へに若き心」、14日、「心霊の創造」と題して説教。
- \*7月14日～22日について、『内ヶ崎作三郎の足跡をたどる』254～255頁では、1914(大正3)年と誤記。

## 1914(大正3)年

- 1月、統一基督教会で「前進と努力」、「久遠の信」、「真我の実現」、「与ふるの喜び」、「天災と人生」と題して説教。
- 2月、統一基督教会で「自由と奉仕」、「人生の純化」、「未蹤の道」、「二十世紀の基督教」、「後継者の自覚」と題して礼拝説教。6日、統一基督教会春季特別講演会で「生の宗教」、7日、「永遠の求道者」と題して講演。8日午前、統一基督教会で礼拝説教で「良き政治の根本」と題して説教、午後、婦人講演会に臨む。夜、統一基督教会春季特別講演会第3日で「態度の決定」と題して講演。16日、第24回通俗講話会で「愉快に世を渡る法」と題して講話。24日、婦一協会例会に出席(於上野精養軒)。
- 3月1日、統一基督教会で「光明の曙」、15日、キックユウの問題、22日、「労力の整理」、「新国民道徳論」、29日、「進歩の原動力」と題して説教。
- 4月5日、統一基督教会で「春の希望」、「心霊の成長」、12日、「人生に於ける復活の経験」と題して説教。17日、早稲田大学基督教青年会主催の公開講演会第1日で「フリーカソリズム」と題して講演(於神田基督教青年会館)。19日、統一基督教会で「生命の共鳴」、26日、「何の為めの悪役苦痛ぞ」と題して説教。同夜、統一基督教会学生伝道演説会で「廢物利用の人生」と題して演説。
- 5月3日、統一基督教会で「過去の賛美」と題して説教。9日、六合雑誌四百号記念講演会で「現代文化と進歩的宗教」と題して講演(於神田青年会館)。10日、統一基督教会で「光明への転回」、17日、「人生の波瀾」と題して説教。夜、統一基督教会主催市政問題講演会で「東京市とペスト」と題して講演。24日、統一基督教会で「皇太后陛下奉悼会」、31日、「沈黙の象徴」、「市民道徳論」と題して説教。
- 6月1日、友愛会城南支部第21回例会で「労働の歓喜」と題して講演(於惟一館楼上)。7日、統一基督教会で「人生転機の数々」、14日、「国民の復興」と題して説教、[21日? ]、「自己超越の道」、[28日? ]、「自然の愛慕」と題して説教。月末、帰郷。
- 7月5日、統一基督教会で「人生の背景」、「失敗の恩寵」と題して説教。10日、東京を発ち、横浜出帆、11日、勝浦湾入港、赤崎温泉に投宿、12日、勝浦発、新宮町着。沖野岩三郎の牧する日本基督教会で「二

- 十世紀の基督教について説教、紀州新宮町出身の在京学生が創設した第1回夏期講習会に臨み「東西文明論」を説く(～15日)。17日、帰京。統一基督教会の第3回夏期講習会(13日～18日)で「現代印度に於ける宗教改革運動」と題して講演。19日、統一基督教会で「南紀の自然と人」と題して説教。
- 8月11日朝、仙台より帰京。同日、愛知県丹羽郡布袋町の講習会に向かう。13～17日、愛知県丹羽郡布袋町に赴き早稲田大学主催講習会で講演、吉田東伍とともに布袋町寺院に一週間宿泊。20日、帰京。
- 23日、統一基督教会で「大戦乱と文明」、「先覚者の使命」、30日、「カイゼルの政策と独逸の文明」と題して説教。
- 9月6日、統一基督教会で「大動乱と宗教」、13日、「欧州の反キリスト的精神」、20日、「大国民の襟度」と題して説教。26日、統一基督教会第1回秋季特別講演会で「心霊の戦」と題して、27日、「大戦争と第二宗教改革」と題して講演。
- 10月4日、統一基督教会で「平和の哲学」、11日「不尽の霊泉」と題して説教。17日、統一基督教会第2回秋季特別講演会で「文化の原動力としての宗教」、18日、「近代人に対する耶蘇の使命」と題して講演。18日、「限られざる大生命」、25日、「愛国心の純化」と題して説教。
- 11月1日、統一基督教会で「苦痛の勝利」、「より高き平面に迄」と題して説教。3日、ユニテリアン伝道二十五年記念祝賀会でユニテリアン将来の覚悟と使命について講演(於芝公園三緑亭)、8日、ユニテリアン伝道二十五年記念講演会で「近代文明に於ける自由基督教の貢献」と題して講演。15日、統一基督教会で「大戦乱と思想問題」、22日、「人生の創造律」と題して説教。28日、父危篤のため帰郷。
- 12月1日、父、死去。13日、統一基督教会で「生と死の驚異」、「新生活道」と題して説教。16日、高田早苗帰朝歓迎会を兼ねた帰一協会例会に出席(於上野精養軒)。下旬、帰郷。

### 1915(大正4)年

- 1月14日、帰京。17日、統一基督教会で「日々新又日新」、「渾沌たる政界」、24日、「宗教の神秘と実際」、31日、「高価なる人生」、「白日十字街」と題して説教。
- 2月7日、統一基督教会で「予言者の政治観」と題して説教。10日、帰一協会主催マシウス博士・ギューリック博士歓迎会に出席(於上野精養軒)。14日、「国交の基礎」、「理想の政治家」と題して説教。19日夜、小山東助の衆議院議員立候補の応援演説のため、安部磯雄等と共に東京を立ち、20日、仙台着、「政界革新の機」と題して応援演説(於国分町開明座、21日、石巻で「東北勃興の時代」と題して応援演説(於北上河畔岡田座)。28日、帰京。
- 3月7日、統一基督教会で「人生の根本」、「候補者の色々様々」と題して説教。10日、帰一協会例会に出席(於上野精養軒)。14日、統一基督教会で「知識の彼岸」、「総選挙と国民教育」。同日、第27期早稲田擬国会で文部大臣を務める。28日、「生命の干満」、「総選挙に現はれたる国民生活」と題して説教。
- 4月2日、友愛会京北支部発会式に臨み「勇気論」と題して講演。4日、統一基督教会で「永遠の春」、11日、「理想の力」、18日、「天地の富」、「徳川家康論」、25日、「無限の希望」と題して説教。夜、タゴール講演会で「タゴール研究の意義」と題して講演。
- 5月2日、統一基督教会で「生活の最高標準」と題して説教。7日、早稲田大学基督教青年会主催の公開講演会で「孤独と団体」と題して講演。統一基督教会春季特別伝道説教で「心霊神秘」、8日、「心霊の指導者」と題して演説。9日、統一基督教会で「母の崇拜」、「心霊の共鳴」、16日、「情の人基督」と題して説教。23日、自由基督教発会式を挙行(於神田錦町女子音楽学校講堂)。28日、精神病者慈善救済会の公開演説会で呉秀三、浮田和民、牧野英一とともに登壇(於大日本私立衛生会会堂)。
- 6月1日、友愛会主催全国労働者大会に臨み、洪沢栄一、添田寿一、マコーレー等と共に、渡米する友愛会会長鈴木文治のため送別演説(於神田青年会館)。
- 7月4日、廓清会主催廃娼演説会で安部磯雄等とともに登壇(於神田青年会館)。7日、帰一協会大会に出席(於上野精養軒)。21日、早稲田大学校外教育部中央夏期講習会(～30日)第1日に、「性の倫理」と題して講演。28日、東京発、29日、三宮着。夜、神戸教会で国家主義と国際主義の統一について演説。30日、広島着、住友銀行支店数十名に対して講演(於支店楼上)。31日、関門海峡通過。
- 8月1～7日、折尾町着、毎朝、遠賀郡教育会主催の早稲田大学校外教育講習会で倫理を講演(於東筑中学校)。4日午後、遠賀郡会総会で福岡県の社会問題について講話。大正青年会主催講演会で、若松市から来た浮田和民とともに講演。夜、黒崎町青年会講演会で講演(於浄土宗浄蓮寺)。5日午後、門司に至り、門司倶楽部で鉄道従業員のために講話。6日午後、早稲田大学福岡県校友会主催学術講演会で「福岡県の社会問題」と題して講演(於若松市立女児尋常小学校)。夜、早大校友会に出席。7日、黒崎から小倉を経て別府着。8日、愛媛県西宇和郡八幡濱着。9日(～13日)、早稲田大学校外教育講師として西宇和郡教育会講習会で「東西文明史論」を講義(於商業学校講堂)。10日、教育会有志による慰労の会に出席。11日、小学校男女部同窓会のために講演。12日午後、小学校女子部同窓会のために講演。午後、夜、組合教会講義所で講演。13日、講習会修了後、川石町に至り公会堂で通俗講演会に臨む。夜、メソジスト教会婦人会に出席。14日、小学校で通俗講演会に臨む、西宇和濱から宇和島着。組合教会婦人会で講演。15日朝、組合教会で礼拝説教、夜、同教会で人生の根本問題について講演。16日、宇和島出帆、17日、長浜、今治、多度津を経て琴平着、高橋、宇野を経て岡山着。18日朝、大阪着、宮川経輝を訪問、室町に至り原田助同志社社長を訪問、京都発。19日、帰京。27日、夜行列車で郷里に向かう。

- 9 月、曹洞宗大学(現駒沢大学)で基督教教理史を講義。9 日、郷里富谷村を辞し、七北田小学校の講演会に臨む。仙台着、土井晩翠を訪問、10 日、東三番町の組合教会の講演会で「人生の根本問題」と題して講演。仙台を発ち帰京の途に就く。12 日夜、統一基督教会で「貞操の意義と価値」と題して説教。18 日、修養団早稲田大学支部発会式大講演会に臨み「州養上団体の必要」と題して演説(於早稲田大学大講堂)。28 日、原口鶴子葬式で説教(於本郷教会)。
- 10 月 18 日、信州大町の青年会で講演。30 日、御大典と芸妓奉祝問題の演説会で矢島楯子、島田三郎とともに登壇(於神田青年会館)
- 11 月 15 日、統一基督教会で「島国文明の特色」と題して講演。
- 12 月 12 日、早稲田大学校外教育で「国際道徳論」と題して講演(於静岡市物産陳列館)。

## 1916(大正 5)年

- 1 月 21 日、帰一協会例会(兼渋沢栄一・頭本元貞・マコーレー・鈴木文治帰国歓迎会)に出席(於上野精養軒)。22 日、友愛会会長鈴木文治の米国労働大会出席顛末報告演説会に登壇(於友愛会本部)。23 日、統一基督教会で「個人主義の純化」と題して説教。
- 2 月 7 日、自由基督教会で「イエスの生涯と其使命」と題して説教。28 日、帰一協会例会に出席(於中央亭)。
- 3 月 6 日、姉崎正治、吉野作造、小山東助等とともに発起人として故島地雷夢追悼懇談会を丸の内中央亭に開催。7 日夜、新渡戸稲造邸の晩餐会に、安部磯雄・鈴木文治等とともに招かれる。19 日、自由基督教会で「生命の追求」と題して説教。
- 4 月 5 日、東北三県学事視察のため、上野駅出発。6 日、仙台着、宮城県立第一中学校・東北中学校視察、7 日、県立第二中学校・東北学院普通部・第二高等学校自治寮明善寮を視察、8 日、東北中学校・第二高等学校を視察。9 日、仙台で第二高等学校教授諸氏による招宴に列す。10 日、岩手県盛岡着、盛岡中学校視察、島地雷夢の墓参、盛岡発青森県八戸町着。11 日、八戸中学校、12 日、青森中学校、13 日、弘前中学校視察、メソジスト派の女学校で「婦人の使命」について講演、14 日、帰京。20 日、故松枝徳磨君追悼演説会に登壇(於早稲田大学大講堂)。
- 5 月 14 日、長野県下内水郡青年連合大会で「人生の四大問題」と題して講演(於同郡飯山町)。
- 6 月 22 日、千葉医学専門学校校友会修徳部例会で「人生ノ根本問題」と題して講演。25 日、自由基督教会で「旧信仰と新信仰との調和」と題して説教。27 日、帰一協会服部幹事歓迎兼例会に出席(於中央亭)。
- 7 月 19 日、帰一協会大会に出席(於中央亭)。30 日、統一基督教会で「宗教批判の標準」と題して演説。
- 8 月 13~17 日、早稲田大学校外教育の講習会で「人生の根本問題」と題して講演(於秋田県大館町)。17 日、秋田県校友大会に浮田和民、青柳篤恒とともに出席(於秋田倶楽部本館)。18 日、秋田県教育会主催講演会で「東北振興策」と題して講演(於秋田市公会堂)。19 日、帰京。
- 10 月 1 日、自由基督教会で「生活の神秘」と題して説教。8 日、自由基督教会秋期講演会で「宗教進歩に対する大戦争の刺戟」と題して講演。午後、新真婦人会主催貞操問題演説会に西川文字等とともに登壇「貞操問題の研究」と題して演説(於和強楽堂)。14 日、大日本女子教育会主催第 12 回婦人通俗講演会で「若き婦人の望み」と題して講演(於淑徳女学校講堂)。15 日、自由基督教会で「安全第二」、統一基督教会で「大生命の人格化」と題して説教。16 日、統一基督教会秋期特別講演会で講演。
- 11 月 9 日、友愛会浅草支部例会で人間の責任について講演、自宅で組会を開催、「パウロの基督観の発達」に関する講話。12 日、自由基督教会で「光は四方より」と題して説教。16 日、早稲田大学学長天野為之に随行、東京駅出発。17 日、大阪着、早稲田大学大阪校友会で「戦後経済界に対する覚悟」について講話(於大阪ホテル)。18 日、松江市着、「人生の根本問題」と題して講演(於松江座)。19 日、島根県教育会主催講演会で「立憲政治と教育」と題して講演(於松江高等女学校講堂)。早稲田大学島根県校友会発会式に臨む。20 日、松江発鳥取県倉吉町着、鳥取県東伯郡校友会主催講演会で「立憲政治と教育」と題して講演。21 日、鳥取市鳥取中学校で「余をして再び中学生たらしめば」と題して修養談、遷番小学校で「人生の根本問題」と題して講演、夜、校友会に臨み所感演説。22 日、鳥取を発ち、23 日、帰京。
- 同月、自由基督教会で「真理体现の自覚」、「全人格の靈動」と題して説教。
- 12 月 17 日、自由基督教会で「靈の統一力」と題して説教。
- \*11 月 16 日~23 日について、『内ヶ崎作三郎の足跡をたどる』255~256 頁では、10 月と誤記。

## 1917(大正 6)年

- 1 月 13 日、自由基督教会の新年の例会に出席(於衆議院議長官舎)。14 日、自由基督教会で「人格の至上権」、夜、統一基督教会で「心霊の統一」と題して説教。21 日、自由基督教会で「人格と憲政」と題して説教。
- 2 月 25 日、自由基督教会で「天象及び心象」と題して説教。この月、早稲田大学相撲部部長に就任。
- 3 月 4 日、自由基督教会で「大自然の無関心」と題して、統一基督教会で「大自然の驚異」と題して演説。20 日、第 13 回総選挙に立候補した小山東助のために、島田三郎・安部磯雄・吉野作造・永井柳太郎等とともに仙台に向かう。25 日、統一基督教会特別講演会で「社会教育の一大機会」と題して講演。自由基

- 督教会で「国民的生活と宗教的訓練」と題して説教。
- 4月22日、自由督教会で「戦の後を顧みて」と題して講演。29日、自由督教会で「少数者の権威」と題して講演。夜、安部磯雄・小山東助とともに六合雑誌主催総選挙批判演説会に出席し、総選挙を批評(於三田統一督教会)。
- 5月3日、自宅で組会開催。6日、自由督教会で「進歩の大勢」と題して演説。12日、自由督教会春季講演会で、永井柳太郎、島田三郎とともに登壇、「自由主義の使命」と題して演説。13日、自由督教会で「背後の偉人」と題して説教、夜、統一督教会特別伝道会で「人類の進歩と宗教の発達」と題して演説。
- 6月3日、自由督教会で「精神界の二傾向」。10日、「宗教の人間の要素」、17日、「混沌時代に於ける独創的精神」と題して講演。
- 7月1日、自由督教会で「潜在力の發揮」と題して、夜、統一督教会で「戦後文明の予想」と題して講演。8日、自由督教会で「開放的精神」と題して講演。
- 8月6～10日、下野青年会主催の早稲田大学校外教育部講習会で「倫理問題」を講演(於宇都宮市)。15日、高知県吾川郡教育会の招聘に応じ土佐人会夏季大会に臨み挨拶(於得月楼)。16日(～22日)、吾川郡教育会主催講習会で「人生の根本問題」について講演。18日、高知県教育会・土曜新聞社・高知新聞社主催学術講演会で「戦後文明の予想」と題して講演(於高知市公会堂)、22日夜、佐川町清話会主催講演会で「新時代の新道徳」と題して講演。23日、吾川郡青年団大会で講演。
- 9月9日、自由督教会で「永遠の立脚地」と題して講演。26日、早稲田大学の教務担当理事に就任。27日、自由督教会秋期特別講演会で「ウエルズの『見得ざる王としての神』」と題して演説。26日、早稲田大学維持員および理事に選出。

## 1918(大正7年)

- 1月10日午前、早稲田大学平沢代表理事とともに宮城県に赴き、県立第二中学校及び尚綱女学校、午後、東北学院中学部、宮城師範学校で講演、夕、早稲田大学宮城県臨時校友大会に出席。11日午前、県立高等女学校で、午後、第二高等学校で講演、晩餐会、歓迎会に出席し、夜、帰京の途に就く。19日、都下中等学校連合演説会で「雄弁論」と題して演説。22日、早稲田大学理事会を代表して病氣療養中の吉田東伍を銚子に見舞うがすでに死去。24日、自由督教会で「基督再臨説批判」と題して講演。26日、吉田東伍仮葬に列席(於青山斎場)。
- 3月10日、早稲田大学主催小野梓・田原栄・吉田東伍追悼会に列席(於築地本願寺)、16日、早稲田大学史学会吉田東伍追悼会に列席(於恩賜館読書室)
- 4月1日、『六合雑誌』4月号(第447号)が安寧秩序を害するものとして発売禁止。3日、早稲田大学校友の聘により栃木県芳賀郡の開墾竣工式に臨み「戦後の農村問題」と題して講演、帰京。7日、埼玉県比企郡玉川青年団及在郷軍人会に招かれ講演。13日、横浜貿易新聞社主の主催に係る講演会に臨み「戦後の諸問題」と題して講演(於神奈川県高座郡上溝小学校)。20日、自由督教会で「世界国家及心霊」と題して演説。22日、横浜貿易新聞主催学生演説会「新教育の理想」と題して講演(於横浜記念公会堂)。28日、茨木県八重村泉矯風会に招かれ「性命の源泉に就て」と題して講演。
- 6月2日、深川区教育会講演会で「民衆の特権及義務」。16日、統一基督教弘道会臨時総会で、米国ユニテリアン協会とは全然独立した団体で超宗派的団体である点を明確にした憲法改正を行い、理事に就任。高崎市教育会総会講演会で「日本国民の精神的動員」
- 7月8日、統一基督教弘道会主催夏期講習会(5日～11日)で「人文史上自由基督教の位置」と題して講演(於惟一館)。21日、東京発。22日、山形県の高等女学校・荘内中学校に招かれ「文明批評としての戦争」と題して講演(於山形県鶴岡市鶴岡劇場)。23日、酒田市で「東北振興論」と題して講演(於酒田座)。
- 8月1～10日、早稲田大学芸会・早稲田文学社主催思想問題夏期講習会で「民本主義の文学」と題して講演予定(於早稲田大学)。2日、愛知県半田町教育会の招聘に応じ、東京発、3日、半田町着、歓迎会に臨み(於前橋俱樂部)、「労働論」と題して講演(於半田町小学校)。4日午前、「商工主義と理想主義」(於半田町小学校)、午後「信仰論」(於半田町小学校)、5日、「家族主義批判」と題して講演(於半田町小学校)。同日、帰京。10～14日、岩手県紫波郡教育会主催の夏季講演会で「人生の四大問題」と題して講演(於日詰町)、14日、日詰町を発ち、宮城県登米郡石森町で「戦後東北人の覚醒」と題して講演。15日、佐沼町に赴き「文明過渡期の日本」(於佐沼町小学校)、校友及学生連合の小集いに臨む。新田駅より岩手県盛岡に向かう。16日、盛岡着、16日、岩手毎日新聞社主催第13回商家子弟慰安会で「労働と休息」と題して講演(於盛岡劇場)。17日、郷里、宮城県黒川郡富谷着。26～30日、北埼玉郡教育会主催「世界文明の大勢」と題して講演(於埼玉県加須町)。
- 9月24日、栃木県日沼町で「現代文明に於ける産業の位地」と題して講演(於亀鶴座)。
- 11月8日、早稲田大学科外講義の企画・実施ならびに賛助会会員との連絡用の『早稲田叢誌』の編集を行う編集及講演部が設けられ、編集及講演部長に就任。
- 大正7年度、早稲田大学大学部政治経済学科・専門部政治経済科第2学年で文明史を、同文学科哲学科・文学科史学及社会会学科第2学年、高等師範部第一部英語科第3学年で英文学を、高等師範部第一部英語科・国語漢文科第2学年では講読(ニューゴー『レミゼラブル』)を、高等予科では国民科、高等師範部

第2部数学科・理化学科第2学年では英訳(ニューゴー『レミゼラブル』)を担当。  
この年か、早稲田大学高等師範部大会で「教育者は楽観して力めよ」と題して講演(於八千代倶楽部)。

### 1919(大正 8)年

- 2月1日、栃木中学校友会に招かれ「戦後中学生の修養」と題して講演。11日、大阪毎日新聞主催憲法発布三十年祝賀会で「憲政の精神的及社会的基礎」と題して講演、22日、東京女子高等師範学校文科会で「独創的精神の保姆地」と題して講演。この頃、早稲田大学相撲部の初代部長となる。
- 4月1日(～7日)に開催された自由基督教講習会で「自由基督教と独創的精神」、「国際連盟の宗教的基礎」と題して演説。3日、神奈川県愛甲郡在郷軍人会及青年団連合大会で「時局と修養」と題して講演(於厚木中学校)、19日、栃木県太田原中学校創立記念講演会で「世界の変局に処する道」と題して講演。22日、海軍協定講演会で「文明の保姆としての海軍」と題して講演(於神田青年会館)、27日、千葉県銚子商業学校創立十年記念講演会で「国際的日本の過去現在及将来」と題して講演。
- 5月13日、杉森孝次郎等の早稲田大学関係者の歓送迎会に出席(於永楽倶楽部)。17日、『六合雑誌』講演会で「自由主義対過激主義」と題して講演(於神田東京女子音楽学校講堂)。山梨民報・山梨日日新聞・甲斐新聞・山梨毎日新聞および国民新聞・報知新聞・やまと新聞・中央新聞支局の連合記者倶楽部発会式の招聘に応じ「国際連盟と日本将来の文化」と題して講演(山梨県甲府市)、翌18日、帰京。吉野作造とともに台湾人留学生寄宿舎高砂寮を訪問し演説。31日、福井県永平寺で「社会問題」と題して講演。
- 6月1日、福井市立商業学校創立十年記念式で講演、福井県教育会主催講演会で「国際連盟を論じて我国将来の文化に及ぶ」と題して講演。2日、福井県立中学校・武生中学校・武生町立実科高等女学校で講演。5日、黎明会講演会で「人生観上自由保守両派の対立」と題して講演(於神田青年会館)。11日、週刊婦女新聞一千号記念結婚問題講演会で「結婚に対する青年男女の自覚」と題して講演(於神田青年会館)。25日、黎明会朝鮮問題講演に登壇(於神田青年会館)。29日、栃木県真岡町の青年会に臨む。
- 7月9日、早稲田大学亜細亜学生会主催講演会に「亜細亜の宗教と人道主義」と題して講演(於名古屋商業会議所)。12日夜、秋田市制三十年記念講演会に招待され、秋田に赴く。秋田市制三十年記念祭の催しに係る講演会及び同県人の組織無名会の講演会で「国際的文化と文明」と題して講演。14日、秋田市教育会主催の講演会で「創造教育」と題して講演。15日、土崎新報主催講演会で「新思想と教育」と題して講演。16日、秋田市を発ち郷里に向かう。19日朝、帰京。21、22日、早稲田大学中央講習会で「最近世界史の重要人物」と題して講演(於早稲田大学講堂)。24日、沖縄講演のため東京を発つ。25日、山口県岩国町着、錦帯橋見学、夜、「教育改造論」を講演(於物産陳列館楼上)。26日、関門海峡を渡り、門司で友人を訪問、夜、鹿児島に向かう。28日、鹿児島を発ち、沖縄に向かう。30日早暁、台風のため那覇港外に停泊(～8月1日)。
- 8月1日、那覇着。2日、名護に赴く。国頭郡教育会主催講習会で早稲田大学校外教育講師として「創造的教育論」を講演。6日、那覇に戻る。7日、那覇を発ち、9日、鹿児島着。10日、浜松着。11～13日、静岡県磐田郡教育会主催講習会で「デモクラシーの発達とその批判」と題して講演。14～18日、静岡市安倍郡教育会に招かれ「創造的教育論」と題して講演(於安倍郡公会堂)。25日、小山東助の訃報に接す。26日、小山東助仮葬式を司式(島田三郎、吉野作造、永井柳太郎等出席)。
- 9月1日、「友愛会」(会長鈴木文治)第7周年大会(8月30日～)で「大日本労働総同盟友愛会」と改称され、吉野作造、高野岩三郎、森戸辰男、櫛田民蔵、河上肇、佐々木惣一、堀江掃一、北沢新次郎、安部磯雄、今井嘉幸等とともに評議員に就任。
- 10月19日、埼玉県北埼玉倶楽部に招かれ「第二維新論」を講演。31日、東京小石川砲兵工廠の職工による大日本労働者教育会発会式で講演(於小石川礪川小学校)。
- 11月19日、第二高等学校忠愛之友倶楽部に島田三郎等とともに招待され感話会に出席。
- 12月6日、日本統一基督教弘道会主催講演会で、「宗教解釈と民間思想」と題して講演(於神田青年会館)。7日、廓清会主催講演会で、「羅馬東京間大飛行の文化的意義と民間思想」と題して講演(於神田青年会館)。21日、自由基督教会のクリスマス祝会で「最高理想の出現」と題して講話(於神田錦町女子音楽学校楼上)。

### 1920(大正 9)年

- 4月5日、早稲田大学大阪春季校友大会に来賓として出席(於中之島大阪ホテル)。8日、早稲田大学高等予科第一部兼第二部教務主任に就任。19日(～6月25日)、日本統一基督教弘道会を日本自由基督教協会と改め、日本自由基督教協会主催第1回文化講座で「文明史」を講義。
- 5月15～17日、日本女子大学桜楓会の成瀬仁蔵記念を兼ねた講演会で「現代文明に対する婦人の貢献」と題して講演(於京都同志社講堂、大阪中之島公会堂、神戸青年会館)。
- 6月11日、マコーレー博士送別会に出席(於如水会館)。26日、桜楓会岡山支部連会主催生活改善講演会で「生活改造と婦人の活動」と題して講演(於岡山県会議事堂)。
- 7月31日、東京発。
- 8月1日、福井県鯖江着。2～6日、福井県丹生郡教育会主催講習会で「人生学の提唱」と題して講演。7日、

- 帰京。夜、送別講演会で星島二郎、鈴木文治等とともに出席し「現代文明の危機」と題して講演(於本郷追分帝大青年会館)。11日、ボストンで開催される「自由基督教及び他の自由主義宗教者の国際的会議」に日本自由基督教協会・帰一教会を代表して出席するため、横浜を出帆。8月20日、ホノルル寄港、リバー街美以教会で「日本に於ける思想界近状」と題して演説。27日、サンフランシスコ着。28日、サター街基督教青年会で「日本に於ける世界思想の発達」と題して講演。29日、湾東平信徒同盟主催聯合説教で「日本に於ける精神界の近況」と題して講演(オークランド独立教会)。
- 9月2日、ワッソビル着、農園等を視察、華村学園で英語訓話、大和倶楽部主催の晩餐会に臨み、「故国の現状を論じて在米同胞の覚悟に及ぶ」と題して講演(於仏教会堂)。3日、ロサンゼルス着、市内各方面の工場其他を視察、早稲田校友会主催の歓迎晩餐会に臨み、「東西文明調和の可能性」と題して講演(於テンペランスホール)。その後、シカゴを経て、10日までにボストン着の予定。
- 10月中旬、ニューヨークを訪問。30日、修道会百話会で「米国に与へたる日本文明の貢献」と題して講話。
- 11月1日、早稲田大学ニューヨーク校友会に出席。4日、ボストン日本人協会発会式に出席。11日、渡英の途に就く。28日、ロンドン着。

## 1921(大正10)年

- 1月20日、ロンドンで講演。
- 3月30日、香港着。
- 4月1日、広東着。2日、孫文と会見。その後、上海に滞在十二日、十数回の講演会に臨む(日本人クラブでの3回の講演は、上海YMCA前田主事と内山書店店主内山完造の企画による。李人傑を通訳とした復旦大学における「東西文化論」と題する講演は上海の有力新聞に数日に亘って掲載されたという)。内山完造の案内で上海から杭州(一泊して3回講演)を経て、南京に至り、18日、南京国立高等師範学校の招聘に応じ「東西文明の調和」と題して英語講演、19日、引き続き、大講演堂で講演、夜、領事館で在留日本人に対し講演、20日、漢口に向かう。22日、漢口着、夜、中国青年館で「国際連盟の文化的根柢」と題して講演、23日、武昌の文華大学で「人類の一元説と東西文明の淵源」と題して、大学生と中学生との二回に分けて講演、24日、漢口帰着、早稲田校友会および基督教会のために講演、夜、漢口教育会主催の講演会に臨み「東西文明の調和と日本民族の将来」と題して講演(於日本人倶楽部楼上)、25日、漢口婦人会のために「欧米婦人に及ぼしたる大戦の影響」について講演、午後、長沙に向け出発。
- 5月2日、北京着。北京では、見学と演説に忙殺。20日、天津、済南、青島を経て大連着。21日、早稲田大学大連校友会に出席。30日、旅順、湯崗子、鞍山を経て奉天着。奉天では国立高等師範学校・商業学校等で「戦後の世界改造に対し支那及日本の尽すべき義務」、「世界の変局と日米の地位」、「新支那と日本の提携」等について講演。
- 6月2日、早稲田大学奉天校友会に出席。5日、開原、長春、ハルビン、撫順安東を経て、平壤着。14日、早稲田大学京城校友会に出席。30日、京城、仁川、元山、金剛山を見て、釜山から下関着。
- 7月3日、統一教会で「世界を一周して」と題して講演。6日、帰国歓迎会を兼ねた帰一協会例会で「戦後の欧米・支那・朝鮮の眼に映ずる日本」と題して講演(於如水会館)。13日、早稲田大学米沢校友会主催講演会で「戦前戦後の東西文明の比較」と題して講演(於米沢中学校)、山形・新庄でも講演。16日、早稲田大学宮城県校友会主催講演会で「欧州、支那及朝鮮より観たる日本」と題して講演(於県会議事堂)、県下校友学生夏期大会に臨み「支那視察談」(於弥生軒)。
- 8月1日、宮城県塩釜町で講演、2日、古川町古川座、佐沼町小学校で講演。3日、気仙沼町で講演。4日、宮城県校友会出席。4、5日、埼玉県入間郡教育会主催講習会で「大戦後の世界文化の趨勢」と題して講演。7、8日、岡山県浅口郡教友会主催講習会で講演。12~17日、早稲田大学校外教育として、宇都宮市野州新聞社主催日光夏期大学で「人生の提唱」と題して講演(於宇都宮市)、18日、日光夏期大学証書授与式に列席。23~27日、広島県山県郡小学校教員年次練習会主催で講演。
- 9月6日、アメリカの説教家フオスデック博士の講演「人種平等に対するクリスト教徒の態度」を聴く、帰一協会臨時会に出席(於渋沢子爵邸)。15日、早稲田大学教職員等による歓送迎会に出席(於永楽倶楽部)。17日、国際基督教徒連盟主催演説会で「日米関係の将来」について講演。21日、帰一協会例会に出席(於如水会館)。24日、小泉八雲十七回忌の法要を営み(西大久保小泉邸)、雑司ヶ谷に墓参。
- 11月10日、早稲田大学科外講義で「大戦後日本の国際的地位の変動」と題して講演。21日、長野県水上内郡連合青年会秋期総会に招かれ「日米関係の過去現在及将来」と題して講演(於吉田町小学校)。

## 1922(大正11)年

- 2月11日、東京市社会局教育課の婦人講座に、下田歌子、安井哲子、安部磯雄等とともに出席予定(於神田駿河台下中央仏教会館)。19日、故早稲田大学総長大隈重信追悼晩餐会に列席(於永楽倶楽部)。
- 3月17日、帰一協会例会に出席(於如水会館)。
- 春、米国ユニテリアン本部と交渉の結果、統一基督教会を閉鎖、故新井奥達之遺宅謙和舎で集会を開く。
- 5月7日、故大隈総長記念事業に関する用務を帯びて宮城県桃生郡前谷地村を訪問、石巻、仙台で講演会

- に臨む。8日、早大校友会仙台支部事務所に校友有志による午餐会に招かれる。
- 6月7日、栃木県真岡中学校弁論部主催講演会で「二十年後の日本を予想して」と題して、早稲田大学校友会の要請で「世界の大事と国民生活の改造」と題して講演(於真岡小学校講堂)。
- 7月21日、故早稲田大学大隈総長記念夏期講演で、富山県泊町泊小学校で「明治大正の文化と大隈侯に就いて」と題して、魚津町常泉寺で「日本民族の世界的発展と教育の改造」と題して、滑川町中島座で「火星人の生活を想像して」と題して講演、22日、富山文化会主催講演会で「米国に於ける最近の宗教運動」(於富山市総曲輪仏教会堂)、総曲輪小学校で「自然界に於ける人類の位置」と題して講演、23日、小杉町小学校、新湊町高等小学校で、24日、文化講演会で「海と文化」と題して(於氷見高等女学校講堂)、高岡市高等小学校で、25日、出町、福光町小学校、城端町で講演。26日、福井市順化小学校で「日本民族の発展と教育の改造」と題して、27日、勝山町小学校で、大野町小学校で「近代文化と大学の発達」と題して、28日、丸岡町小学校、三国町北小学校で、29日、栗太郡公会堂、武生町小学校で、30日、敦賀郡象閣で講演。夜、帰京の途に就く。
- 8月1日、大隈記念事業の宣伝講演のため、宮城県塩釜町小学校で講演、2日、古川町古川座、佐沼町小学校で講演。3日、気仙沼町鼎座で講演。4日、宮城県校友会大会に出席、夜、川越町に向け仙台を発つ。5日、川越町川越会館で講演。
- 9月8日、帰一協会臨時会に出席(於如水会館)。
- 10月19日、『基督教世界』2030号が、謙和舎宗教文化講座(「近代文化と新人生観」、「価値保有の立場より見たる宗教観」と題する連続講演、10月15、22、29日、11月5、12、19、26日、12月3、10、17日)を伝える。
- 12月10日、東京発。11日、函館着、校友会主催講演会で「現代文化運動の意義及び使命」と題して講演(於市公会堂)。12日午前、庁立高等女学校で「戦後欧米及支那朝鮮の婦人」と題して講演、夜、函館校友会主催歓迎会に臨む、同夜、小牧吉に直行。13日、校友主催の午餐会に招かれ、午後、王子製紙工場を参看、西小学校で北海道の将来について激励講演、引き続き、「人生の根本問題」と題して講演(於公会堂)。14日、札幌着。15日、小樽新聞社を訪問、夕、札幌に帰り同地校友会主催講演会で「現代文化と新人生観」と題して講演。16日、函館から青森に渡る。17日、福島県郡山で樗牛二十周年記念講演会に臨む。18日夜、帰京。
- 大正11年度の早稲田大学第一・第二高等学院で「修身」を担当。

### 1923(大正12)年

- 1月30日、帰一協会例会に出席(於如水会館)。
- 5月28日、第二高等学校忠愛之友倶楽部創立三十年記念講演会で「近代文化と新宇宙観」と題して講演(於仙台市)。
- 6月20日、吉野作造等とともに鼎浦講演会に登壇(神田美土代町青年会館)。
- 10月30日、早稲田大学科外講義で「日本文化史に於ける震災の地位」と題して講演。
- 12月2日、福岡県教育会主催の通俗講演会で福岡、小倉で、3日、同じく、久留米で関東大震災に関する講演。8日、早稲田第一高等学院で開かれた島田三郎追悼会で「政治家としての沼南先生」と題して講演。

### 1924(大正13)年

- 1月28日、帰一協会例会に出席(於帝国大学新築教員会議所)。
- 2月15日、国際聯盟協会早稲田大学支部が設立され支部長に就任。
- 3月30日、第15回総選挙に憲政会から宮城県四区で立候補し、志田郡古川町古川座で立候補演説、憲政会代議士永井柳太郎が応援演説。
- 4月17、18日、吉野作造が応援演説。24日、仙台市仙台座で演説会開催、憲政会加藤総裁の応援。
- 5月10日、第15回総選挙に当選。
- 6月9日、国際聯盟協会慶応義塾学生支部発会式に出席、「日米問題の文化史的背景」と題して講演(於慶応義塾大ホール)。
- 7月18日、第49回帝国国会衆議院「私学振興に関する建議案外三件委員会」で、高等学校令改正に関する建議案に賛成発言。22日、東京発、24日、釜山を経て群山着。25日(～29日)、毎夜、群山教育会主催で、日米問題、世界文化の大勢について講演。27日、群山婦人会で講演、午後、群山日本基督教会で日朝民族の宗教的使命について講演。28日、金州で日米問題について講演、裡里で早大校友会主催の日米問題講演会に臨む。30日(～8月3日)、仁川着、仁川教育会主催の講演会に臨み、日米問題、世界文化の大勢について講演。
- 8月1日、仁川で婦人講演会に臨み講演。2日、京城に赴き、総督府を訪問、斎藤総督等に挨拶、国際聯盟協会支部設置に向け運動着手。夕、仁川に戻る。3日、在郷軍人団総会に臨み講演。4日、京城に投宿、斎藤総督・下岡総監の午餐会に出席、京城府主催講演会で世界文化に対する東洋文化の貢献について



- て講演(於京城公会堂)、早稲田大学京城校友会に出席(於京城ホテル)。5日、国際聯盟協会主催の招待会を開催、会后、協会支部設立の相談会を開く。6日、国際親和会主催で「対外及国内問題としての日米関係」と題して講演(於京城基督教青年会館講堂)。7~9日、大邱着、朝鮮民報社主催の夏季大学に臨む。10日、銀海寺修養団の夏期講習会にのぞみ「帰一の理想」について講話。慶州を経て浦項着、朝鮮民報社主催にて小学校講堂で講演。11日、迎日湾を視察し大邱に戻り、金泉に至り朝鮮民報社主催にて武徳殿で講演。12日、太田着、太田駅鉄道社友会のために日米問題について講演。木浦着。13日(～17日)朝、日米問題の過去・現在・将来について講演。16日夜、一般の木浦府民のために「島国、半島及大陸の文化」について講演。17日夜、光州に至る。18日、全羅道同庁、物産陳列場、高等普通学校、種畜場等を視察、種畜場で演説、夜、小学校講堂で「世界文化と東洋文化との交渉」と題して講演。19日、扶余に赴き古百濟の廢墟を見学し淪山に向かう。20日、太田に戻り、鉄道社友会婦人会に臨み「婦人の文化創造力」について講演、大田釜釜山着。21日、釜山発、下関着。22日、島根県松江着、国際聯盟協会島根支部総会に臨む。総会后、白潟小学校で講演。23日、島根県莊原村、鳥取県倉吉で講演、米子で国際聯盟協会米子支部創立総会に臨み、公会堂の講演会に臨む。24日正午、鳥取県校友会支部総会に臨み、総会後のテーブルスピーチで朝鮮漫遊所感を述べる(於偕老亭)、夜、国際連盟協会鳥取支部臨時総会に臨む。25日、国際連盟協会鳥取支部主催早大校友会支部後援で、昼は「婦人の文化的創造力」と題して、夜は「人類文化の将来」と題して講演(於遷喬小学校)。26日(～30日)、兵庫県丹羽篠山駅着、多紀氷上両郡教育会連合主催の丹羽斯民講座に臨む(於篠山高等女学校)。29日夜、篠山日本基督教会主催の演説会で「国際聯盟の思想的背景」と題して演説。31日、帰京。
- 10月13日、早稲田大学総長高田早苗とともに福岡県中津校友会主催歓迎会に臨み(於志言亭)、「支那動乱の原因及将来」と題して講演(於常春座)。14日、県立中津中学校および福岡県立築上中学校で「我再び青年に返れば」と題して講演。25日、尚志会創立三十年記念祝賀先輩招待講演会で「学都仙台の将来」と題して講演。
- 11月8日、国際連盟協会学生支部全国連合会主催学生大講演会で講演(於上野自治会館)。
- 12月14日、東京市社会教育課主催第1回近代思想問題の講演会で「島国の環境と改造の原理」と題して講演予定(於協調会館)。
- 大正13年度の早稲田大学政治経済学部政治学科・経済学科、同専門部第1学年で文明史を担当。

## 1925(大正14)年

- 2月14日、帝国教育会内女子教育振興委員会が主催する女子高等教育振興演説会で「女子高等教育の文化的意義」と題して講演(於神田青年会館)。19日、第50回帝国議会議院に、賛成者八十余名の連名を以て女子高等教育振興に関する建議案を提出。
- 3月9日、第50回帝国議会議院「教育の機会均等に関する建議案委員会」で国語調査会法制定に関する建議案に賛成意見、10日、衆議院本会議で女子高等教育の振興に関する建議案を説明。16日、「教育の機会均等に関する建議案委員会」で、速記の事項を国定教科書に記載に関する建議案に賛成意見。17日、衆議院「治安警察法中改正法律案外三件委員会」で、女子高等教育の振興に関する建議案の趣旨説明。20日、衆議院本会議で高等試験委員官制改正に関する建議案を説明。23、衆議院「治安警察法中改正法律案外三件委員会」で、婦人参政権に関する建議案について質疑および賛成意見。24日、衆議院「治安警察法中改正法律案外三件委員会」で、治安警察法中改正法律案に賛成意見。25日、衆議院本会議で、著作權法中改正法律案の提出理由説明。「裁判所構成法中改正法律案外一件委員会」で、高等試験委員官制改正に関する建議案の提案趣意を説明、「教育の機会均等に関する建議案委員会」で、東北帝国大学臨時経済研究所設置に関する建議案の趣意説明。
- 5月25日、熊本市着。26日、商工業者の招聘に応じ講話(於商工会議所)、官民有志主催の午餐会に臨み、県立中学商工農学校および師範学校上級生に向けて講話(於武徳殿)、校友の招待会に臨み、一般市民に対する講演会で「理想の公民」と題して講演(市公会堂)。27日、長崎市着、同地校友会主催の歓迎会に臨む。28日、長崎高等商業学校に招かれ「伝統と進歩」と題して講演、少憩市教育会・早大校友会連合主催の思想問題講演会で「理想の公民」と題して講演(於新大工町中島会館)。29日、博多に向け出発。
- 6月11日、早稲田大学社会事業研究会主催、国民新聞・早稲田大学新聞後援の山陰震災地学校復興義捐金募集の学術講演会で日本文化に及せる地震の影響と題して講演(於青山会館大講堂)。
- 8月28日、早稲田大学宮城県校友学生連合大会に出席(於仙台市大町カルトン)。
- この年、早稲田大学科外講義で「内部より観たる第五十議会」、「英国大学生の政治的訓練」と題して講演【『早稲田大学報告』(早稲田学報第376号付録、1926年6月10日)pp.29-30】

## 1926(大正15)年

- 2月10日、第51回帝国議会議院請願委員第四分科委員会で、私立中等学校協会に国庫補助金交付の請願要旨説明。
- 3月17日、衆議院「労働争議調停法案外一件委員会」で、労働争議調停法案について、19日、同委員会で暴力行為等の処罰に関する法律案について発言。25日、衆議院本会議で、著作權法中改正法律案提出理由を説明、出版物法案委員会で政府委員に質疑。

4月30日、上野発。

5月1日、函館着。2日午前、釧路着、午後、根室着、北海道庁立創立二十年祝賀会に臨み、パプテスト教会で講演、根室商業学校長・根室町長・根室早稲田大学校友会主催の歓迎会に臨む。3日、花咲小学校で児童向けの講演、根室高等女学校で「婦人の力」、根室商業学校で「日本文化史に於ける東北及北海道の位置」と題して講演、夜、宮城県人会の歓迎会に臨む。4日、釧路中学校で講演、市外鳥取村富士製紙工場を参観、同社の晩餐会に臨む。夜、市公会堂で「北日本の将来」と題して講演、その後、歓迎会に臨む。5日、釧路築港を見学、春採小学校、釧路高等女学校で講話、アイヌの城跡等を見学。6日、旭川着、下村育英財団を訪問、校友会有志の午餐会に臨む、石狩川渡場等見学、神部代議士の第51議会報告演説会に臨む。7日、滝川中学校で講演、神部代議士の第51議会報告演説会に臨む。8日、札幌着、同庁、北海道大学等を訪問、小樽に向かう。9日、銀行クラブで校友と地方有志の連合歓迎会に臨む、小樽発。11日朝、帰京。13日、早稲田大学科外講義で「第五十一議会と労働立法」と題して講演(於第二十教室)。23日、高田市青年連盟総会の招待で増田義一とともに高田市に赴く。早稲田大学高田校友会に出席後、「新自由主義と社会政策」と題して講演(於大漁座)、春日山神社に詣で、青年連盟の宴会に臨み、当夜帰京の途に就く。

\*5月2日～11日については、「内ヶ崎教授の北海道巡遊」[会報](『早稲田学報』376、1926年6月10日)pp.19-22、参照。『内ヶ崎作三郎の足跡をたどる』282頁では、昭和3(1928)年と誤記。

8月18日、秋田県由利郡校友会発会式に臨み、校友会主催講演会で「東北の政治史論」と題して講演、歓迎会に出席。下旬、青森県下に開催された移動政治夏期大学に講師として招聘、22日、青森市内の早稲田大学校友による慰労懇親の小集会に出席。

9月25日、早稲田大学宮城県校友大会に出席。

## 1927(昭和2)年

1月31日、第52回帝国議会衆議院予算委員第一分科会で対支文化事業について質疑。

2月2日、第52回帝国議会衆議院予算委員第一分科会で、教育行政について質疑。5日、予算委員第六分科会で、鉄道省所管予算について賛成意見、22日、不良住宅地区改良法案委員会で同法案賛成趣旨の発言。

3月11日、第52回帝国議会衆議院本会議で、著作権法中改正法律案提出理由の説明、14日、出版物法案委員会で、著作権法中改正法律案提出の理由を説明、18日、予算委員会で、大蔵省・司法省の政府委員に質疑、23日、請願委員会で、母子扶助法定定の件について紹介議員として発言、24日、義務教育年限延長に関する建議案外三十一件委員会で、ローマ字を小学校教科目中に加ふることに關する法律案について提出者に質疑。

4月28日、早稲田大学科外講義で「第五十二議会の経過及び結果に就いて」と題して講演。

6月2日、立憲民政党政務調査会副会長に就任(～1929年6月)。

7月30日、民政党宮城県支部発会式開催、支部長に就任し挨拶(於仙台市仙台座)。

11月4日、民政党政務調査総会に臨み、教育問題特別調査委員会委員に就任(於本部)。

## 1928(昭和3)年

2月1日、第16回総選挙(第1回普通選挙)に民政党から立候補し、郷里富谷村で選挙運動の第一声。20日、第16回総選挙(第1回普通選挙)に民政党から立候補し当選(宮城県第1区)。

6月3日、民政党政務調査理事会上に出席。29日、帰一協会例会で「治安維持法改正について」講演。

11月3日、早稲田大学総長高田早苗とともに宮城県校友会に臨み挨拶(於仙台市大町カルトン楼上)。

12月26日、文部大臣所管の宗教制度調査会委員に就任(～1929年8月19日)。

## 1929(昭和4)年

2月19、20、23、26日、3月7日、第56回帝国議会衆議院「昭和三年勅令第百二十九号(治安維持法中改正の件)(承諾を求むる件)委員会」で質疑および意見。

3月2、5日、衆議院本会議で治安維持法改正反対意見。16日、衆議院本会議で救護法案について質疑。18日、衆議院「府県制中改正法律案外三件委員会」で、救護法について意見。20日、群馬県桐生市で民政党代議士清水留三郎の第56議会報告演説会の応援。

7月6日、浜口内閣下で内務参与官に就任。

10月、早稲田大学教授並部族学校教授を辞任、政治経済学部・専門部の講師となり、早稲田大学講演部(編輯及講演部の後身)部長を辞任。

### 1930(昭和 5)年

- 2月20日、第17回総選挙に宮城県第一区から立候補し落選。
- 4月、第一早稲田高等学院講師を嘱任。
- 11月1日、民政党宮城県支部大会に臨み、支部長に選出され就任挨拶(於仙台座)。

### 1931(昭和 6)年

- 4月16日、民政党若槻総裁の指名で政務調査会副会長に就任。
- 5月12日、宮城県第一区の補欠選挙で無競争当選が決定。8日、国際聯盟協会(会長石井菊次郎)の評議員に指名され、30日、第7回評議員会で理事に指名される。
- 7月19日、民政党東北北海道大会に出席(於秋田県記念会館)。

### 1932(昭和 7)年

- 2月20日、第18回総選挙に宮城1区から立候補し当選。
  - 3月26日、故井上準之助氏追悼会で演説(於東京一橋学会館)。
  - 6月7日、第62回臨時帝国議会議院本会議で、雪国日本の根本対策に関する建議案に対する賛成演説。  
11日、大阪毎日・東京日日新聞社主催農村急務対策座談会に、有馬頼寧、那須皓、中野正剛、深井英五等とともに出席(於東京会館)。
  - 7月5日、民政党幹部会で青年部設置が決定され、組織立案委員(3名)に指名される。
  - 9月14日、民政党青年部創設、初代部長に就任。25日、民政党山形県支部大会に出席(於米沢市松岬劇場)。  
26日、鶴岡市、酒田市の民政党演説会に登壇。27日、山形市の民政党演説会に登壇。29日、民政党岩手県支部大会に出席(於盛岡市)。30日、前沢町役場を訪問し新国道落成を祝す、昭和国道を視察、一関町着、柵瀬軍之佐追悼民政党演説会に登壇(於一関町小松館)、ついで宮城県気仙沼演説会に登壇。
  - 10月1日、宮城支部総会(於仙台市公会堂)開催、会長として議事進行、役員改選で支部長重任が決定、就任の挨拶。
  - 11月18日、国防協会主催国民大会で長島隆二等とともに登壇(於日比谷公園)。
  - 12月5日、民政党岩手県支部総会に臨む(於盛岡市公会堂)。
- 昭和7年度の早稲田大学政治経済学部政治学科・経済学科第1学年で文明史、専門部政治経済科第1学年で最近日本史、第一高等学院第2学年で修身を担当。

### 1933(昭和 8)年

- 1月、市河三喜、田部隆次等七十余名とともに発行人となって小泉八雲記念会を設立し、記念館建設費の寄付募集を開始。
- 2月18日、第64回臨時帝国議会議院本会議で、地租法中改正法律案提出理由の説明。21、23日、「地租法中改正法律案外四件委員会」で改正賛成意見。
- 3月2日、第64回臨時帝国議会議院建議委員会で、慈善郵便切手発行に関する建議案の趣意説明。9日、決算委員会で、三陸大震災・大海嘯をとりあげ、応急的対策とともに防波堤・防風林等の予防的対策を要請。15日、決算委員会で、通信省所管の簡易生命保険の健康相談所に就いて質疑。15～16日、「震災被害者に対する租税の免除猶予等に関する法律案委員会」で、三陸大海嘯に関連して質疑。16日、本会議で、震災被害者に対する租税の免除猶予等に関する法律案に賛成意見。18日、「医師法中改正法律案外一件委員会」で、医師法中改正法律案および歯科医師法中改正法律案について質疑の上、賛成意見。24日、本会議で、思想対策に関する決議案に賛成演説。
- 5月6日、国体擁護連合会主催の国体擁護共産党討滅国民大会に、土方寧、岩田愛之助、安藤正純等とともに登壇(於芝公園東照宮前広場)。
- 7月31日、岳父平岩愼保告別式に参列し挨拶(於青山学院大講堂)。
- 10月28日、民政党東北・北海道大会に臨む(於仙台市公会堂)。31日、民政党幹部会で東北・北海道大会について報告(於本部)。
- 12月22日、民政党議員総会で総裁から院内総務に指名。

### 1934(昭和 9)年

- 2月14日、第65回帝国議会衆議院「地租法中改正法律案外三件委員会」で、地租法中改正法律案の提出理由を説明。
- 3月7日、第65回帝国議会衆議院請願委員会で、酒田・塩釜に肥料配給所設置の件、東北地方に於ける国有林野整理に関する件、三陸地方に国立水産試験場設置の件、東北地方に国立園芸試験場設置の件、仙台市の工芸指導者に染織部設置の件について紹介議員として請願趣意を説明、25日、衆議院本会議で、国策確立に関する決議案に対して反対演説。
- 4月2日、長男浩一郎、永眠、7日、葬儀(於本郷教会)。
- 11月4日、民政党東北・北海道大会に若槻総裁等とともに出席(於福島市新開座)。18日、民政党宮城県支部総会に臨み支部長に再選、総会後の演説会で冷害恒久策を論じた(於仙台座)。
- 12月4日、第66回帝国議会衆議院建議委員会で、冷害予報調査機関設置に関する建議案の趣旨弁明。

### 1935(昭和 10)年

- 1月20日、民政党総務に就任。
- 3月2日、第67回帝国議会衆議院本会議で、坪内逍遙逝去に対し院議をもって弔辞を贈呈する件について賛成意見。9日、衆議院「府県制中改正法律案外三件委員会」で、選挙に関して自説を開陳。12日、衆議院「建議委員第一分科会」で、愛国郵便切手発行に関する建議案の趣旨弁明。20日、衆議院建議委員会で、仙台古川間鉄道速成に関する建議案、古川一関間鉄道敷設に関する建議案の趣旨説明。
- 6月13日、婦人矯風会風俗部・婦人新報社主催「廃稿の闘士故三宅磐先生を偲ぶ座談会」に、安部磯雄、永井柳太郎等とともに出席(於丸ノ内会館)。
- 8月18日、民政党岩手県支部総会に出席、総会後の演説会で外交政策に関して演説(於公会堂)。
- 9月7日、民政党宮城県支部総会で支部長重任(於仙台座)。
- 11月18日、民政党全国支部長会議第一日(東北・北海道)に出席し、支部の党務報告(於丸の内常磐)。
- 12月1日、民政党岐阜県西濃支部主催の民政党物故者追弔法会に臨み、引き続き、西濃支部主催の総会臨み演説(於大垣市)。

### 1936(昭和 11)年

- 2月20日、第19回総選挙に宮城1区から立候補し当選。
- 4月28日、民政党両院議員評議員連合会で顧問に指名(於上野精養軒)。
- 5月1日、立憲民政党臨時党総務会で政務調査会館館長に総裁から指名。12～14日、第69回帝国議会衆議院東北興業株式会社法案外一件委員会で、東北興業株式会社法案、東北振興電力株式会社法案について質疑、賛成意見。
- 8月6、7日、民政党京都支部講習会で「最近に於ける政局一般並政治思想に就て」と題して講演(於支部楼上)。
- 11月14日、民政党宮城県支部総会で挨拶、引き続き、民政党東北・北海道大会に出席(於仙台座)。
- 12月、院内総務に指名(庶務担当)。25日、『祖国』誌の座談会「帝国議会を語る会」で、大竹貫一、亀井貫一郎、鶴見祐輔、清瀬一郎、浜田国松、田川大吉郎、麻生久、北吟吉等とともに出席(於星ヶ岡茶寮)。

### 1937(昭和 12)年

- 3月11日、第70回帝国議会衆議院「建議委員第二分科会」で、国立劇場建設に関する建議案の趣旨説明。16日、衆議院建議委員会で、私立大学総長学長及教職員優遇に関する建議案、私立大学国庫補助に関する建議案について趣旨説明。25日、衆議院本会議で、帝国議会図書館並議員事務室建設の決議案の趣旨弁明。
- 4月30日、第20回総選挙に宮城1区から立候補し当選。
- 5月7日、民政党新代議士会で総裁指名により総務に就任。8日、立憲民政党総務会に臨む。
- 6月24日、第1次近衛内閣で文部政務次官に就任(1938年5月26日留任)。
- 7月31日、第7回世界教育会議(8月2日～)参加外国代表の歓迎晩餐会に列石(於丸の内東京会館)。
- 8月3、6日、第71回帝国議会衆議院予算委員会で、政府委員として東京オリンピックの指導費、時局に

対する文部省の態度如何等について回答。6日、請願委員会で、小学校正科目にローマ字教授採用の請願について政府委員として回答。

10月17日、国民精神総動員大講演会で「日本精神の発揚」と題して講演。26日、第二高等学校創立五十周年記念式で、政務次官として文部大臣祝辞を代読(於講堂)、記念講演会で講演(於旧講堂)。27日、民政党宮城県支部常議員会に出席、役員改選で支部長留任、同支部における政務調査移動座談会で座長を務め(於精養軒)、皇軍慰問報告国民精神総動員大講演会で講演(於仙台座)。

東北6県の視察旅行(生産力拡充に関して県立工業学校第二部、高等工業学校の職工養成科の視察、男女師範学校の教員と茶話会による師範教育刷新の資料収集)とともに各地で国民精神総動員の演説。

11月1日、英語教授研究大会で講演。11日、JOAK放送で「国民精神総動員と職業指導」と題して講演。

12月6日、文部政務次官として飛行機で石家荘に飛来、前線将兵慰問の後、北平に向ふ。8日、文部大臣所管の宗教制度調査会委員に就任(～1939年1月9日)。

### 1938(昭和13)年

1月19日、早稲田大学科外講義で「支那事変現地を観る」と題して講演。

2月2日、第73回帝国議会衆議院兵役法中改正法律案委員会で、前年の東北6県の視察旅行について政府委員として説明。請願委員第四分科会で、青年学校教育義務制実施に関する請願等について政府委員として回答。23日、請願委員第四分科会で、旭川市に官立高等工業学校建設に関する請願等について政府委員として回答。

3月、早稲田大学専門部政治経済科・第一早稲田高等学院の講師を辞任。2日、第73回帝国議会衆議院「請願委員第四分科会」で、北海道岩見沢町に高等農林学校建設に関する請願等について政府委員として回答。5、7日、衆議院予算委員会で、政府委員として学生生徒の制服統制、在米二世の教育等について回答。11、12日、決算委員会で、夜学教授問題、大日本聯合青年団に対する国庫補助等について、政府委員として回答。17日、建議委員会で、国立太陽観測所設置に関する建議等について、政府委員として回答。18日、請願委員会で、公共図書館費国庫補助法制定に関する請願について政府委員として回答。23日、請願委員会で、神武天皇蹟顕彰に関する請願、私立大学国庫補助に関する請願等について、政府委員として回答。24日、建議委員会で、水上生活者アパート建設に関する建議等について政府委員として回答。

4月30日、「支那の民族性と教化運動」と題して講演(於神田・一ツ橋講堂)。

5月10日、日本貿易協会第154回午餐会で 堅壁清野戦術の対策について講演。22日、海老名弾正先生記念会で「現下の時局と海老名先生」について感話。

6月10日、大日本文明協会創立三十周年・大隈重信生誕百年記念式典に出席。

7月18日、東北学院シュネーダー名誉院長御夫妻帰朝東京支部歓迎会に出席(於軍人会館)。

10月1日、仏教聯合会主催支那開教講習会で「支那に於ける欧米文化の勢力に就て」と題して講演。

### 1939(昭和14)年

3月16日、第74回帝国議会衆議院本会議で、故議員宮沢清作君に対し弔詞贈呈の動議について説明。

4月、早稲田大学専門部政治経済科講師嘱任。27日、民政党幹事長に就任(～1940年4月26日)。

7月6日、民政党主催新興日本国民運動演説会に登壇(於日比谷公会堂)。＝

8月14日、大阪に赴き、立憲民政党移動政務調査経済懇談会に出席(於大阪堂ビル内清交社)、引き続き、大阪商工代表と経済問題を中心とする懇談会に出席(於綿業会館)。30日、立憲民政党政策講習会(～9月1日)に臨み、開会の挨拶(於本部楼上)。

10月23日、立憲民政党宮城県支部総会で支部長留任。

12月11日、『話』誌主催座談会「政党は復活するか」で、清瀬一郎、亀井貫一郎、丸山幹治、植原悦二郎等とともに出席(於芝紅葉館)。22日、立憲民政党議員総会に臨む。25日、第75回帝国議会衆議院本会議で、衆議院副議長就任の挨拶。

### 1940(昭和15)

3月6日、立憲民政党内外総務と懲罰委員との連合会で、内ヶ崎幹事長談の形式を以て、斎藤隆夫除名の決定理由を声明することに決定。

- 4月26日、民政党幹事長を辞任、総務に就任(～8月)。
- 6月4日、立憲民政党幹部会に臨む。
- 8月、早稲田大学専門部政治経済科講師辞任。
- 12月7日、大政翼賛会議会局衆議院部より翼賛会参与を委嘱。20日、政党解消後の議会の円滑な運営のため、院内会派衆議院議員倶楽部が設立、理事に就任。

### 1941(昭和16)年

- 2月10日、第76回帝国議会衆議院請願委員第二分科会で、玄米主食に関する請願について趣旨説明。
- 5月26日、第80回帝国議会衆議院本会議で、衆議院副議長就任の挨拶。
- 6月1日、樗牛を偲ぶ文芸大講演会で「天才樗牛の種々相」と題して講演。
- 9月2日、衆議院院内会派翼賛議員同盟が成立、総務部長に就任。
- 12月11日、早稲田大学科外講義で「対米英戦と其世界史的意義」と題して講演。24日、衆議院議長就任(～1945年6月7日)。

### 1942(昭和17)年

- 4月30日、第21回総選挙(翼賛選挙)に、翼賛政治体制協議会推薦で宮城1区から立候補し当選。
- 5月19日、翼賛議員同盟解散し、22日、翼賛政治会が成立し同会に所属。25日、衆議院副議長に再選。
- 7月10日、『政界往来』誌主催座談会「時代と人物を語る」で、半沢玉城、城戸元亮等とともに出席(於政界往来会館)。

### 1943(昭和18)年

- 10月31日、早稲田大学非常勤講師を解職。
- 11月19日、早稲田大学科外講義で「南方共栄圏の復興建設の現状」と題して講演。

### 1944(昭和19)年

- 12月28日、国民教育振興議員連盟理事会が教育議員連盟と名称変更を決定、理事長永井柳太郎逝去に伴う後任として理事長に推挙される。

### 1945(昭和20)年

- 3月30日、院内会派大日本政治会に所属(9月14日解散)。
- 6月7日、衆議院副議長の辞表提出。
- 9月4日、第88回帝国議会衆議院本会議で、勅語奉答文起草委員長報告。
- 11月24日、日本進歩党結成に参加。
- 12月17日、第89回臨時帝国議会衆議院に教育再建に関する建議案を同僚議員7名とともに提出するが、翌18日、議会解散。

### 1946(昭和21)年

- 2月9日、閣議で公職追放該当者と決定。

### 1947(昭和22)年

- 2月4日、死去。10日、本郷教会で葬儀。